

令和4（2022）年度
事業報告書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

目次

I.	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報.....	1
1	法人の概要.....	1
(1)	事業内容	1
(2)	所在地	1
(3)	教員及び職員の数（令和 5 年 3 月 31 日現在）	1
(4)	沿革	1
(5)	設立に係る根拠法	1
(6)	主管省庁名	1
(7)	組織図（令和 5 年 3 月 31 日現在）	2
2	役員の状況（令和 5 年 3 月 31 日現在）	3
(1)	役員・監事	3
(2)	理事	7
(3)	評議員	17
II.	業務実績報告	19

I. 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報

1 法人の概要

(1) 事業内容

- 1) 沖縄科学技術大学院大学を設置し、これを運営すること。
- 2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康に関する相談その他の援助を行うこと。
- 3) 学園以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の学園以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- 4) 沖縄科学技術大学院大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- 5) 科学技術に関する研究集会の開催その他の研究者の交流を促進するための業務を行うこと。

(2) 所在地

メインキャンパス	沖縄県国頭郡恩納村字谷茶 1919 番地 1
シーサイドハウス	沖縄県国頭郡恩納村字恩納 7542
マリン・サイエンス・ステーション	沖縄県国頭郡恩納村字瀬良垣原 656 番 7

(3) 教員及び職員の数（令和 5 年 3 月 31 日現在）

教員（除、アジャнкт、トランジショナル教授）： 77 人
職員（除、派遣職員）： 901 人

(4) 沿革

平成 23 年 11 月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園設立

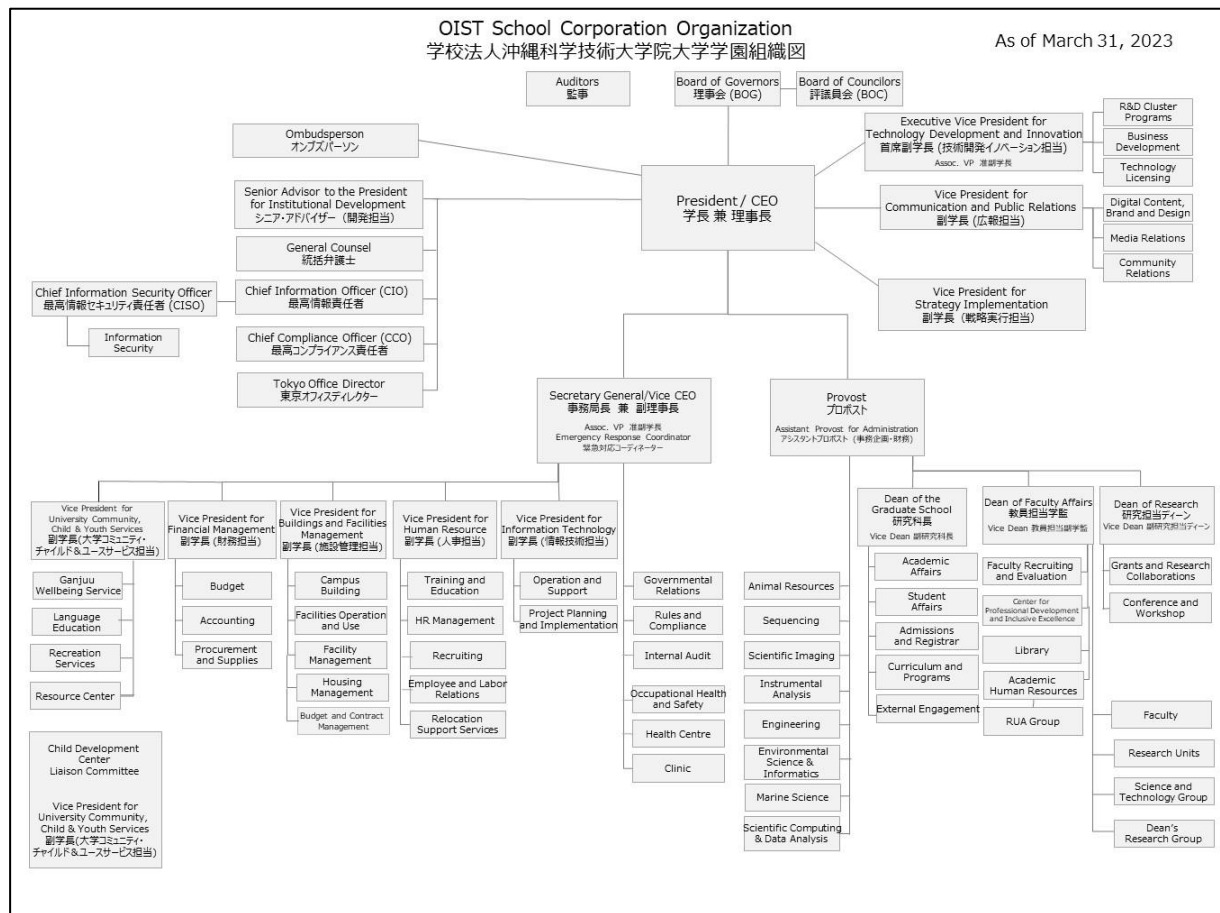
(5) 設立に係る根拠法

沖縄科学技術大学院大学学園法（平成 21 年法律第 76 号）

(6) 主管省庁名

内閣府、文部科学省

(7) 組織図 (令和5年3月31日現在)



2 役員の状況（令和5年3月31日現在）

● 定数

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第5条第1項、第7条、第19条第2項の定めるところによる。

● 任期

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第9条第1項及び第24条第1項の定めるところによる。

● 役員賠償責任保険契約の状況

令和3年2月18日第30回理事会において、役員賠償責任保険（補償対象は訴訟費用及び損害賠償請求等）の更新を全会一致で承認。

（1）役員・監事

役職	氏名	任期	主要経歴	
理事長・学長	ピーター・グルース	2017年 1月1日 ～ 2022年 12月31日 *	1977年 1980年 1982年 1983年 1986年 1990年 1997年 2002年 2017年 1月	博士号取得：ハイデルベルク大学 アメリカ国立衛生研究所（NIH）専門コンサルタント ハイデルベルク大学 微生物学准教授 ハイデルベルク大学分子生物学センター（ZMBH）理事 マックス・プランク生物物理化学研究所（ゲッティンゲン）（分子細胞生物学部）部長 ゲッティンゲン大学名誉教授 マックス・プランク生物物理化学研究所（ゲッティンゲン）所長 マックス・プランク学術振興協会会長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事長 沖縄科学技術大学院大学学長
臨時理事長・臨時学長	アルブレヒト・ワグナー	2022年 12月1日 ～ 2023年 5月31日	1971年 1984年 1991年 1999年 2005年 2006年 2007年	ハイデルベルク大学（ドイツ）博士号（物理学） ハイデルベルク大学教授 ハンブルグ大学教授 ドイツ電子シンクロトロン研究所（DESY）所長 DESY 理事会委員長 TESLA Technology Collaboration Board 委員長 将来加速器国際委員会（ICFA）委員長 ヘルムホルツ協会副会長

			2008 年 2010 年 2011 年 2015 年 10 月 2022 年 12 月	ハンブルグ大学評議委員会委員長 ヨアキム・ヘルツ基金委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員 同 理事長臨時代理兼学長臨時代理 同 臨時理事長兼臨時学長
副理事長 ・事務局 長	加藤 重治	2022 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日*	1980 年 1986 年 1980 年 1991 年 1994 年 1995 年 1995 年 1996 年 1998 年 1999 年 2000 年 2001 年 2002 年 2003 年 2002 年 2004 年 2007 年 2009 年 2011 年 2012 年 2014 年	東京大学工学部卒業 ハーバード大学公共政策学（修士号） 科学技術庁入庁 OECD 日本政府代表部一等書記官 科学技術庁放射線医学総合研究所企画課長 科学技術庁原子力局核燃料課バックエンド推進 室長 国務大臣科学技術庁長官秘書官 科学技術庁長官官房秘書課企画調査官 科学技術庁科学技術政策局調査課長 文部省教育助成局海外子女教育課長 科学技術庁原子力安全局核燃料規制課長 経済産業省原子力安全・保安院核燃料サイクル 規制課長 理化学研究所フロンティア研究推進室長 理化学研究所企画部長 文部科学省科学技術政策局原子力安全課長 内閣府政策統括官（科学技術政策担当）付参事 官（総括担当） 経済産業省原子力安全・保安院審議官（実用発 電炉担当） 文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当） 内閣府大臣官房審議官（原子力安全委員会担 当） 文部科学省国際統括官 理化学研究所理事長特別補佐

			2015 年 2017 年 2018 年 2022 年	国立研究開発法人理化学研究所理事 文部科学省科学技術・学術政策研究所所長 (2017 年 12 月退職) 国立研究開発法人理化学研究所理事 (2022 年 3 月任期満了) 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園 事務局長・副理事長
監事	三浦 健太郎	2020 年 11 月 1 日 ～ 2023 年 10 月 31 日	1989 年 1996 年 1997 年 1998 年 2000 年 2002 年 2004 年 2006 年 2007 年 2008 年 2010 年 2012 年 2013 年 2015 年	総務庁 (内閣府) 入庁 内閣官房内閣内政審議室 (併) 内閣総理大臣官房内政審議室調整企画第 2 担当参事官補 (~1997 年) 内閣総理大臣官房特別基金事業推進室総務担当参事官補 沖縄開発庁総務局企画課課長補佐 総務庁統計局統計基準部統計企画課課長補佐 総務省大臣官房企画課課長補佐 経済産業省大臣官房総務課企画官 (人間生活システム担当) (併) 経済産業省製造産業局デザイン・人間生活システム政策 室長 (~2006 年) 内閣府大臣官房参事官 (総務課担当及び政策評価広報課担当) 内閣府賞勲局審査官 内閣府沖縄総合事務局総務部長 総務省公害等調整委員会事務局審査官 内閣府大臣官房参事官 (総務課担当及び政策評価広報課担当) (併) 内閣官房内閣参事官 (内閣総務官室) (~2013 年) 内閣府大臣官房参事官 (政府広報室担当) (併) 内閣官房内閣参事官 (内閣広報室) (~2014 年) (併) 内閣官房副長官補付 (~2015 年) (併) 内閣官房すべての女性が輝く社会づくり推進室参事官 (~2014 年) 内閣府政策統括官 (沖縄政策担当) 付参事官

			2016 年 2018 年 2020 年	(総括担当) (併) 内閣府大臣官房参事官 (総務課担当) 内閣府国際平和協力本部事務局参事官 内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官 (併) 内閣府大臣官房審議官 (大臣官房及び 共生社会政策担当) (併) 内閣子ども・子育て本部審議官 (併) 内閣府本府成年被後見人等権利制限見 直し担当室室長 (~2019 年) (併) 内閣府大臣官房総合政策推進室副室長 内閣府大臣官房 (併) 沖縄振興局審議官 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事
監事	上原 良幸	2017 年 11 月 1 日 ~ 2023 年 10 月 31 日 *	1973 年 1976 年 1980 年 1983 年 1989 年 1992 年 1995 年 1996 年 2000 年 2002 年 2004 年 2005 年 2009 年 2010 年 2013 年 2016 年 2017 年 2022 年	沖縄県庁入庁 (土木部道路課 主事) 沖縄県庁土木部土木総務課 主事 沖縄県庁企画部企画総務課 主事 沖縄県庁総務部地方課 主査 沖縄県庁商工労働部企業立地対策室 主査 沖縄県総務部財政課 係長 沖縄県庁総務部地方課 課長補佐 沖縄県庁企画部国際都市型形成推進室 副参事 沖縄県庁企画部 参事 沖縄県庁企画部復興開発室長 沖縄県庁企画部参事監兼科学・学術復興室長 沖縄県庁企画部長 沖縄県庁知事公室長 沖縄県副知事 沖縄観光コンベンションビューロー会長 (~ 2015 年) (株) ムーンホテルズアンドリゾーツ会長 (公財) 沖縄協会副会長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事 (株) ムーンホテルズアンドリゾーツ顧問
監事	ジョージ・ クラーク	2020 年 11 月 1 日 ~ 2023 年	1979 年 2000 年	バトル・パシフィック・ノースウェスト国立 研究所基礎科学予算マネージャ、上席内部監査 官等 テネシー大学バトル校首席財務担当官

		10月31日	米国オークリッジ国立研究所担当財務マネジメント部長
		2003年	ハワイ大学天文学研究所事務局長
		2005年	米国国立電波天文台事務局長
		2011年	セントラルワシントン大学業務及び財務担当副学長
		2016年	米国ブルックヘブン国立研究所首席財務担当官
		2020年	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事
		2021年	米国スタンフォード大学 SLAC 国立研究所首席財務担当官

*重任 **再任

(2) 理事

氏名	任期	主要経歴	
チェリー・マレイ	2017年 5月24日 ～ 2023年 5月23日 **	1973年	マサチューセッツ工科大学学士号（物理）
		1978年	マサチューセッツ工科大学（米国）博士号（物理）
		2001年	ルーセントテクノロジー ベル研究所（米国上級副社長（物理科学・ワイヤレス研究担当）
		2004年	ローレンス・リバモア国立研究所（米国カリフォルニア州）科学技術担当副所長
		2007年	ローレンス・リバモア国立研究所科学技術担当プリンシパル・アソシエイト・ディレクター
		2009年	ハーバード大学（米国）工学・応用科学研究科長 ハーバード大学大学院工学・応用科学研究科ジョン A & エリザベス S アームストロングプロフェッサー
		2015年	ハーバード大学大学院工学・応用科学研究科ジョン A & エリザベス S アームストロングプロフェッサー & 物理教授（2015年7月まで）
		2015年	ハーバード大学ベンジャミン・パース技術公共政策学教授／ジョン・A・ポールソン工学・応用化学物理学長室教授（2019年6月まで）
		2015年	米国エネルギー省科学局長（公務遂行のためハーバード大学を一時的に休職）
		2017年 5月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事会議長
		2019年	ハーバード大学ベンジャミン・パース技術公共政策学

		2019 年	名誉教授／ジョン・A・ポールソン工学・応用化学物理学長室名誉教授 アリゾナ大学物理学教授、Biosphere 2 サイエンス・ディレクター
ジェームス・比嘉	2020 年 1 月 1 日 ～ 2025 年 12 月 31 日 *	1981 年 1981 年 1984 年 1989 年 1996 年 2001 年 2012 年 2012 年 2012 年 2013 年 2013 年 2015 年 2018 年 2019 年 2020 年 1 月	スタンフォード大学（米国）学士号（政治学） ヒガ・フォトグラフィー 写真家 アップルコンピュータジャパン株式会社 プロダクトマーケティング／国際マーケティング担当ディレクター NeXT コンピュータ アジア リアルネットワークス社、消費者担当副社長、アジア担当副社長 アップル CEO オフィス シニア・ディレクター 株式会社ローソン イノベーション諮問委員会顧問 フィランソロピック・ベンチャーズ・ファンデーション 事務局長 インデックス・ベンチャーズ メンター・イン・レジデンス Kano Computing インベスターディレクター 株式会社ユニクロ 顧問 Airbnb 顧問 シーメンス 顧問 WorldCover 理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
安仁屋 洋子	2014 年 11 月 1 日 ～ 2023 年 10 月 31 日*	1980 年 1981 年 1983 年 1986 年 1990 年 1994 年 1996 年 2001 年 2002 年	鹿児島大学博士号（医学部） 日本薬理学会評議員 ロチェスター大学メディカルセンター ポストドクトラルフェロー 琉球大学医学部准教授 琉球大学医学部保健学科教授 日本薬物動態学会評議員 日本毒性学会評議員 琉球大学産学官連携推進機構長 琉球大学評議員 琉球大学医学部保健学科長

		2003 年 2007 年 2011 年 2013 年 2014 年 11 月	琉球大学大学院医学研究科教授 琉球大学医学部保健学科教授 琉球大学名誉教授 沖縄科学技術振興センター理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員
カーティス・ カラン	2014 年 11 月 1 日 ～ 2023 年 10 月 31 日*	1964 年 1968 年 1969 年 1972 年 1974 年 1986 年 1989 年 1990 年 1995 年 1998 年 2004 年 2005 年 2008 年 2014 年 11 月	プリンストン大学（米国）博士号（物理学） JASON スタディグループメンバー プリンストン高等研究所長期メンバー プリンストン大学物理学部教授 アメリカ物理学会フェロー プリンストン大学ユージン・ヒギンス・プロフェッサー アメリカ芸術科学アカデミーメンバー 米国科学アカデミー会員 JASON スタディグループ運営委員会委員長 プリンストン大学ジェームス・S・マクドネル物理学 ディスティンディングイッシュトプロフェッサー プリンストン大学物理学部長 ディラック賞（国際理論物理学センター） プリンストン大学理論物理学センターディレクター アメリカ物理学会会長・副会長 プリンストン大学物理学部長 プリンストン高等研究所評議会会員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
モンテ・カセム	2023 年 1 月 1 日 ～ 2025 年 12 月 31 日	1970 年 1976 年 1976 年 1982 年 1985 年 1994 年 2004 年	スリランカ大学自然科学部建築学科 東京大学大学院工学系研究科修士課程都市工学専攻修 士 マレーシアサイنز大学専任講師、大学院設立委員会 事務局長 東京大学大学院工学系研究科博士課程都市工学専攻単 位取得満期退学 国際連合地域開発センター（UNCRD）主任研究員・ 国連専門官 立命館大学教授 立命館アジア太平洋大学学長

		2011 年 2014 年 2015 年 2017 年 2018 年 2021 年 2022 年 2023 年	沖縄科学技術大学院大学評議員 学校法人立命館評議員 学校法人立命館理事補佐 日越大学（VJU）理事 大学院大学至善館学長、理事、教授 公立大学法人国際教養大学 理事長・学長 沖縄科学技術大学院大学 評議員会議長 沖縄科学技術大学院大学 理事
リタ・ コルウェル	2011 年 11 月 1 日 ～ 2023 年 10 月 31 日*	1961 年 1991 年 1998 年 2004 年 2006 年 2007 年 2011 年 11 月 2013 年 2014 年	ワシントン大学（米国）博士号（海洋学） メリーランド大学（米国）生命工学研究所所長 全米科学財団 11 代理事長 国家科学技術会議（米国）共同議長 キャノン US ライフサイエンス（米国）会長・上席副社長 メリーランド大学特別教授 ジョン・ホプキンス大学（米国）公衆衛生大学院特別教授 キャノン US ライフサイエンス（米国）上級顧問名誉会長 科学技術振興機構国際諮問委員 東京大学プレジデント・カウンシル・メンバー 米国生物化学研究所所長 2006 年アメリカ国家科学賞 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 ローザリンド・フランクリン協会会長 シグマ XI ウィリアム・プロクター科学功績賞 一般微生物協会賞
ベン・L・フェ リンハ	2021 年 7 月 1 日 ～ 2024 年 6 月 30 日	1978 年 1984 年 1988 年 2004 年 2004 年 2006 年	ロイヤル・ダッチ・シェル（オランダ・イギリス）リ サーチ・サイエンティスト フローニンゲン大学講師 フローニンゲン大学教授 フローニンゲン大学ヤコブス・ファン・ホッフ分子 科学特別教授（現在に至る） アメリカ芸術科学アカデミー外国人名誉会員 オランダ王立芸術科学アカデミーメンバー

		2008 年	オランダ王立芸術科学アカデミー アカデミー・プロフェッサー
		2010 年	オランダ国立科学財団化学部門長（2016 年まで）
		2011 年	ミュンヘン工科大学高等研究所ハンス・フィッシャー名誉フェロー（現在に至る）
		2011 年	オランダ王立芸術科学アカデミー（KNAW）副会長（2016 年まで）
		2016 年	ノーベル化学賞
		2017 年	華東理工大学（中国、上海）フェリンハ・ノーベル賞科学者共同研究センター共同ディレクター（現在に至る）
		2019 年	欧州研究評議会メンバー
		2021 年 7 月	沖縄科学技術大学院大学学園理事
藤田 浩之	2021 年 5 月 1 日 ～ 2024 年 4 月 30 日	1991 年	オークリッジ国立研究所 個体物理学研究助手（米国）
		1992 年	マンマス・カレッジ 数学・物理学学士号（米国）
		1993 年	ケースウェスタンリザーブ大学 大学院物理学部研究助手（米国）
		1997 年	ピッカーインターナショナル株式会社 磁気共鳴画像診断装置(MRI)部門研究者（米国）
		1998 年	ケースウェスタンリザーブ大学 物理学博士号（米国）
		2000 年	USA Instruments 社 研究開発マネージャー（米国）
		2001 年	ケースウェスタンリザーブ大学 物理学部非常勤准教授（米国）
		2003 年	クイーンズランド大学 情報技術電気工学部非常勤准教授（オーストラリア）
		2003 年	USA Instruments 社 3-テスラ・セグメント・エンジニアリングプログラムマネージャー
		2005 年	ケースウェスタンリザーブ大学 放射線学非常勤准教授（米国）
		2005 年	ケースウェスタンリザーブ大学 MRI・画像物理学所長、上級研究員（米国）
		2005 年	GE ヘルスケア MRI RF コイルエンジニアリング部

		2006 年	長 クオリティー・エレクトロダイナミクス創業者、社長 兼最高経営責任者
		2009 年	ケースウェスタンリザーブ大学 (CWRU) 物理学非常 勤教授 (米国)
		2009 年	クイーンズランド大学情報技術電気工学部非常勤教授 (オーストラリア)
		2011 年	ケースウェスタンリザーブ大学医学部放射線学非常勤 教授 (米国)
		2018 年	在クリーブランド日本国名誉領事 (米国)
		2019 年	キャノンメディカルシステムズ株式会社 CT-MR 事業 統括部最高技術責任者
		2021 年	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
		2022 年	キャノンヘルスケア USA 会長
セナパティ・ ゴパラクリシュ ナン	2017 年 11 月 1 日 ～ 2023 年 10 月 31 日	1977 年	インド工学大学マドラス校 修士号 (物理)
		1979 年	インド工学大学マドラス校 修士号 (コンピューター サイエンス)
		2007 年	インフォシスリミテッド最高経営責任者兼マネージン グ・ディレクター
		2011 年	インフォシスリミテッド副会長
		2014 年	Axilor Ventures 会長
		2016 年	インド国立工学アカデミーフェロー
		2016 年	インド電子通信工学研究所 (IETE) 名誉フェロー
		2017 年 11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
セルジュ・ アロシュ	2015 年 10 月 1 日 ～ 2021 年 9 月 30 日*	1971 年	パリ第 6 大学 (フランス) 博士号 (物理学)
		1975 年	パリ第 6 大学教授
		1981 年	ハーバード大学客員教授
		1984 年	イエール大学非常勤教授
		1991 年	フランス大学院メンバー
		1994 年	高等師範学校 (フランス) 物理学部長
		2001 年	コレージュ・ド・フランス量子物理学教授
		2012 年	コレージュ・ド・フランス学長 ノーベル物理学賞
		2015 年	コレージュ・ド・フランス名誉教授
		2015 年	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事

		10 月	
加藤 重治	2022 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日	1980 年 1986 年 1980 年 1991 年 1994 年 1995 年 1995 年 1996 年 1998 年 1999 年 2000 年 2001 年 2002 年 2003 年 2002 年 2004 年 2007 年 2009 年 2011 年 2012 年 2014 年 2015 年 2017 年 2018 年 2022 年	東京大学工学部卒業 ハーバード大学公共政策学（修士号） 科学技術庁入庁 OECD 日本政府代表部一等書記官 科学技術庁放射線医学総合研究所企画課長 科学技術庁原子力局核燃料課バックエンド推進室長 国務大臣科学技術庁長官秘書官 科学技術庁長官官房秘書課企画調査官 科学技術庁科学技術政策局調査課長 文部省教育助成局海外子女教育課長 科学技術庁原子力安全局核燃料規制課長 経済産業省原子力安全・保安院核燃料サイクル規制課長 理化学研究所フロンティア研究推進室長 理化学研究所企画部長 文部科学省科学技術政策局原子力安全課長 内閣府政策統括官（科学技術政策担当）付参事官（総括担当） 経済産業省原子力安全・保安院審議官（実用発電炉担当） 文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当） 内閣府大臣官房審議官（原子力安全委員会担当） 文部科学省国際統括官 理化学研究所理事長特別補佐 国立研究開発法人理化学研究所理事 文部科学省科学技術・学術政策研究所所長（2017 年 12 月退職） 国立研究開発法人理化学研究所理事（2022 年 3 月任期満了） 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園 副理事長・事務局長
イエスパー・コール	2020 年 7 月 1 日 ～ 2023 年	1989 年 1994 年	SG ウォーバーグ証券ジャパン マネージングディレクター兼チーフエコノミスト JP モルガン証券株式会社 マネージングディレクター兼チーフエコノミスト

	6 月 30 日	1997 年 1999 年 2008 年 2009 年 2015 年 2019 年 2019 年 2020 年 7 月	タイガー・ファンド・インベストメント・マネジメン ト マネージングディレクター メリルリンチ日本証券 マネージングディレクター兼 チーフエコノミスト タンタロン・リサーチ・ジャパン 最高経営責任者 JP モルガン証券株式会社 マネージングディレクター 兼株式調査部長 ウィズダムツリー・ジャパン株式会社 最高経営責任 者 ウィズダムツリー株式会社 シニア・アドバイザー オクターヴ・ジャパン株式会社 マネージングディレ クター（現在に至る） ミズマー・ベンチャーズ アドバイザー（現在に至 る） カタリスト投資顧問株式会社 シニア・グローバル・ アドバイザー（現在に至る） 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
小谷 元子	2014 年 11 月 1 日 ～ 2023 年 10 月 31 日*	1990 年 1993 年 1997 年 1999 年 2001 年 2004 年 2008 年 2011 年 2012 年 2014 年 2014 年 11 月 2020 年 2021 年	東京都立大学理学研究科 博士号（理学） マックス・プランク研究所客員教授 東邦大学理学部助教授 東北大学大学院理学研究科助教授 仏高等科学研究所（IHES）客員教授 東北大学大学院理学研究科教授 東北大学大学院理学研究科ディスティングイッシュト プロフェッサー 東北大学原子分子材料科学高等研究機構副機構長・教 授 東北大学原子分子材料科学高等研究機構長 総合科学技術・イノベーション会議議員（非常勤） 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 東北大学理事・副学長（研究担当） 国際学術会議理事会（次期会長）
ヴィージェイ ラガバン・クリ	2011 年 11 月 1 日	1983 年 1984 年	タタ基礎化学研究所（インド）博士号（分子生物学） カリフォルニア工科大学（米国）リサーチフェロー

シュナスワミ	～ 2023 年 10 月 31 日*	1986 年 1988 年 1998 年 2005 年 2009 年 2011 年 11 月 2012 年 2013 年 2018 年	カリフォルニア工科大学シニア・リサーチフェロー タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター 入所 タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター シニアプロフェッサー兼所長 首相府（インド）科学諮問委員会委員 ハワードヒューズ医学研究所（米国）ジャネリアファ ーム・リサーチ・キャンパス諮問委員会委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 ロンドン王立協会会員 タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター ディステイングィッシュトプロフェッサー インド科学技術省バイオテクノロジー局局长 インド政府主席科学アドバイザー（2022 年 4 月まで）
野依 良治	2018 年 5 月 1 日 ～ 2024 年 4 月 30 日*	1961 年 1963 年 1967 年 1963 年 1968 年 1969 年 1972 年 1997 年 2001 年 2002 年 2003 年 2003 年 7 月 2005 年 2006 年 2015 年 2015 年 6 月 2015 年 7 月	京都大学 学士号 京都大学 修士号 京都大学 博士号（工学） 京都大学工学部助手（1968 年まで） 名古屋大学理学部助教授（1972 年まで） ハーバード大学博士研究員 名古屋大学理学部教授（2003 年まで） 名古屋大学大学院理学研究科長・理学部長（1999 年 まで） ノーベル化学賞 日本化学会会長（2003 年まで） 名古屋大学特任教授（現在に至る） 独立行政法人理化学研究所理事長（2015 年 03 月ま で） 文部科学省科学技術・学術審議会会長（2015 年まで） 教育再生会議座長（2008 年まで） 独立行政法人理化学研究所フェロー（現在に至る） 国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略セン ター長（現在に至る） 公益財団法人日本科学技術振興財団科学技術館長（現 在に至る）

		2018 年 6 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
ピーター・ グルース	2017 年 1 月 1 日 ～ 2022 年 12 月 31 日*	1977 年 1980 年 1982 年 1983 年 1986 年 1990 年 1997 年 2002 年 2017 年 1 月	博士号取得：ハイデルベルク大学 アメリカ国立衛生研究所（NIH）専門コンサル タント ハイデルベルク大学 微生物学准教授 ハイデルベルク大学分子生物学センター（ZMBH）理 事 マックス・プランク生物物理化学研究所（ゲッティン ゲン）（分子細胞生物学部）部長 ゲッティンゲン大学名誉教授 マックス・プランク生物物理化学研究所（ゲッティン ゲン）所長 マックス・プランク学術振興協会会長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事長 沖縄科学技術大学院大学学長
アルブレヒト・ ワグナー	2015 年 10 月 1 日 ～ 2024 年 9 月 30 日*	1971 年 1984 年 1991 年 1999 年 2005 年 2006 年 2007 年 2008 年 2010 年 2011 年 2015 年 10 月	ハイデルベルク大学（ドイツ）博士号（物理学） ハイデルベルク大学教授 ハンブルグ大学教授 ドイツ電子シンクロトロン研究所（DESY）所長 DESY 理事会委員長 TESLA Technology Collaboration Board 委員長 将来加速器国際委員会（ICFA）委員長 ヘルムホルツ協会副会長 ハンブルグ大学評議委員会委員長 ヨアキム・ヘルツ基金委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員 同 理事長臨時代理兼学長臨時代理
吉野 彰	2020 年 11 月 1 日 ～ 2023 年 10 月 31 日	1972 年 1982 年 1992 年 1994 年 1997 年 2001 年 2003 年	旭化成工業株式会社（現 旭化成株式会社）入社 旭化成工業株式会社川崎技術研究所 同 イオン二次電池事業推進部商品開発グループ長 株式会社エイ・ティーバッテリー技術開発担当部長 旭化成工業株式会社（現 旭化成株式会社）イオン二 次電池事業グループ長 旭化成株式会社 電池材料事業開発室 室長 旭化成株式会社グループフェロー

		2005 年	同 吉野研究室室長
		2010 年	技術研究組合 リチウムイオン電池材料評価研究センター理事長（現在）
		2015 年	同 顧問
		2017 年	名城大学大学院理工学研究科教授（現在）
		2017 年	名城大学名誉フェロー（現在）
		2018 年	九州大学グリーンテクノロジー研究教育センター訪問教授（現在）
		2019 年	ノーベル化学賞 九州大学 名誉教授（現在）
		2020 年	国研）産業技術総合研究所フェロー
		2020 年	エネルギー・環境領域 ゼロエミッション国際共同研究センター長（現在）
		2020 年	名城大学 特別名誉教授（現在）
		2020 年 11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事

*重任 **再任

(3) 評議員

氏名	任期	所属
モンテ・カセム	2011 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日*	公立大学法人国際教養大学理事長・学長
ゴヴァース 健二	2020 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日	ベイン・アンド・カンパニー（東京オフィス）シニア・パートナー
安西 祐一郎	2020 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日	日本学術振興会顧問
メアリー・コリンズ	2016 年 2 月 18 日～ 2022 年 9 月 30 日	沖縄科学技術大学院大学 プロボスト
エリック・デシュッター	2018 年 9 月 1 日～ 2022 年 9 月 30 日*	沖縄科学技術大学院大学教授会議長
ラルフ・アイヒラー	2014 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日*	前スイス連邦工科大学チューリッヒ校学長
渕辺 美紀	2020 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日	沖縄経済同友会代表幹事
フレデリック・ギルマン	2011 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日*	カーネギーメロン大学物理学部ブール理論物理学教授 カーネギーメロン大学マクウィリアム・コスモロ

		ジー・センター センター長
ギル・グラノットマ イヤー	2021 年 6 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	沖縄科学技術大学院大学副学長（技術開発イノベ ーション担当）
比嘉 伊作	2021 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	沖縄科学技術大学院大学 財務担当副学長
東 良和	2020 年 5 月 1 日～ 2023 年 4 月 30 日	沖縄ツーリスト 代表取締役会長
平澤 玲	2011 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日*	財団法人未来工学研究所理事長 東京大学名誉教授 北陸先端科学技術大学院大学経営協議会委員
キース・ホジソン	2014 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日*	スタンフォード大学化学部長
菅 大介	2020 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日	チェリオコーポレーション専務取締役
川上 好久	2018 年 1 月 4 日～ 2024 年 1 月 3 日*	沖縄振興開発金融公庫理事長
川崎 達生	2020 年 7 月 1 日～ 2023 年 6 月 30 日	ユニゾン・キャピタル株式会社代表取締役
ナセル・カゼミニ	2017 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日*	ナショナル・エスニック・コーリション・オブ・ オーガニゼーションズ (NECO)
*イエスパー・ コール	2021 年 3 月 1 日～ 2024 年 2 月 29 日	ユニゾン・キャピタル株式会社代表取締役
久能 祐子	2020 年 5 月 1 日～ 2023 年 4 月 30 日	S&R 財団 共同創業者兼最高経営責任者兼理事
桑名 由美	2020 年 11 月 1 日～ 2023 年 4 月 30 日	グローバル・シチズンズ・イニシアチブ創設者兼 代表取締役
クリスティーヌ・ラ スカム	2022 年 9 月 1 日～ 2025 年 8 月 31 日	沖縄科学技術大学院大学 教授会議長
前田 出	2022 年 6 月 1 日～ 2025 年 5 月 31 日	沖縄科学技術大学院大学 人事担当副学長
ファイサル・ マムード	2020 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日	ハーバード大学医学大学院病理学助教授
益戸 正樹	2018 年 1 月 1 日～ 2023 年 12 月 31 日*	内閣府沖縄振興審議会委員 Uiopath 株式会社特別顧問
松本 良	2011 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日*	東京大学名誉教授 明治大学研究知財戦略機構特任教授

長浜 善巳	2015 年 2 月 19 日～ 2023 年 10 月 31 日*	恩納村村長
大嶺 満	2020 年 7 月 1 日～ 2023 年 6 月 30 日	沖縄電力代表取締役会長
ケン・ピーチ	2011 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日*	オックスフォード大学（英国）量子治療癌研究所 名誉教授
ミリンダ・ プロヒッタ	2018 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日*	沖縄科学技術大学院大学教員担当学監
ジェニファー・ ロジャース	2020 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日	アシュリオンジャパン・ホールディングス合同会 社最高顧問弁護士
スコット・ルディセ ル	2021 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	沖縄科学技術大学院大学 施設管理担当副学長
エイミー・シェン	2022 年 10 月 1 日～ 2023 年 9 月 30 日	沖縄科学技術大学院大学 プロボスト
白井 克彦	2011 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日*	早稲田大学名誉顧問 前放送大学学園理事長 前早稲田大学総長 前沖縄振興審議会会長
ウルフ・ スコグラント	2018 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	沖縄科学技術大学院大学研究科長
田中 信明	2014 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日*	元国連本部事務次長 ガイアコンタクト CEO
照屋 義実	2023 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日	沖縄県副知事
山崎 秀雄	2014 年 11 月 1 日～ 2023 年 10 月 31 日*	琉球大学理学部海洋自然科学科生物系教授
ヘザー・ヤング	2021 年 6 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	沖縄科学技術大学院大学副学長（広報担当）
ユルゲン・ ツェルナー	2017 年 5 月 24 日～ 2023 年 5 月 23 日	シュティフトゥング・シャリテ エグゼクティブ・ボード

*理事兼任者

*重任 **再任

II. 業務実績報告

別紙「令和 4（2022）年度業務実績報告」のとおり。

令和 4 (2022) 年度

業 務 実 績 報 告

自 令和 4 (2022) 年 4 月 1 日

至 令和 5 (2023) 年 3 月 31 日

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
--------------------	----	------------------	----------

令和 5 (2023) 年 3 月 31 日

第 1 章 教育研究に関する事項				
1.1 博士課程 目標 (1)	科学分野における世界トップレベルの教員の英知と最先端の研究機器を最大限に活用し、学生に対して傑出した学術プログラム及び研究トレーニングを提供します。			A
1.1 博士課程 取組 (1)	(研究トレーニング) 1101 学生が最先端の科学分野で授業や研究に必要なトレーニングに専念できるよう、授業やメンタリング、研究指導、試験等に関する事務手続を補助し、博士課程において優秀な成績をおさめられるよう支援します。 1102 世界トップレベルの学園外研究者や外部試験官と関わる機会を提供し、博士課程における学生の研究機会 拡大と成果向上を図ります。 1103 学生が十分かつ適切な研究施設や設備の利用と IT サポートを確実に受けられるように調整を図ります。	・ 学生による論文掲載数 ・ 学生による学外の奨学金獲得件数 ・ 論文計画書と学位論文の審査回数 ・ 博士課程修了者数 ・ 教員 1 人あたりの平均学生数 ・ 主要授業科目数	(研究トレーニング) 1101 アカデミックプログラムのあらゆる面で優れたサポートを提供し、継続的に改善を図りました。 1102 世界トップクラスの研究者や試験官と関わる機会を学生に提供し、パンデミック時に必要とされたオンライン形式への移行をスムーズに行いました。 1103 学生へのノートパソコンの個別貸与、IT ハードウェアやネットワークへのアクセス付与など適切な機器や備品を備えた教育環境を提供することで、学生が論文研究を完了させるために必要な研究資源へのアクセスを確保しました。	
	(カリキュラム) 1104 準正課プログラムを含めたカリキュラムの深化・発展に向けて、多様な授業科目の増設を図ります。	・ 主要科目以外の授業科目数 (ナノコース及びキャリア開発のための活動) ・ 学外授業の受講に対する単位付与数	(カリキュラム) 1104 65 の選択科目が提供され、うち 8 科目は新規科目として導入しました。また、13 の自主研究コースや、17 の単位付与オンラインコースを提供し、学生が履修・単位取得できるようにするなど、幅広いカリキュラムを展開しました。また、アナログ回路による実験の実現や比較ゲノム解析などをテーマとした 6 つの無単位のミニコースには、合計 77 人の学生が受講しました。オン	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	1105 オンラインコースを含め、様々な授業形態の導入と支援を推進します。 1106 カリキュラムの見直しを行い、受講時期や内容の最適化を図り、教育の更なる効率化を進めます。 1107 教育リソースの開発と教育・学習への取組を改善することにより、より質の高い学習体験を学生に提供します。	・ リサーチ・インターンの人数	ライン学習プラットフォームへの無料アクセスについても、前年度に引き続き提供しました。 1105 水際対策の緩和により学生の入国が可能となり、授業を従来の対面式に変更しました。本学で提供がないコースについて、外部事業者が提供するオンラインコースで受講できるよう体制を整えました。また、量子テクノロジーに関するオンライン修了証プログラムの開発に向けた取り組みを開始しました。 1106 コース内容及び受講に際し必要となる条件を明確にし、コース概要で説明されている内容が実際の教授内容や評価と一致していることを確認するため、概要の見直し及び改訂を図るプロジェクトを開始しました。コース新設の場合、既存のものと重複やカリキュラムとのギャップが生じないよう事前に審査しました。 1107 教育と教授法に関する資料を定期的にウェブサイトに掲載し、さらに教員が持つ教育に関する疑問や疑問について相談できる体制を整えました。また、学生のための個別能力開発計画（IDP）の策定や、同計画をもとにメンタリングを行う教員にリソースを提供・支援しました。	
	(リサーチ・インターンシップ) 1108 潜在的な研究能力が高い優秀な学生に対して、リサーチ・インターンシップ・プログラムの履修機会を提供します。		(リサーチ・インターンシップ) 1108 水際対策の緩和に伴い、多くの学生にリサーチ・インターン・プログラムの履修機会を提供しました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
1.1 博士課程 目標 (2)	学生個々のニーズを理解し、学修ならびに個人及びプロ フェッショナルとしての成長を複合的にサポートしま す。			
1.1 博士課程 取組 (2)	(学生支援) 1109 学生が学業に専念できるよう、転居手続き、渡航 準備、住居、語学支援、緊急時対応、経済的支援など、 学生のニーズに応じて多様で柔軟な支援を提供します。 1110 学生に安全で健全な環境を提供するため、学生が 抱える問題の早期発見を積極的に推進し、全学的な連 携を円滑に進めるとともに、学生とのコミュニケーショ ン向上を図るなど、包括的な支援体制を講じます。 (プロフェッショナルキャリア開発) 1111 多様なキャリア形成の機会に備え、プロフェッシ ョナルキャリア開発プログラムの提供を通じて学生の 進路選択を支援します。 1112 プロフェッショナルキャリア開発プログラムを 専門的能力開発に関する全学的な取組体制の中に組み 込み、職員及び学生の成長、ひいては沖縄を含めた日本 全体の発展につなげていきます。	・ プロフェッショナ ルキャリア開発に関 する取組の件数とそ の内容 ・ 博士課程学生の定 着率及び卒業までに 必要な時間	(学生支援) 1109 水際対策の変更にあわせ、都度学内のルールや手 続きの変更・調整し、学生へ指導することで転居・渡航 手続きを遅滞なく行いました。また、個別相談や代理申 請、語学支援、生活環境整備等、必要に応じて関係者と の調整を行うことで、困難な状況にある学生に対して支 援を行いました。 1110 相談を通してニーズを把握し、解決策や必要なサ ポートなどを迅速に提供しました。 (プロフェッショナルキャリア開発) 1111 バーチャル・キャリアイベント、企業説明会、県 内の他大学における講義、科学論文のオンライン指導、 助成金申請やビジュアル・コミュニケーションのワーク ショップ、修了生との交流など、学生のキャリア開発の 機会を継続的に提供しました（実施件数：研究科主催イ ベント 31 件、他部門・外部組織主催イベント 23 件）。 1112 プロフェッショナルキャリア開発プログラムと して、がんじゅうサービス（レジリエンスと尊重される 職場）、C-Hub（教育学検定、インクルーシブ・リーダ シップ会議、日米科学コミュニケーション・ポリシーフ	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
1113 キャリアの初期段階にある学生に対して、会議やワークショップの開催、他の研究機関への訪問、キャリアイベントの実施、学園外講演者の招聘を含むネットワーク構築の機会を提供し、若手研究者として活躍できるよう支援します。 1114 学生に対して外部資金獲得等の公募情報を提供し、情報管理、申請書類の書き方、面接対策、申請に関する明確なガイダンスの提供を含む一連の申請手続きを支援します。 1115 学生に対して国内及びグローバル社会の発展に資する研究成果の実用化に必要なスキル習得機会を提供します。 1116 コミュニケーション等の知的スキルを習得・強化するためのトレーニングを学生に提供します。		ェローシップなど)、TDIC（起業家精神）及び研究ユニットと協働し、専門能力開発の機会を提供しました。 1113 当該年度は修了生によるトークイベント（3回）や企業説明会（8回）、各界からの外部講師を招いたイベントなどを開催し、多様なネットワーキングの機会を学生に提供しました。 1114 学生による助成金申請のため、日本学術振興会との情報交換会や、助成金申請書作成のワークショップを開催しました。また、クマ財団クリエイター奨学金への応募を支援し、本学の学生（1名）が奨学金を獲得しました。 添付資料 1.1-1 外部の奨学金等を獲得した学生数 1115 プロフェッショナルキャリア開発プログラムにおける研修（地域社会との関わりを必要とするグループプロジェクト）や、科学者のためのビジュアル・コミュニケーションや動画制作など、具体的な技能を習得するミニコースを通じて、研究成果の実用化に必要なスキルを身に付ける機会を提供しました。 1116 すべての学生に、科学的な論文執筆やその発表のための研修としてオンラインプログラムを提供しました。また、ビジュアル・コミュニケーションと助成金の書き方に関するワークショップも実施し、合計 36 名の学生が参加しました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	1117 沖縄を含む国内の他大学との交流機会（学生交流、ネットワーク構築、教育経験等）を学生に提供します。		1117 学生 10 名が県内の大学において講義を行いました。また、本学は博士人材育成コンソーシアム（CCDP）に加盟しており、国内の他大学の学生とともに遠隔で行われた専門知識やキャリア開発のセミナーやワークショップ等に参加する機会を提供しました。また、ネットワーク構築の機会として、修了生による 3 日間のワークショップや企業説明会（8 回）を開催しました。 添付資料 1.1-2 学術交流協定一覧	
1.1 博士課程 目標 (3)	沖縄、日本、世界との相互利益を促進するために、他の教育機関や地域社会とのさらなる連携・協働を図ります。			
1.1 博士課程 取組 (3)	（学生の連携） 1118 リサーチ・インターンや特別研究学生、共同研究指導、スタディ・リーブ（他教育・研究機関における技術・知識 習得期間）を含めた多様な交流機会を促進し、他大学との協働関係の維持・拡大に努めます。 1119 沖縄県在住の学生や沖縄県にゆかりのある学生に対して学園の知名度向上を図るために、様々なワークショップやイベントを開催し、博士課程及びインターンシップ・プログラムへの応募につなげていきます。	・ 国内外からの博士課程志願者数 ・ 国内外からの博士課程入学数 ・ リサーチ・インターンシップ・プログラム応募者数 ・ 受け入れたリサーチ・インターン生の数 ・ リサーチ・インターンシップから博士課程への進学プログラ	（学生の連携） 1118 水際対策による入国制限解除後、多くの非正規学生（リサーチインターン、特別研究学生を含む）を受け入れ、また正規学生が学外教授から研究指導や教育研究を受けることが可能になりました。他大学との協働関係を維持し、さらに新たな協定を締結することで、より一層の関係拡大に努めました。 1119 沖縄のより多くの学生にアプローチする方法として、県内高校生と交流するための様々な教育プログラムを実施し、本学のリサーチ・インターンシップや博士課程プログラムに関する情報を提供しました。また、沖縄県内の STEM に特化した高校（4 校）を訪問し、本学で行われている様々な研究活動を紹介するとともに、3 つの体験型科学ワークショップも開催しました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
1120 個々の学生が沖縄との結びつきを強め、相互利益関係を強化していけるよう沖縄の環境や地域に密着した交流活動の充実・推進を図ります。 (学生募集活動) 1121 多様なバックグラウンドを有する世界トップクラスの優秀な学生を獲得するため、募集活動の多様化を進めます。博士課程及びリサーチ・インターンシップ・プログラムを提供します。 1122 研究科オフィス主催行事参加者に関する情報を維持管理します。 (科学教育アウトリーチ活動) 1123 学園のブランド力向上を図り情報発信を強化し、大学院大学の教育プログラムに関する認知度を高め、募集対象者の関心を惹きつけます。 1124 独自あるいは外部機関と連携し、地域や全国の STEM 分野に関心のある中高生を対象に、さまざまな	ム応募者数 ・ リサーチ・インターンシップから博士課程への進学プログラムを通じて受け入れた学生の数 ・ 交流機会に係る他大学との協定締結数	1120 プロフェッショナルキャリア開発プログラムにおけるグループ・プロジェクト「沖縄 101 セッション」や新入生を歓迎する「沖縄へようこそ」と題するオリエンテーションを通じて、学生が沖縄のコミュニティと関わる機会を提供しました。また、SDGs の取組を通じて恩納村や沖縄県と連携する機会を設けました。 (学生募集活動) 1121 世界各地で様々なキャリアを歩んでいる修了生のインタビュー動画を撮影・入学案内ウェブサイト公開し、入学希望者に向け本学の魅力をアピールできるよう努めました。また、オンライン大学説明会「OIST Net Cafe」(5 回) や対面式の説明会を開催し、学生や修了生と交流機会を提供しました。 添付資料 1.1-3 学生に関する情報 1122 学生募集活動に係る各イベントの参加者情報を維持し管理しました。 (科学教育アウトリーチ活動) 1123 沖縄県内外の高校生を対象として行った「学校訪問プログラム」の情報や、科学教育ワークショップ「HiSci Lab」や「SHIMA」の情報をオンラインで公開し、さらに動画や写真をデジタルプラットフォームで共有することでプログラムの認知度の向上に努めました。 1124 当該年度は、全国のスーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) 12 校、1000 名以上の訪問を受け入れ、	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	科学教室やワークショップなどの活動を行います。 1125 科学教育アウトリーチ活動を通じて、コミュニケーションや情報共有を強化することにより、中高生の OIST の活動への参画を強化します。		各校からの要望をもとに科学教室やワークショップなどを提供しました。 1125 沖縄県内外の高校生に向け、より多くの情報や機会を提供するため LINE アカウントを作成し、ワークショップを含む様々なイベント情報を投稿することで本学の認知度向上に努めました。)	
1.1 博士課程 目標 (4)	大学院大学の成長に合わせて、研究科オフィス機能の業務効率化、記録・方針のキュレーション (情報収集・整理)、コミュニケーションの改善を一貫して行います。			
1.1 博士課程 取組 (4)	(方針・プロセス管理) 1126 学園内の方針、規則、及び手順の改定を恒常的にを行い、教員や学生と協力しながら博士課程の運営における効率性と有効性の向上を図ります。 1127 規則・制度等の変更について、その管理と内外に向けた伝達の改善を図ります。 1128 学生に関する情報記録管理体制の改善と、縦断的データの集約・分析・可視化を推進します。	・学生及び教員とのミーティング件数とその内容	(方針・プロセス管理) 1126 教員・研究科間連絡員会、教授会、カリキュラム・審査委員会、学生委員会など関連する教員や学生団体組織と協力して、方針や規則の見直しと改訂を行いました。 1127 規則・制度等の変更について、各事項に係る関係者が事前に最新情報や説明を受けられるようにしました。 1128 学生データベースシステムプロジェクトについては、本学の構造・構成の特殊性に見合ったシステムの開発及び構築が困難を極めたため、当初の開発計画を変更せざるを得ず、部分的なシステム導入を余儀なくされました。他方、別のソフトウェアパッケージとの組み合わせにより縦断的データの集約・分析・可視化及び業務の効率化を図りました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価
	(業務効率化とプロセスの再構築) 1129 ワークフローとプロセスの再編及び関連ソフトウェアの導入により、業務の効率・能率向上を目指します。 1130 個々の職員の能力開発計画を策定し、専門的な能力開発や自己成長のための研修、その他の機会を提供し、職員の成長を支援します。		(業務効率化とプロセスの再構築) 1129 (1128 再掲) 学生データベースシステムプロジェクトについては、本学の構造・構成の特殊性に見合ったシステムの開発及び構築が困難を極めたため、当初の開発計画を変更せざるを得ず、部分的なシステム導入を余儀なくされました。他方、別のソフトウェアパッケージとの組み合わせにより縦断的データの集約・分析・可視化及び業務の効率化を図りました。 1130 研究科の職員は、就業時間の最大 5% を能力開発に費やすことが奨励されました。	
	(コミュニケーション) 1131 相互理解の促進ならびにサービスの質向上に向け、学生、教職員、及び関係部局間の柔軟なコミュニケーションの継続的な促進を図ります。 1132 研究科オフィスのウェブサイト充実させ、入学希望者や学外に向けた情報発信力の強化を図ります。		(コミュニケーション) 1131 博士課程 1 年目の学生を対象に、博士論文研究を行うための研究ユニットの選択に関する説明会を開催しました。また、リサーチ・インターンを対象としたオリエンテーションを毎月開催し、日本の法律や学生規範などを説明し、滞在中の規律の確認を行いました。学生データベースを新しいプラットフォームに移行し、学業進捗のナビゲーションを強化するとともに、教職員と学生間のコミュニケーションの促進に取り組みました。 1132 入学案内のウェブサイトにて、学生募集に関するイベント「OIST カフェ」や「サイエンスチャレンジ・ワークショップ」の情報や、出願締切日や入学手続き、カリキュラムの構成変更に関する情報について適時更	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価
			新しました。	
1.2 研究活動に関する事項 目標	世界最高水準の学際的な研究を推進します。基礎研究を通じて、新たな知見を追求することに尽力します。また、様々な国や地域から集まった学生に対し教育訓練を実施します。相互の連携を促す環境の整備、最先端の設備・機器の提供、ならびに定期的な実施される厳格な研究評価制度等により、優秀な教員や学生、研究員を奨励し、高いモチベーションを維持するよう支援します。基礎研究から生まれる発見こそが最も大きな貢献に繋がると確信し、引き続き、社会のニーズに応え、それに相応しい取組を展開するよう努めます。			A
1.2 研究活動に関する事項 取組	(学際的研究の促進) 1201 新規ユニット立ち上げを支援します。 1202 教員のジェンダーバランスを改善するために、女性教員の採用に取り組みます。 1203 教員による昼食時間を利用した講義により、異なる分野のユニット間の交流を促進し学際的な研究につなげます。 1204 図書館は電子リソースを積極的に収集し、必要なコンテンツにリモートアクセスできるようにすると	- 研究者の数(教員、ポスドク、技術者及び学生) - 研究評価に関するサンフランシスコ宣言 (DORA) に基づく内部質保証の基準による研究成果の評価 - 複数教員による共同出版数 - 研究に関する受賞数 - 研究助成金の獲得	(学際的研究の促進) 1201 ユニットの立ち上げにかかる手順を見直し、教員候補者が要求する研究リソースについて複数部署で調査を行うなど新しいプロセスを導入しました。 1202 ファカルティ・サーチ・コミッティーは、多様性向上等に資する研修への参加を通じ、ジェンダーバランスの改善に努めた結果、当該年度は応募段階で 22% (253 名中 55 名)、面接の段階で 31% (13 名中 4 名) が女性教員候補者となりました。 1203 当該講義を 9 回開催しました。新規採用教員、サイエンス・テクノロジー・アソシエイトによる講義を開催し、学際的な交流を促進しました。 1204 世界最大の書誌データベースと国内の図書館システムを連携し、利用者に検索ツールと貸出サービスを	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価
もに、学術情報を効率的に検索するためのインフラを整備します。 1205 ウェブ公表の際に専門分野やプロジェクト等にタグを付すりサーチタグを実施し、学園内及び学園外との共同研究の促進を図ります。 1206 国内の他大学との共同研究の強化と、本学園では補えない研究分野の学生の指導向上を目的として、他大学連携教員による授業や学生指導を開始します。 (研究活動の支援) 1207 コアファシリティ（共用研究施設）の効率的な運用や専門的な人材の育成に努め、研究者が世界最高水準の学際的な研究を推進できるよう、その利用促進に努めます。 1208 第 5 研究棟内のコアファシリティの整備を開始します。	数と金額 ・ 学園研究施設の学園外利用者数と金額 ・ 研究支援ディビジョン、プロボストオフィス及び研究担当ディーンオフィスが主催した科学会議の数(回数、参加者数) ・ 研究支援ディビジョンがコアファシリティを使用して行った共同研究の数(数、訪問者数) ・ 研究支援ディビジョンがコアファシリティを使用して、学園外の研究者・学生に実施したトレーニングコースの数(数、参加者数)	提供しました。自動貸出機を IC カードリーダー読み取り式へ変更しました。電子リソースの充実にも力を入れ、新規ジャーナル 52 誌を含む電子ジャーナル 7,211 誌、電子書籍 154,769 冊のアクセスを実現しました。また、本学の成果物のオープンアクセス出版を加速できるよう学内の体制を整理しました。 1205 ほぼ全ての研究ユニットがリサーチタグプロジェクトに参加し、タグ情報を学内で共有しました。共同研究希望者や入学希望者などが、研究分野についてより簡単に知ることができるため、共同研究や学生の配置がよりスムーズになります。 1206 理化学研究所の天体ビックバン研究室の主任研究員である長瀧重博先生が連携教員として就任しました。 (研究活動の支援) 1207 コアファシリティディレクターと各コアファシリティのセクションリーダーとの協働および当該メンバーへの助言を通して、コアファシリティ（共用研究施設）の効率的な運用や専門的な人材の育成に努め、研究者が世界最高水準の学際的な研究を推進できるよう、その利用促進に努めました。 1208 第 5 研究棟内の実験動物施設を中心にコアファシリティの整備を開始しました。 施設の安全かつ効率的な運営の基盤となる装置の購入	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
1209 研究倫理のさらなる向上に向け、研究倫理に関する専門家を招聘し、研究倫理セミナーを開催するなど、研究倫理教育の徹底に努めます。 1210 教員、研究者、学生への外部研究資金申請・管理に関する支援を強化し、公募情報についても継続して情報入手、学園内に配信します。また、共同研究を促進するための支援プログラムを提供します。 1211 コアファシリティの学園外利用を促進し、外部資金の多様化を図る他、国内外のコアファシリティネットワークを強化します。		を会計年度を跨いでできるよう、自己財源の確保を行いました。 1209 すべての研究員に対し、オンライン研修「責任ある研究行為」を受講必須とし提供、その他ワークショップを開催するなどし、研究倫理教育の徹底に努めました。 1210 共同研究を促進する学内研究助成金 SHINKA の新規公募及び Kicks の継続課題に対する支援を行いました。 1211 コアファシリティの学園外利用を促進し、外部資金の多様化を図った他、コアファシリティに関する情報を他機関と共有し、ネットワークを強化しました。 添付資料 1.2-1 令和 4 年度 OIST 研究施設学外利用者	
(研究内容・成果の発信・公表) 1212 教員が重要かつ新しい研究結果を発表した場合、学園の広報ディビジョンに連絡するよう教員に勧めます。文部科学省を含む政府機関への提出資料を含め、最も重要な学園の研究成果については、ネイチャーインデックスや同様の比較研究データを用いて記録をまとめます。ウェブサイトにて学術誌に発表された論文に関するニュースを掲載します。また機関レポジトリへの論文登録にも力を入れます。		(研究内容・成果の発信・公表) 1212 研究内容や成果の発信に取り組みました。機関レポジトリは、研究成果を世界へ発信するための主要な手段であり、レポジトリへの論文登録を促進しました。各研究ユニットのウェブサイトで、研究成果を含む年次報告書を公表しています。 添付資料 1.2-2 OIST 論文・発表数	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価
1213 学園について、ウェブサイト記事、プレスリリース、記者会見、記者懇談会、出版物や電子ニュースレター、ソーシャルメディア、幹部によるコミュニケーションや注目を引くような情報発信の機会等を活用して、国内外の科学学術関係者、一般への分かりやすい情報発信に努めます。 - 効果的なメディア戦略の実施で国内外の主要メディアでの露出を増やします。最新の科学成果に関するプレスリリースや記事、幅広い層が関心を持つ活動について、記者クラブ、及び主要なリリース配信会社といった既存のルートを通じて沖縄県内や国内外のメディアに向けて配信します。 - 日本の他学術機関と協力してグローバルなネットワークを維持し、国内外の科学広報分野での貢献を高めます。 - ソーシャルメディアやその他のデジタルチャネルを引き続き強化していきます。 1214 学内の教職員及び学生が、学園の促進及び関与の成功に貢献でき、進捗状況、課題、達成状況についても十分に説明を受けることができるよう、学内のコミュニケーションを強化していきます。		1213 研究成果、教育、イノベーションに関する情報を、ウェブサイト、プレスリリース、記者イベントやメール配信、ソーシャルメディア等様々な方法で発信しました。一例として、158 本のニュース記事を執筆・発信、12 回の記者会見（対面式とオンライン式、またハイブリッド形式を含む）を開催し、その他のイベントにも積極的にメディアを招待しました。さらに、報道機関と 60 回のミーティングを行い、120 回のメディアインタビューを実施するなど、ネットワークの拡充に努めました。当該年度は、スバンテ・ペーボ教授のノーベル賞生理学・医学賞受賞を受け、迅速な情報発信を行い、公開講座や記者会見など広報活動を積極的行いました。また、影響力のある人物や報道機関に取り上げられるよう企画し、NHK ニュースウォッチ 9、テレビ東京ワールドビジネスサテライト（池上彰氏）、日本経済新聞、週刊文春（阿川佐和子氏）などで報道されました。 国内外の科学コミュニケーターを対象としたイベント「Japan ScieCom Forum」の主催、国内の研究機関や大学の広報担当者で構成される「科学技術広報研究会」への参画、また国連総会にあわせてニューヨークで開催された「科学サミット」に日本から初めて参画し、国連日本政府代表部、国連機関、国際的な他大学等、ネットワークの拡充に努めました。 1214 OIST ティータイムの再開や、新しく着任した学内コミュニケーションリードによる学内記事の作成支援などにより、内部のコミュニケーションの取り方を工夫し、教職員及び学生に対して広く情報を共有するよう	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価
	1215 学術的地位をより強固なものとするために、国内外の研究者などとの遠隔会議やセミナー等を円滑に遂行し、教職員及び学生に対して充実した技術支援と適切なマニュアル及びトレーニングを提供します。		努めました。 1215 当該年度後半よりハイブリッドセミナー（オンサイト及びオンライン同時開催）が多くあり、ライブ配信やオンラインセミナー開催を支援するとともに、必要に応じて主催者への事前トレーニングを提供しました。また、昨年度に引き続き仮想空間でのコミュニケーションを促進するオンラインイベントに関するツールや機能を提供しました。	
1.3 教員関係 目標	卓越した学識と独創性のある研究を行い、学際的な研究に興味を持つ優れた能力を有する、全てのレベルの教員の採用活動を行います。また、教員評価、教員関連のミーティング、研究ユニットのスペース配分、研究者の採用や人事管理を行います。更に、教員や研究員のキャリアデベロップメントやビジタープログラムなど、卓越した研究基盤強化のための活動を推進します。大学図書館、及びその他教員や研究員に関連する事項も推進します。また、全職員にキャリア開発プログラムを提供するとともに、学園内の全研究データの適切な記録・管理の徹底に取り組みます。			A
1.3 教員関係 取組	（教員の採用） 1301 予算と研究スペースを考慮しながら戦略的な採用活動を行います。	- 研究評価を実施した研究ユニット数 - テニュア審査及び昇進審査の数 - 機関レポジトリへの論文登録数	（教員の採用） 1301 予算と研究スペースについて調査を実施し、その結果を考慮しながら戦略的な採用活動を行いました。	
	（教員・研究評価の実施） 1302 雇用契約の交渉又は任用された教員が対象となる新テニュア審査を、国際的に高い水準において実施します。		（教員・研究評価の実施） 1302 国際的に高い水準において、外部評価者による教員評価を行いました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
1303 5名の教員がテニユア審査、2の教員が昇進審査を受ける予定です。 1304 7つの研究ユニットが研究ユニット審査を受ける予定にしています。 1305 業績評価は、教員担当学監（必要であればプロボスト）が教員の研究、教育活動、大学行政サービスへの貢献、また外部資金の獲得などの項目について評価を行い、給与及びその他のリソースに反映させます。ただし（大学としての総計値とは異なり）、教員の個人的業績評価は学園外には公表されません。さらに教員が研究結果や研究活動について、ウェブサイトや年次報告書に掲載するよう、教員に働きかけます。		1303 当該年度に、5件のテニユア審査が開始され、うち4件は年度内に完了、1件は進行中です。また、昇進審査を4件開始し、3件は完了、1件は進行中です。 1304 7件の研究ユニット審査が行われました。 1305 専任教員を対象に、年間業績評価を実施しました。教員の研究、教育活動、大学行政への貢献、外部資金の獲得などの項目について評価を行いました。また、研究事業に投じられた公費について、国民に対する説明責任を果たす観点から、各ユニットの年次報告書の更新状況や機関レポジトリへの論文登録数（オープンアクセス率）、研究データのアーカイブ状況についても評価を行いました。また、責任ある研究行為に関しての研修履修状況の確認を行いました。 添付資料 1.3-1 令和4年度研究に関する受賞実績 添付資料 1.3-2 令和4年度アウトリーチ活動実績	
（研究成果レポート） 1306 オープンアクセス推進の取り組みを強化し、機関レポジトリへの登録論文数の増加を図ります。		（研究成果レポート） 1306 本学の機関リポジトリ（OISTIR）に当該年度に公開された論文は270件、総数1,938件でした。成果物のオープンアクセス率は毎年90%台の維持を保っており、研究成果を積極的に発信しています。OISTIRに登録された論文のダウンロード件数は152,135件でした。	
（シニアレベルの教員の任用と定年） 1307 定年を超えても研究延長に相応しいと認められ、		（シニアレベルの教員の任用と定年） 1307 当該年度は、定年に近い教員1名の研究ユニット	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	かつ学長から申し出があった教員は厳格な審査を経て、研究の継続を検討します。		について厳格な審査を行い、その結果、優秀な評価を収め、研究を 5 年延長することが認められました。	
	(教員の能力開発) 1308 学園内の能力開発とキャリア支援を一元的に行う C ハブ (キャリアセンター) では、教員に研修プログラム、ワークショップ、リソース、個別カウンセリングを提供し、リーダーシップや管理能力、メンタリング、コミュニケーション、コラボレーション等の強化に取り組みます。		(教員の能力開発) 1308 OIST コミュニティ全体および他大学等の外部参加者を対象としたワークショップ、プログラム、イベントを企画・発表しました。延べ 214 人の教員、346 人の学生、280 人の研究者、515 人の事務職員にサービスを提供しました。	
	(学生・研究員・事務職員の能力開発) 1309 C ハブでは、教員のほかに、学生、研究員、事務職員の能力開発に取り組むため、リーダーシップ、管理能力、その他のスキル開発のための研修プログラムを提供します。		(学生・研究員・事務職員の能力開発) 1309 インクルーシブ・リーダーシップ・シンポジウムを開催し、本学内外から 137 名の参加がありました。教職員及び学生向けのピア・メンタリング・プログラムを提供しました。	
	(アルumniネットワーク (OAAN)) 1310 OIST アルムナイ・アソシエーションネットワーク (OAAN) を確立し、本学の卒業生や関係者とのつながりを維持しながら、同窓生のネットワーク作りや能力開発の向上に取り組みます。		(アルumniネットワーク (OAAN)) 1310 OIST アルムナイ・アソシエーションネットワークを確立し、本学の修了生や関係者とのつながりを維持するとともに、研究者や学生と交流できるよう取り組みました。専門能力を開発するための企画やメンタリング・プログラムの提供に向け、研修や交流イベントに向けたコンテンツを開発しました。	
1.4 世界的連携 目標	他大学や研究機関との合同シンポジウムやワークショップの開催、インターンの受け入れ等を通じて、世界および国内の科学コミュニティとの緊密なネットワークを構築します。先端的な基礎研究及び最優秀の科学者を			A

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	育成することで 社会向上を目指す研究大学院大学として国際的な知名度の向上を目指します。			
1.4 世界的連携 取組	(世界的連携) 1401 沖縄を含む国内の他大学との交流機会（学生交流、ネットワーク構築、教育経験等）を学生に提供します。 1402 また、ネットワーク強化のための活動に重点的に取り組みます。	・ 本学が主催する国際ワークショップ及びコースの数 (14) ・ 国際ワークショップ及びコースの参加者からの感想・フィードバック ・ 国際的に競争力のある大学、研究機関との間で取組んだ新たなパートナーシッププログラムの数及び既存プログラムの拡大数 - RIKEN：シンポジウム 1 件、連携教員 1 名 - 東京大学：オンライン・オンサイトハイブリッドのセミナー／ワークショップ 1 件 - 東北大学：オンライン・オンサイトハ	(世界的連携) 1401 (1117 再掲) 学生 10 名が県内の大学において講義を行いました。また、本学は博士人材育成コンソーシアム (CCDP) に加盟しており、国内の他大学の学生とともに遠隔で行われた専門知識やキャリア開発のセミナーやワークショップ等に参加する機会を提供しました。また、ネットワーク構築の機会として、修了生による 3 日間のワークショップや企業説明会 (8 回) を開催しました。 1402 下記パートナーとのワークショップ・セミナー、リサーチ・インターンシップ、サマーキャンプの企画・実行に取り組み、学生や若手研究者のネットワークの機会をオンライン・オンサイトで提供することに取り組みました。セミナーはシリーズ化することで若手研究者による研究発表の機会を拡張しました。 - 理研：シンポジウム 1 件 (ハイブリッド- 理研 x 広島大学)、連携教員 1 名、国際シンポジウム 1 件 (オンサイト-東京大学 x 理研) - 東京大学：バイラテラルセミナー 2 件 (オンライン)、国際シンポジウム 1 件 (オンサイト-東京大学 x 理研) - 大阪大学：セミナー 1 件 (オンサイト)、バイラテラルセミナー 2 件 (オンライン) - 慶應義塾大学：バイラテラルセミナー 3 件 (オンライン 2 件、オンサイト 1 件) 医学部生サマーキャン	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価
	1403 世界をリードする質の高い国際的なコースやワークショップを開催し、学園の学生や若手研究者が最先端の科学を学び、外部の優れた研究者と交流する機会を提供します。 1404 潜在的な研究能力が高い優秀な学生に対して、リサーチ・インターンシップ・プログラムの履修機会を提供します。 1405 学生が学業に専念できるよう、転居手続き、渡航準備、住居、語学支援、緊急時対応、経済的支援など、学生のニーズに応じて多様で柔軟な支援を提供します。	イブリッドのセミナー／ワークショップ 1 件 ・大阪大学：オンライン・オンサイトハイブリッドのセミナー／ワークショップ 1 件	プ 18 名参加、短期リサーチ・インターンシップ 3 名 ・東北大学：シンポジウム 2 件（ハイブリッド） ・京都大学：シンポジウム 1 件（ハイブリッド） 1403 COVID-19 の影響により 3 件のワークショップ・ミニシンポジウムが中止又は延期になった一方、年度後半の渡航制限の緩和に伴いオンライン又はハイブリッド形式で 11 件、対面で 4 件のワークショップ・ミニシンポジウムを開催することができ、対面で 703 名、オンラインで 1,041 名の参加者がありました。 添付資料 1.4-1 OIST 主催によるワークショップ・ミニシンポジウム 1404 （1108 再掲）水際対策の緩和に伴い、多くの学生にリサーチ・インターン・プログラムの履修機会を提供しました。 1405 （1109 再掲）水際対策の変更にあわせ、都度学内のルールや手続きの変更・調整し、学生へ指導することで転居・渡航手続きを遅滞なく行いました。また、個別相談や代理申請、語学支援、生活環境整備等、必要に応じて関係者との調整を行うことで、困難な状況にある学生に対して支援を行いました。	
第 2 章 ガバナンス及び業務運営の透明性・効率性に関する事項				
2.1 ガバナンス及び業務運営体	学園では、国内法人の伝統的な在り方とは異なり、学園法及び学園の寄附行為に基づき、学外理事を中心として理事会を構成しています。このような理事会は、学園及			A

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
制 目標 (1)	び大学院大学の業務運営に関し、最終的な責任を負います。また、評議員会は、地域社会の声を含め、幅広い意見を学園及び大学院大学の業務運営に反映させます。これらの二つの合議体が、法令及び学園の寄附行為に基づき、学園における透明で効果的なガバナンスを確保するために重要な役割を担います。これに対し、理事長・学長は、事業計画の実施についてリーダーシップを発揮し、理事会及び評議員会に対し説明責任を果たします。このように、理事会及び評議員会と理事長・学長との間の関係を適切に保つことによって、特色あるガバナンスを実現します。学園の寄附行為や PRP と、その他関連する法律と規則との一貫性を保ちます。また、学園の監事は業務運営の適切性・効率性が確保されるよう、海外の優れた事例との比較も取り入れ、厳格な監査を行います。			
2.1 ガバナンス及び業務運営体制 取組 (1)	(基本的な運営) 2101 定例の理事会を 5 月、9 月・10 月、2 月に、定例の評議員会を 5 月・2 月に開催します。5 月の理事会においては、前年度の業務の実績を報告し、評価を行います。評価の結果は公開情報として内閣府へ報告されます。 2102 理事会及び評議員会は理事会運営委員会や分科会に重要な議題を事前に議論する機会を作るため、5 月と 10 月の会議では、2 日間の本会議以外に 1 日程度の事前会議を設けます。理事会運営委員会及び理事会と評		(基本的な運営) 2101 定例の理事会は令和 4 年 5 月、9 月及び令和 5 年 2 月に、定例の評議員会は令和 4 年 5 月と令和 5 年 2 月に開催されました。5 月と 9 月の会議はハイブリッド(オンサイトとオンラインビデオ通話)、2 月の会議はオンラインにて開催されました。5 月の理事会会議では令和 3 年度の実績と成果が報告され、評価されました。この評価結果は内閣府に公開され、共有されました。 2102 5 月の理事会と評議員会、及び 9 月の理事会は本学にて開催し、COVID-19 の影響で来沖できなかった理事または評議員向けにウェブ会議アクセスを提供しました。また、評議員会は理事会総会に先立ち、9 月にウ	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
議員会の分科会は事前会議の間に重要な事項について話し合い、また理事会運営委員会は教員評議会と会議を持つようにします。 2103 理事長・学長は、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画を着実に実施します。 2104 理事長・学長は隔週で開催される幹部会議等において、大学の重要なリスクの同定、対応策の策定及び実行を検討・準備し、これらを理事会に報告します。 2105 監事は、事前に作成する監査計画に基づき、内部監査や会計監査とも連携しつつ、予算執行、調達・入札、法令順守の状況をはじめ、業務全般について厳格な定期監査を実施するとともに、必要に応じて、臨時の監査を行います。監事は、監事体制の強化を踏まえ、より充実		ウェブ上で臨時会議を開催し、OIST クリニックの再開と細則変更に関する意見を収集しました。2月の理事会および評議員会はオンラインで開催され、一部の評議員は本学にて参加しました。各理事および評議員の役割に焦点を当てた議論を深めるため、理事会および評議員会の小委員会（運営委員会、外部資金獲得推進開発、沖縄の自立的発展委員会、学務・研究委員会）の大部分を5月に、全会議（5月に開催したものに加え、事業・財務委員会、監査・コンプライアンス委員会）を9月に開催しました。 2103 理事長・学長は、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画を着実に実施しました。 2104 当該年度のリスクマネジメントは、COVID-19 感染拡大防止に焦点を当て行いました。事務局長下に対策メンバーを新たに編成、収集した情報を交換し、幹部及び OIST コミュニティに対して定期的に周知しました。学長の指揮の下、統合的かつ一貫性のある全学的なガイドラインを作成し、情報が常に最新の状態であるよう努めました。 2105 業務運営の状況について、令和4年11月から令和5年4月にかけて定期監査を実施しました。定期監査の実施に当たっては、監事は、私立学校法に規定された監事監査の趣旨、目的、意味などを丁寧に説明し、多くのディビジョンにも、それらを理解した上での積極的な	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価
	した監査を行うとともに、適切な形で中立性を維持しつつ、大学の他の役員や幹部職員との効果的なコミュニケーションを図ります。監事には、その活動に必要な十分な情報及び人的支援を提供します。監査計画及び監査結果については、理事会での報告等を通じて、業務運営への反映を促します。		協力を得ました。監事監査は、令和 5 年 5 月に開催予定の理事会及び評議会で報告予定です。 また、定期監査の活動以外に、必要に応じ、最高コンプライアンス責任者（CCO）などとミーティングを持ち、さらに、副学長などとコミュニケーションをとることで、本学の業務運営の状況のさらなる把握に努めました。	
2.1 ガバナンス及び業務運営体制 目標 (2)	世界水準の国際的な大学院大学の効果的な運営に相応しい、海外の優れた事例を踏まえた事務組織の構築に努めます。また、予算執行及び業務運営について国への説明責任を果たすために、内閣府と密接なコミュニケーションを図ります。			
2.1 ガバナンス及び業務運営体制 取組 (2)	（事務事業の構築） 2106 理事長・学長、副理事長、他の幹部による会合を定期的に実施し、情報共有を促進するとともに業務運営の状況を確認します。また、大学の幹部と教授会による会議を隔月毎に開催し、上層幹部と教授間の情報の流れを改善していきます。報酬検討委員会も必要に応じ開催していきます。 2107 幹部間の調整が円滑に行われるように学長、事務局長、プロボストの 3 者で週 1 回の定例会議を行います。 2108 内閣府との定例協議会等を通じて密接なコミュニケーションを図るとともに、事業計画の実施状況等について適宜報告します。また、翌年度事業構想及び概算要求について、前広かつ綿密に打合せます。		（事務事業の構築） 2106 理事長・学長、副理事長、他の幹部との定例会議を継続し、重要な意思決定の準備、情報の共有、業務執行状況の確認などを行いました。運営幹部と教授会の情報共有会議を継続し、運営幹部から教授会へ運営に関する情報の提供を行いました。報酬検討委員会も必要に応じ開催しました。 2107 学長、事務局長、首席副学長及びプロボストの間で定例会議を開催し、必要に応じ人事副学長の出席を得て、各幹部間の調整を円滑に行いました。 2108 4 月、7 月及び 11 月の定例協議会及び必要に応じた個別会議を通じて、内閣府との密接なコミュニケーションを維持しつつ、令和 4 年度事業計画の実施状況、令和 5 年事業構想、令和 5 年度概算要求及び令和 5 年度事	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	2109 最先端の IT ツール、サービス、支援を提供し、世界をリードする大学を目指します。 2110 ユーザーが IT リソース及びサービスを適時適切に活用できるよう、簡潔明瞭かつ最新の知識ベース及びユーザー教育プログラムを提供します。 2111 学園の運営を支える基幹業務プラットフォームを、特定・評価・設計・展開、維持し、学園の発展に確実に対応できるように拡張します。研究と教育を向上させるため、自動化と効率化を可能な限り追求します。研究要件を満たす、柔軟で安全なネットワーク環境の継続性を確保します。 2112 事務業務の改善・効率化に関する検討状況も踏まえつつ、引き続き IT 戦略計画を検討、策定し、その承認、伝達を通じて、IT とビジネスの整合性を確保します。継続的な対話とフィードバックを通じて、ビジネス計画との整合性を確保します。外部機関による IT レビューを通じてベストプラクティスとの整合性を管理します。	業計画策定等について適時適切に情報共有しました。 2109 複数の部署のサービスや問い合わせ窓口を一本化し、サービス・ポータルを提供しました。また、ユーザーの座席位置が分かる座席情報ツールを提供しました。 2110 IT リソースやサービスに関する情報を集約して、即時検索できるサービス・ポータルを提供し、その閲覧回数やフィードバックをもとに、適宜最適な情報を追加・更新しました。 2111 IT 戦略の一環として、エンタープライズアプリケーションを既存のプラットフォームに集中させるため、複数のチケットシステムを廃止し、一つのプラットフォームに移行しました。また、新たな文書管理システムや学生情報システム、動物資源管理システムの設計や開発などを行いました。 2112 中期 IT 戦略を起案するとともに IT 戦略委員会を創設し、IT 戦略案について委員会内で検討し、承認されました。外部機関によるレビューは COVID-19 による渡航制限により見送られました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
2113 大学の諸業務を効率的に支えるエンタープライズ・システムとサービスを特定・開発・支援することにより、デジタル化を推進します。 2114 ローカル及びグローバルで行われている IT 関連の新しい取組みの中に学園を最適に位置付け、研究及び運営管理の促進・支援を強化することで、沖縄の発展に一層貢献していきます。運用コストの削減及び安全性の増進を図る一方で、事務他部門と連携しデジタルトランスフォーメーションによる業務改革、働き方改革に貢献し、事務業務の簡易化・自動化を通じて作業環境の標準化及び効率化を促進します。 2115 情報セキュリティのガバナンスを強化するための体制を強化し、また情報セキュリティ教育、複数要素認証、及びデバイスベースのアクセス制御を通じ、情報セキュリティを継続的に強化します。既存のセキュリティ脅威の監視機能をさらに強化し、学園のネットワーク又はシステムの完全性を低下させる可能性のある悪意のあるソフトウェアやハッキングなどの脅威をリアルタイムに検出することを可能にするとともに、Web サイト改ざん等への対策を講じます。		2113 「エンタープライズ・データ・バス (EDB)」という概念を設計し、異なるアプリケーションが他のアプリケーションと情報（データ）を共有することを可能にすることで、本学の業務効率を上げることに寄与しました。 2114 デジタルトランスフォーメーション (DX) 推進のため、サービス・ポータル上に「エンタープライズ・サービスデスク」を設計・実装し、複数の部門間でデータやプロセスの連携を可能にしました。 2115 「情報セキュリティ」及び「個人情報保護」に関する全職員を対象とした必須のオンライン研修プログラムを実施し、さらに研修の有効性を高めるために主要な利害関係者に対して業務上必要な情報に特化したプログラムを提供しました。サイバー・セキュリティ監視サービスを強化し、機械学習及び外部のサイバー・セキュリティ脅威情報と合わせることで、より高い精度でリスクを検知することが可能となりました。定期的に学内にある機器の脆弱性を検査し、セキュリティホールの早期発見に努め、Web サイト改ざん等の防止に努めました。全学を対象としたフィッシングメール訓練を実施するとともに学内ポータルサイト、ポスターなどを通じて注意喚起を行いました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	2116 学園の各部署において発生する法的事項について法的助言を行うとともに、各部署が扱う契約について、ドラフト、交渉から締結に至るまで全面的に支援し、学園における適切な運営を確保します。 2117 法廷内外の請求から学園を防御し、財政的損失及び社会的評判の失墜を防止します。 2118 学園内外における問題行動を防止するため、全ての教職員及び学生に、毎年、日本の法令等（特に薬物規制、飲酒運転、銃刀携帯、刑事手続/国外強制退去、学園における懲戒等）の研修プログラムの受講を徹底します。		2116 学園の各部署において発生する法的事項や契約について、助言を行い、適切な運営を確保しました。法律相談数は 142 件で、昨年度比 107%で、契約レビュー数は 226 件で、昨年度比 96%でした。 2117 当該年度は 2 件の訴訟で和解し、本学の経済的損失を最小限にとどめ、社会的評判を保つことに努めました。 2118 月次の新入職員オリエンテーションをオンラインで提供しました。	
2.2 予算配分と執行 目標	国からの補助金をはじめとする予算の執行について、国やその他の資金提供者、さらには国民に対する説明責任を果たすため、実績を点検し、適正かつ効果的に予算を配分及び執行します。特に、国の財政の厳しい状況を踏まえつつ、研究教育の維持及び発展に資するよう効率的な予算の執行を図ります。			A
2.2 予算配分と執行 取組	（予算配分と執行） 2201 リソース（人件費、運営費、機器購入費、スペース等）の配分・再配分は、ストラテジック・リソース・アロケーション委員会が迅速かつ的確な配分案を策定し、最終的に理事長・学長が決定します。 2202 予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要		（予算配分と執行） 2201 当該年度リソース(人件費、運営費、機器購入費等)の配分・再配分は、ストラテジック・リソース・アロケーション委員会が迅速かつ的確な配分案を策定し、最終的に理事長・学長が決定しました。 2202 当該年度予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
な予算を各予算単位に配分します。 2203 各部署に配置された予算分析担当者と連携し、予算配分・執行状況報告のプロセスを強化します。また、施設整備費補助金を含む学園全体の予算の適切かつ一体的な管理を確保するため、予算執行状況確認のための月例内部会議において理事長・学長に報告します。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告します。 2204 全ての研究関連予算の執行管理を綿密に行い、必要な修正及び調整を行うため、9 月に配分の中間見直し、第 4 四半期の初めの 1 月に再度配分の見直しを行います。 2205 一定額を超える個々の支出について、コンプライアンス担当が審査すること等を含め、法令や内部規則等を順守して予算執行の手続きを行います。 2206 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、内部監査を実施するとともに、国の機関等が行う研修への継続的な参加等を通じて、担当職員の育成に努めます。 2207 大型研究設備・機器の購入時は、内部規則に基づき、必要に応じ、外部の有識者を含めた委員会を設置し、		施に必要な予算を各予算単位に配分しました。 2203 各部署に配置された予算分析担当者と連携し、当該年度予算配分・執行状況報告のプロセスを強化しました。また、施設整備費補助金を含む学園全体の予算の適切かつ一体的な管理を確保するため、予算執行状況確認のための月例内部会議において理事長・学長に報告しました。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告しました。 2204 9 月及び 11 月に配分の中間見直しを、そして第 4 四半期の初めにあたる 1 月にも別途見直しを実施しました。 2205 一定額を超える随意契約について、その内容がほぼ類型化してきたので、500 万円未満の購入案件は法令・コンプライアンス・セクション・リーダーが、500 万円以上の案件はさらに事務局長及び同室准副学長が、関連法令及び内部規則等に則って、その適切性を審査しました。 2206 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、最高コンプライアンス責任者の下で内部監査計画に基づき内部監査を実施しました。 2207 大型研究設備・機器の購入に当たっては、内部規則に基づき、その都度、外部の有識者を含めた委員会を	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価
	同委員会により仕様書の審査を行う等、公正かつ透明な調達の実施に万全を期します。		設置し、同委員会により仕様書の審査を行う等、公正かつ透明な調達の実施に万全を期しました。 委員会の開催件数：7 件	
2.3 事務事業の効率化 目標 (1)	業務運営における効率化を図るよう取り組みます。			A
2.3 事務事業の効率化 取組 (1)	(事務事業の効率化) 2301 アドミニストレーションレビュー委員会での検討を通じ、事務業務の合理化・効率化を促進します。 2302 研究資材や試薬等の単価契約や一括購入、複数年契約等の取組を継続することにより、研究事業を効率的に支援します。 2303 システム・機器の保守費は、契約内容の見直し等により、コストの抑制を図ります。 2304 契約は、十分な透明性や競争性の確保を原則とし、随意契約によらざるを得ない場合には、その理由を含め公表する等、契約に関する情報公開を徹底します。随意契約手続についても、継続的に監視します。同時に、調達に関する規則等について、効率化や手続の簡素化の観点から継続的に見直しを行い、また大学院大学の規模拡充に対応すべく、調達に関する事務分掌や業務手順等の整理を継続し	・単価契約の件数：32 件以上（2020 年度の確定値） ・競争入札や他の競争的な手法による契約件数の比率：62% 以上 ・研究関連契約を除く入札における落札率	(事務事業の効率化) 2301 ①戦略立案と実行、②政府との関係、③外部へのコミュニケーション、④人事、⑤IT の 5 つの領域において、事務事業の効率化等の改善を進めました。 2302 研究資材や試薬等の単価契約や一括購入、複数年契約等の取組を継続することにより、研究事業を効率的に支援しました。 単価契約件数：39 件 2303 システム・機器の保守費については、契約内容の見直し、複数年契約の適用等により、コストの抑制を図りました。 2304 契約は、十分な透明性や競争性の確保を原則とし、随意契約によらざるを得ない場合には、その理由を含め公表する等、契約に関する情報公開を徹底しました。随意契約手続については、前年度に実施した随意契約基準額の引き下げの効果測定を含め、継続的にモニターを行いました。大学の規模拡充に対応すべく、調達に関する事務分掌や業務手順等の見直しを行いました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	ます。 2305 これまでの内外価格差等の調査結果を踏まえ、内外価格差の是正や経費削減の促進に取り組みます。 2306 調達コストの抑制を図るため、これまでに取りまとめた研究資材や機器等の国内外の価格比較データを踏まえ、効果的な価格交渉方法について学園内へ情報提供します。 2307 国際化の推進に取り組む国立大学等の職員に対して事務国際化研修を実施し、当該大学等の事務国際化に貢献するとともに、同職員を通じて国立大学等の運営管理に関する知見を吸収し、学園の事務の効率化を図ります。		例えば、効率化・手続の簡素化の観点から、所定の要件を満たす請求書等は押印を省略可能としました。また、低入札に係る手続を変更し、それに伴い関連する規則の見直しを行いました。 競争入札や他の競争的な手法による契約の比率（件数） 件数：124 （58.2%） [令和 3 年度 109（55.9%）] 研究関連契約を除く入札における落札率：94.2% 2305 これまでに蓄積した調査結果等を活用し、調達職員のスキルアップ、交渉能力の向上を目的とする研修会を実施しました。 2306 （2305 再掲）これまでに蓄積した調査結果等を活用し、調達職員のスキルアップ、交渉能力の向上を目的とする研修会を実施しました。 2307 東北大学より 1 名および一橋大学より 1 名の派遣職員を受入れ、当該職員の英語コミュニケーション能力の向上に貢献する一方、国立大学等の運営管理に関する知見を吸収するとともに、本学の事務の効率化を図りました。	
2.3 事務事業の効率化 目標 (2)	施設・設備を最大限有効に活用します。			

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価
2.3 事務事業の効率化 取組 (2)	(施設の有効活用) 2308 既存建物内のスペースに関する調査、施設管理ディビジョン・研究支援ディビジョン及びスペースアロケーション委員会との連携や研究ユニットへのヒアリングを通じたニーズの把握に基づき、アカデミック、事務、研究設備スペース利用の最適化を推進します。 2309 シーサイドハウスの補修と、施設のスペース利用最適化に取り組みます。		(施設の有効活用) 2308 継続的にスペースアロケーション委員会に参加し、スペース配分に関連する問題を議論しました。また、同委員会の前にスペースを希望するユーザーと積極的にコミュニケーションを取り、スペースを有効活用するために、委員会とエンドユーザーがスペースの有効活用に向け最適な解決策を生み出せるよう支援しました。 2309 施設を適切に利用するため、シーサイドハウスの教室及び客室の空調設備の更新、壁の補修などを行いました。また台風によりダメージを受けていたウッドデッキを修理し、利用できるようにしました。	
2.4 人事管理 目標	優れた人材の獲得、保持、育成のため、教職員らの声を積極的に取り込みます。持続可能かつ効果的な人事制度の構築と継続的見直しを行い、法順守の精神の下、より多様性や包摂性が尊重された働きやすい職場環境の実現に努めます。国による高水準の財政支援により運営される法人として、教職員の総人件費の抑制により一層努めます。			A
2.4 人事管理 取組	(職員の採用) 2401 国際的採用競争力の維持と持続可能な人件費水準を達成するため、戦略的に人員計画を策定します。決定された人員枠・要件に基づき、公正で迅速な採用プロセスを構築し、優れた人材の獲得のための採用活動を展開します。	・職位毎の職員数（職種、国籍別、性別） ・全職員に対する事務部署の職員の比率 ・運営費に占める人件費の割合	(職員の採用) 2401 学長、首席副学長、プロボスト、事務局長、副学長（人事担当）の定例会議で要員枠を戦略的に策定しました。採用活動は、COVID-19 の影響による入国制限が緩和されたことで、円滑さを取り戻しつつある海外からの採用を戦略的に推進し、他方で、内部人材の積極的な登用（人事異動）しました。 全職員に対する事務部門の職員の比率：41%	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価																								
	2402 関係部局と連携し、ソーシャルメディアを用いた積極的な情報発信や潜在的候補者へのアプローチ、採用プロセスの改善により、優秀な人材をより早くより効率的に採用し、雇用者としてのブランド力向上に努めます。また、優秀な県内出身者の雇用に努めます。	・職員の給与水準（職種別の平均値・中央値・最頻値） ・研修の受講職員数 ・事務職員の年間学習時間（40 時間）	運営費に占める人件費の割合：44.2%（決算前のため概算値） 2402 採用部署の上長に加え、職務上の関連部署の担当者による採用面接を行うことで、選考の質の向上を図りました。また、採用の可否審査に加え、入職後に提供すべき支援計画を全ての面接実施者で立案し、支援体制を強化しました。採用ホームページを刷新し、応募者が本学の取り組み内容を理解しやすいよう改善しました。 添付資料 2.4-1 令和 4 年度 職位毎・国籍別職員数																									
	<table><tr><td></td><td>事務職 他</td><td>教員</td><td>技術員</td><td>研究員</td><td>合計</td><td>割合</td></tr><tr><td>沖縄 県出 身者</td><td>168</td><td>0</td><td>39</td><td>7</td><td>214</td><td>22%</td></tr><tr><td>県外</td><td>288</td><td>76</td><td>111</td><td>288</td><td>763</td><td>78%</td></tr><tr><td>合計</td><td>456</td><td>76</td><td>150</td><td>295</td><td>977</td><td>100%</td></tr></table>				事務職 他	教員	技術員	研究員	合計	割合	沖縄 県出 身者	168	0	39	7	214	22%	県外	288	76	111	288	763	78%	合計	456	76	150
	事務職 他	教員	技術員	研究員	合計	割合																						
沖縄 県出 身者	168	0	39	7	214	22%																						
県外	288	76	111	288	763	78%																						
合計	456	76	150	295	977	100%																						
	2403 職務記述の標準化、求められるコンピテンシー、スキル、経験等を整理・可視化することにより、公正・公平かつ個々人の能力が最大化され組織の利益になるような外部採用・内部異動昇進の仕組の導入を検討します。 2404 全教職員と学生に公平で歓迎される職場環境を構築し、維持するための措置を講じます。 - 全ての教職員に「無意識の偏見」研修や、その他の		2403 職務記述書の重要な情報を明確にしました。また、内部人材の育成・登用を推進し、それにより求人案件が内部人材により充足された件数は昨年度比で 1.6 倍でした。 2404 「無意識の偏見」研修に加え、「積極的な対話」「意見の衝突への対処」など学内での多様性に対する受容力を強化する研修を実施しました。																									

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
多様性に関する適切なプログラムを提供します。 - 大学コミュニティ支援担当オフィスと施設管理ディビジョンが連携し、学園で働く妊婦及び親のために適切な施設を計画、設計、装備します。 - 性別・国籍・職位にかかわらず全ての職員がネットワークを構築できる機会を用意します。 - 学園及び沖縄コミュニティ向けのプレゼンテーションネットワークの機会を通じて、多様性、公平性、包括性を促進します。 2405 学園教職員がホットラインやその他のコミュニケーションチャネルから通報できる手法、相談窓口についても教育します。 2406 管理職や日々の相談窓口となる職員に対しハラスメント防止や対応の研修を実施します。 2407 改正障害者雇用法に基づき、障がいを持つ職員の安全衛生に配慮した政策を導入します。全ての職員に平等の機会を与えるため、必要に応じて相談を受けます。 2408 保健センターは、教職員・学生の健康診断、医療機関受診の支援など、信頼できる保健サービスを提供します。		在籍年数に関わらずまた非常勤職員も含めた全職員が育児介護休業を取得できるよう制度を改訂し、在宅勤務制度も継続導入しています。 本学の女性管理職が、沖縄県における男女共同参画社会の実現を目的として設立された団体の活動に参加し、女性リーダーの育成に関する講演を行い、交流を促進しました。 2405 全教職員・学生にメールにて、また新入職員研修の一部として相談方法を周知しました。 2406 「無意識の偏見」研修に加え、「積極的な対話」「意見の衝突への対処」研修を実施しました。 2407 障がい者の採用段階から外部支援団体と連携し、入職後に必要となる配慮すべき点を踏まえ職場環境の整備を行いました。既存の職員にも同様の配慮のもと環境を整備しました。 2408 定期的な健康診断、ストレスチェック、各種健康相談など通常のサービスに加え、ストレスチェックの結果とそれを受けての対応を学内に周知したほか、COVID-19 に対する PCR 検査と予防接種チームの一員として、教職員・学生、地域の住民や介護職員にサービスを提供しました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	2409 クリニックは、初期診療や医療機関の紹介などを行います。		2409 協力医療機関をはじめ、学内外の関係者と協働し、初期診療や COVID-19 の予防接種などを行いました。	
	(処遇・給与水準) 2410 国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準を踏まえつつ、「特殊法人等における役職員の給与について（令和元年 10 月 11 日総務省行政管理局）」に対する取組を実行します。		(処遇・給与水準) 2410 現任者の給与分析、採用・退職分析、異動・昇進配置転換の指導を通じ、適正な給与水準の維持に努めました。 添付資料 2.4-2 令和 3 年度 職員の給与水準	
	(人材育成・管理体制の強化) 2411 外部コンサルタントによる組織診断の結果及び選抜された管理監督職層の参画を基に、以下に列举した制度の運用を強化し、本学の戦略に基づいて生産性の向上と次世代人材育成を推進します。 - 目標管理制度 - 採用制度 - 人事考課制度 - 職務等級制度 - 人事異動制度 2412 管理監督者向け研修体系を再構築するとともに、オンライン研修を含む個人別年間学習時間目標（40 時間）を設定して自己研鑽を活性化します。		(人材育成・管理体制の強化) 2411 採用制度の強化に加え、内部人材の登用を活性化したことで、当該年度は内部人材の登用により充足された求人案件数が 1.6 倍となりました。 2412 管理監督者向け研修体系の再構築を継続して取り組むとともに、個人別年間学習時間目標（40 時間）を設定した自己研鑽（オンライン研修を含む）を推奨し、活性化しました。 添付資料 2.4-3 令和 4 年度 研修の受講職員数	
2.5 コンプライア	大学経営の全ての面において、コンプライアンスが確保される体制を構築します。			A

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
ンスの確保 目標				
2.5 コンプライア ンスの確保 取組	(コンプライアンスの確保) 2501 予算執行状況、一定額以上の調達に係る契約、学園内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から審査します。 2502 学園内規則類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ、統括弁護士オフィスと協力して適時適切に制定・改正するとともに、PRP 審査委員会を必要に応じで開催し、規則類全体の整合性を維持します。 2503 業務運営上の意思決定及びその過程について、公文書等の管理に関する法律（平成 21 年法律第 66 号）及び同法に基づき整備した学園内規則に則り、適切に文書管理するとともに、その管理・保護等を徹底します。 2504 独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 59 号）や行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成 25 年法律第 27 号）及びその関連法令、ならびにそれらに基づき整備した学園内規則にのっとり、個人情報の取扱について適切に対応します。また、保有		(コンプライアンスの確保) 2501 予算執行状況、500 万円以上の調達に係る契約、学園内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から適正に審査しました。 2502 学園内規則類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ、統括弁護士オフィスと協力して適時適切に制定・改正しました。 また、3 月に PRP レビュー委員会を開催し、令和 3 年度及び令和 4 年度の全体レビュー結果を報告するとともに、これまでの PRP 総点検の進捗及び今後の進め方について確認しました。 2503 業務運営上の意思決定及びその過程について、公文書等の管理に関する法律及び同法に基づき整備した学園内規則に則り、法人文書の作成、整理、保存及び廃棄について適切に管理しました。また、必要に応じて学園の登記情報を更新し、対外文書等への公印押捺及び適切な管理を継続しました。 2504 個人情報の保護に関する法律や行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律及びその関連法令、ならびにそれらに基づき整備した学園内規則に則り、個人情報の取り扱いについて関係部署に対して助言する等適切に対応しました。また、最高情報セキュリティ責任者（CISO）と協働して職員向け研	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
個人情報管理の台帳等の整備など、学園内規則を教職員に遵守させることにより、個人情報に対する意識の向上を図ります。 2505 監事監査や内部監査による、規程類の実施状況を含むコンプライアンスの状況を厳格にチェックし、その結果に基づき見直します。 2506 学園の全ての役員及び教職員に対して、「利益及び責務相反の防止」ポリシーの規定に基づき、利益の相反を生じさせる可能性のある状況の評価を促進するため、学園外の活動と責務について、毎年度書面で開示します。 2507 各専門委員会において研究や実験計画を審査し、学園の研究活動を関連法令や規制に準拠して実施することを確保します。 2508 公的研究費不正使用防止計画の公表など、継続的に科研費等の競争的資金等の適切な管理を研究者に徹底します。		修資料の作成や保有個人情報を管理する台帳の整備、改正法に関する情報提供等により個人情報に対する意識の向上を図りました。 2505 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、最高コンプライアンス責任者の下で内部監査計画に基づき内部監査を実施しました。随意契約については、100 万円以上 500 万円未満の購入 案件は法令コンプライアンス・セクション・リーダーが、500 万円以上の案件は、さらに事務局長及び同室准副学長がその適切性を審査しました。全職員に受講が義務付けられたコンプライアンス研修（法令・コンプライアンス・セクション主催）について、e ラーニング（入校者 受講必修）による研修を提供しました。 2506 本学の全ての役員及び教職員に対して、PRP22 章に基づき、利益及び責務の相反による懸念や弊害を回避するため、学外の活動と責務について開示を求め、その管理と運用を行いました。 2507 各専門委員会において研究や実験計画を審査し、学園の研究活動を関連法令や規制に準拠して実施しました。 2508 公的研究費不正使用防止計画の公表など、継続的に科研費等の競争的資金等の適切な管理を研究者に徹底しました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	2509 また、研究費の不正使用防止のため、着任決定時から、教員、研究者に対し、研究費使用ルールの周知徹底・意識向上に関する取組等の対策を講じます。新規教員には、着任前の面談を通して研究費使用ルールを説明するほか、着任直後にも詳細な説明を直接します。 2510 全ての研究員が受講必須とされている「責任ある研究行為」のオンライントレーニングを提供し、教員、学生及び研究員に研究不正の再発防止の改善を向上するために、学内でセミナーや教育を継続的に開催します。 2511 また、先般不正事案があったことを踏まえ、不正の通報窓口を全職員に周知し、研究データの適切な記録と管理を徹底します。 2512 野外活動安全委員会による野外活動計画の厳格な審査を継続し、安全衛生委員会による職場巡視などで研究室の安全衛生を確保し、構築された安全管理システムで安全の向上を図ります。	2509 研究費の不正使用防止のため、着任時から、教員、研究者に対し、研究費使用ルールの周知徹底などにより、意識向上に関する取組を行いました。新規教員には、着任前の面談を通して研究費使用ルールを説明したほか、着任直後にも詳細な説明を直接実施しました。 2510 教職員及び学生、短期滞在者を含むすべての構成員が受講可能なオンライントレーニング「責任ある研究行為」を提供しました。 2511 不正の通報窓口や手続きについて、オンラインの研修で周知するとともに、研究ユニットに対しては、研究データの記録と管理を徹底するよう指導しました。 2512 野外活動安全委員会において、より実効性の高い審査方法や安全管理システムのあり方について議論及び見直しを行った結果、サイエンティフィック・ダイビングに関しては Diving Control Board として別途専門委員会を立ち上げ、American Academy of Underwater Sciences (AAUS) の基準に従い、本学のサイエンティフィック・ダイビング・プログラムを監督する仕組みを構築しました。	
2.6 情報公開及び 広報活動 目標	学園が急速な成長を遂げる中、教育研究や業務運営に関する透明性の確保、及び国民に対する説明責任の履行に向けた取組が非常に重要です。国内外から幅広い支援を得るとともに、国際的な認知度を高め、学園の知名度を		A

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価
	よりあげるために、多様なステークホルダーとの間で積極的にコミュニケーションを図ります。			
2.6 情報公開及び 広報活動 取組	(情報公開及び広報活動) 2601 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号）等により公開が義務付けられる情報は、ウェブサイト等に適切に公開します。 2602 ニュースセンターを含む、ウェブサイトを継続的に改善し、デザインやレイアウト及びユーザーエクスペリエンスが最高水準となるようにします。学園に関して継続的に肯定的な報道がされるよう、県内外の記者が参加できるような説明会や会見等の機会を積極的に持つよう努めます。 2603 ソーシャルメディアとデジタルチャネル（Facebook、Twitter、Instagram、LinkedIn、Flickr や Vimeo、YouTube など）の写真や動画を共有するサイト及びその他のマルチメディアの内容を引き続き強化します。		(情報公開及び広報活動) 2601 本学は、学校教育法や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律等によって公開が義務付けられる情報について、ウェブサイト等において適時適切に公開しました。 2602 メインウェブサイトのデザインを一新し、本学の主な機関目標である研究、教育、イノベーション、アウトリーチを軸に、ナビゲーション構造を全面的に刷新し、「専門研究分野」にタグを付すことで関連記事などを容易に検索できるようにしました。 2603 当該年度は、1,500 件（昨年度比 50%増）のソーシャルメディアへの投稿を行い、各メディアの平均投稿エンゲージメント率は 6.44%（昨年度 5.05%）となりました。 Twitter（英）：フォロワー数 23%増 Twitter（日）：フォロワー数 31%増 LinkedIn：82%増 YouTube：136 の動画を公開 メーリングリスト：購読者数 毎月 1~3%の割合で増加 Flickr（公開写真）：93 のアルバムを作成 本学 10 周年記念事業において、設立からこれまでの歩みをまとめた動画（ストーリービデオ）を作成しました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	2604 学園内規則集をウェブサイトに掲載し、その維持と改善を図ります。 2605 有事の場合、広報ディビジョンは統括弁護士オフィス、事務局長及び他役員に相談し、学園の評判や風評リスクに配慮した、適切適時の情報を発信します。ソフトウェアの脆弱性を利用したゼロデイ攻撃からウェブサイトを守るため、OIST のウェブサイトは、セキュリティアップデートが迅速に適用されるサポートのもと運営します。		また、本学の写真に大学のクレジットを入れることで、閲覧者が利用し、それにより認知度を高められるよう工夫しました。 その他、LINE アカウントを開設し、日本語のコンテンツを提供しました。 2604 学内規則集をウェブサイトに掲載し、維持・改善を図りました。 2605 有事の際に大学の評判を保ちながら即座に対応できるよう、日本のメディアと日常的に連絡を取り、またクライシス・コミュニケーショントレーニングを 2 回行いました。 本学のウェブサイトをクラウドホスティングサービスにより、サイバー攻撃や速度低下、応答不能などの障害から守りました。(ヤング)	
第 3 章 財務に関する事項 一外部資金				
3 財務に関する 事項 目標:	前年度に再改訂した外部資金中期戦略を踏まえ、将来の自立的経営に向けて、競争的研究資金、寄付金等の外部資金獲得額の増加を図り、財政基盤の強化に戦略的に取り組めます。			A+
3 財務に関する 事項 取組:	(競争的資金) 3101 ウェブサイトや個別の訪問を通じて、外部資金情報、応募に係る支援、国内他機関とのネットワークの重要性等を学園の研究者に伝える機会を増やします。	・競争的資金の採択状況 (件数及び獲得額) ・外部資金の伸び (総額) : 政府系受託研究	(競争的資金) 3101 ウェブサイトと電子メールを通じて外部資金に係る情報提供をしました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
3102 国内及び国際的なネットワークを活用した組織間連携を基盤とする大型の研究プログラムへの共同応募に対し、研究担当ディーンのリダーシップの下、戦略的に取り組みます。 3103 国内・国外のグラント情報を収集し、定期的に学園の研究者コミュニティに配信します。新規公募に係る情報収集のため、主要な資金提供機関とのコミュニケーションを図ります。 3104 研究者が企業と協力し、公共及び民間セクターのイノベーション助成金へ応募、契約することを奨励します。	と助成金、産業界からの受託研究及び共同研究、寄付金、受 講料及びその他の収入の合計が 1,170 百万円（補助金予算の経常経費の 7.06%）を目標とします。	3102 大型研究プログラムへの応募に向けて、パートナー候補の大学と研究交流のためのワークショップを企画し、相手方を訪問しました。 3103 TIDA と電子メールを利用して、助成金情報を本学研究コミュニティに配信しました。オンライン開催の公募説明会や審議会への参加に加え、資金提供機関へ研究担当ディーンその他職員が直接訪問し、意見交換することにより情報収集に努めました。 3104 沖縄県、国、民間財団等から研究助成金を獲得しました。 - 民間財団が提供する 75 件以上の外部資金提供の機会を本学の研究者等に情報提供し、申請書作成、翻訳、その他管理業務等を提供することで 34 件の申請を支援し、15 件が採択 - 沖縄県から 5 年目となるスタートアップアクセラレータープログラムを支援する助成金を獲得 - 琉球大学が代表機関である「資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点」から、スタートアップアクセラレータープログラムを支援するための助成金を獲得 - 科学技術振興機構（JST）の「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」に採択され、グローバル・バイオコンバージェンスイノベーション拠点を設立しました。10 年間で合計 30 億円の助成金を獲得 - 経済産業省「地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備」より、新たなインキュベ	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
3105 学園内におけるインセンティブ制度を通して外部資金の獲得を奨励することにより、外部資金の堅実な増加を図ります。		ーター施設（インキュベータ 3 号館）の建設資金として 10 億円を獲得 - 日本では 4 校のみ、世界でも 60 校しかないうちの 1 校として、2023 年ノバルティス生物医学研究所（NIBR）のグローバル奨学生プログラム（NGSP）より再招待 3105 教員、サイエンス・テクノロジー・グループに所属する研究員に対するインセンティブとして、採択額に応じて、一時金を受け取ることができるスキームを継続しました。このスキームにより、多くの教員及び研究員が外部資金の獲得に向け取り組み、その特徴的な成果の一つとして科学技術振興機構（JST）の「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」に採択されました。 添付資料 3.1-1 外部資金・寄付金獲得状況	
（寄付金） 3106 学園は、米国内における寄付金獲得を推進します。東京オフィスを活用し、潜在的な寄付者へのアウトリーチを図ることで日本国内での寄付金獲得活動を強化します。		（寄付金） 3106 新しいファンドレイジング・オフィスの体制を整理し、日本国内に焦点を当て、「日本・アジア担当チーフ・アドバンスメント・オフィサー」を新たに採用しました。研究支援、OIST x Keio Summer Exchange、Women in Science（日本の女性数学者を取り上げたプロジェクトを含む）、チムグクルファンド（ロシア・ウクライナ戦争で被災した科学者のためのインターンシップ）などの OIST プログラムへの大口寄付を管理しました。遺贈寄付、ネーミングライツによる寄付、企業版ふるさとの納税プログラムによる寄付、法人サポーター制度など、多様な寄付を管理する運用機能を拡充しました。東京オフ	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価
	3107 ふるさと納税寄付のマネジメントプロセスを整えます。		イスを通じて関東圏内の企業を複数訪問しネットワークを構築、OIST 内の関係者の支援を受けて沖縄でのネットワークを構築することで、直近 3 年間では最高となる 2,400 万円を超える寄付を集めることに成功しました。 3107 アドバンスメント・オフィサー（日本・アジア地域担当）と協働しふるさと納税寄付のマネジメントプロセスを整理し、役割分担を決定しました。（比嘉）	
第 4 章 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項				
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 目標	研究室から生まれた発明を社会的・経済的利益のため企業への技術移転を推進し、学園及び沖縄におけるイノベーションを発展させるため、以下の幅広い取り組みを行います。 a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及びマーケティング b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商用化を推進するべく POC（概念実証）プログラムを運営 c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向け起業家活動及びスタートアップの育成支援 d) 新技術の開発や技術移転の促進のために企業との共同研究を拡大 e) 沖縄のイノベーション・エコシステム（R&D クラスタ）形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化 f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定			A+
4	（技術移転及びイノベーションの促進）	・将来の連携及びライ	（技術移転及びイノベーションの促進）	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組	a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及びマーケティング 4101 面談や啓発イベントを通じ、積極的に教員、研究者や学生に働きかけ、学園の知的財産を特定する機会を確保します。 4102 知的財産の市場価値や競争環境を評価し、事業化戦略を強化します。	a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及びマーケティング 4101 「知財入門」セミナーを3回開催や、教員や研究者と100回以上のミーティングを行い、知的財産に関する助言を行いました。 教員及び研究者への知的財産に関する積極的な働きかけにより、以下の成果を得ました。 - 新たな発明の開示：19件 - 新規特許出願：40件 - 新規特許を取得：26件 添付資料 4.1-1 特許状況 4102 コンサルティング会社より、OIST 技術の事業化戦略策定を支援するプロボノサービスを受けました。 ライセンス供与可能な 84 の知的財産 (IP) に関するマーケティング資料を作成しました。	
	b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商用化を推進するべく POC (概念実証) プログラムを運営 4103 ハンズオンサポートを提供することで POC (概念実証) プロジェクトとテクノロジー・パイオニア・フェローシップを支援し、商業化の取組を確実にします。	b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商用化を推進するべく POC (概念実証) プログラムを運営 4103 当該年度に 6 件の新規 POC プロジェクトを採択し、14 件のプロジェクトを継続支援しました (合計：20 件)。その内訳は以下の通りです。 - イノベティブ・テクノロジー研究 (ITR)：7 件 - フェーズ I：5 件 - フェーズ II：4 件	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	4104 POC プログラムのための産業界からのレビューアーや、エキスパート及びメンターのパネルメンバーを拡充、強化します。	ース、シンポジウム、会議、ワークショップ、セミナーの参加者の数 (375) ・POCのプロジェクト、及びテクノロジーパイオニアフェローシップの採択件数 (21) ・スタートアップ数、スタートアップ・アクセラレーター・プログラム、インキュベーター施設、起業家向けプログラムにより支援された起業プロジェクト件数 (25)	- テクノロジー・パイオニア・フェローシップ：4 件 POC プロジェクトのハンズオンサポートを提供しました： - POC プロジェクトチームとのミーティング：合計 103 時間 - OIST Innovation Society イベント：12 回 - DeepTech トレーニングコース：12 回（合計 61 時間） 添付資料 4.1-2 令和 4 年度 POC プロジェクト	
	4105 POC プログラムの実施成果をスタートアップ設立などを含めた事業化へ着実につなげていくための新たなプログラム構築に向けた検討を開始します。	・イノベーション・ネットワーク@OIST (INO) への登録企業数 (20) ・視察や来訪者の数	4104 メンターやレビューアーを募集するためのウェブサイトを制作しました。 新たに 42 名のレビューアーとメンターを採用し、グローバルに活躍する 100 名以上の専門家とのネットワークを構築しました。当該年度は、10 名の専門家が POC プログラムのアドバイザーとして参加しました。 4105 POC プログラムによるプロジェクトから発展し、新しいスタートアップ企業「ACI Research」が設立されました。 POC プログラムで支援した 2 つの技術がライセンスされました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向け起業家活動及びスタートアップの育成支援 4106 世界中の起業家を呼び込み、沖縄でスタートアップを育成するため、スタートアップアクセラレータープログラムを運営します。	(オープン・キャンパスの来訪者数を含む) ・キャンパスを訪れた県内児童・生徒数 ・県内児童・生徒を対象とした講義やイベントの数 ・沖縄出身の職員数(研究者、事務系) ・年間の新規採用者数における沖縄県在住者採用割合 ・学園で開催された外部主催の国際会議及びワークショップの数、及びその参加者数	c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向け起業家活動及びスタートアップの育成支援 4106 当該年度は、2 チームをスタートアップ・アクセラレーター・プログラムへの参加者として選出しました： - 大阪ヒートクール（日本）：サーマルグリル錯覚を利用し、皮膚疾患に悩む人々を支援。 - Anda（コロンビア）：AR 技術でパーキンソン病患者の歩行改善とクオリティオブライフの向上を支援。 プログラム修了者の当該年度の実績： - 大阪ヒートクール（令和 4 年度採択）： コンシューマー・エレクトロニクス・ショー2023に出展し、沖縄県に支店を設立、さらに沖縄銀行から助成金を獲得。 - Anda（令和 4 年度採択）： 沖縄県で株式会社 Tree Oceans として法人を設立し、加えて沖縄銀行から助成金を獲得。 - REP JAPAN（平成 30 年度採択）： 全国のコンビニエンスストアで製品販売を目指し、株式会社リウボウと提携。 - Sage Sentinel Smart Solutions（令和 4 年度採択）： 沖縄県に法人を設立。 - HerLifeLab（令和 3 年度採択）： ベンチャーキャピタルから出資を獲得。 - GenomeMiner（令和 3 年度採択）：	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
4107 教員、研究者、学生のニーズを満たすために、起業家精神促進のための多様な支援と教育の機会を提供します。 4108 スタートアップ支援、研究者と企業パートナーのための連携拠点として、イノベーションスクエア・インキュベーター施設を運営します。追加のイノベーションスペースのニーズを分析します。		ベンチャーキャピタルから出資を獲得。 - EF ポリマー（令和元年度採択）： 沖縄県にて3名の職員を新規採用。 添付資料 4.1-3 令和3年度スタートアップ数 4107 20の起業家養成コースとセミナーを提供し、384人が参加しました。 グローバル・アントレプレナーシップ・ウィーク（11月14日～18日）において、130名の参加者を対象に3つのイベントを開催しました。 添付資料 4.1-4 産業関連コラボレーション及びイノベーション関連セミナー・イベント 4108 現在、500 m²のインキュベーター施設（インキュベータ1号館）に38のテナントが入居しています。 研究棟内のスペース有効活用により、312 m²のイノベーションスペースを増設しました。 - 第3研究棟C階にPOCチームとアクセラレータチームのためのスペースを確保。 - 第3研究棟A階のロビーをオープン・イノベーションのために集う空間へと変更。 - 第4研究棟にコランダム・システム・バイオロジー社との共同研究開発ラボを開設。 - ソニーCSLとの共同研究開発ラボを第5研究棟内に開設。 新たなインキュベーター施設（インキュベーター2号館）の設計を実施しました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
4109 OIST ベンチャーファンドの組成を含めたスタートアップを支援するベンチャーキャピタルとの連携を促進します。		経済産業省の「地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備」により、新しいインキュベーター施設（インキュベーター3 号館）建設にかかる補助金を獲得しました。 4109 ライフタイムベンチャーズと連携し、「OIST-Lifetime Ventures Fund」設立のため、合意書を締結しました。 - 2つのファンド（Seed Fund、Growth Fund）で50億円のファンド組成を目指し、Seed Fund において達成 - フレンズオブ OIST 有限責任事業組合、個人出資者より出資を受ける - ゼネラルパートナーが本学にオフィスを開設 - OIST 発スタートアップにシード投資を実施 以下の団体と新たに提携し、スタートアップ支援を行いました。 - 日本政策投資銀行 - 株式会社インスパイア - AgVenture Lab - BRAVE（ビヨンド・ネクスト・ベンチャーズのアクセラレーション部門） - ベイン・アンド・カンパニー その他、投資家とのピッチイベントを6回開催しました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
4110 スタートアップに挑戦する人材の拡充や資質向上を図るための新たなプログラムの開発に向けた検討を開始します。 d) 新技術の開発や技術移転の促進のために企業との共同研究を拡大 4111 会議、展示会、各種ネットワークを通じて、企業との共同研究を促進します。企業会員プログラムを運営して、県内、国内、及びグローバル企業との連携を拡大します。		4110 科学とビジネスの連携を促すために、一橋大学ビジネススクールとパートナーシップを確立しました。一橋大学の MBA 学生 5 名を本学の POC プロジェクトやスタートアップ企業とマッチングさせ、夏季インターンシップを実施しました。 本学の起業家を対象に、ライフタイムベンチャーズよりベンチャー育成のためのアドバイスを受けました。 本学の学生及び研究者に、ベンチャーキャピタルのインターンシップの機会を提供しました。 d) 新技術の開発や技術移転の促進のために企業との共同研究を拡大 4111 本学の研究やスタートアップを促進し、企業との連携機会を検討するため、80 社と接触したほか、以下のような取り組みを行いました。 - 研究・技術を紹介のため、4 つの展示会へ参加 - 研究、技術、スタートアップのさらなる促進を目指し、ソーシャルメディアチャンネルを強化 - 技術開発・イノベーションセンターを OIST Innovation として再ブランディング 上記の取り組みの結果、以下のような成果につながりました。 - OIST Innovation Network (INO) 会員数：39 - ソニーCSL と AI/メタバース研究のための共同研究開発ラボを設立 - INO 会員企業との新たな研究協力関係を構築	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
4112 沖縄県、国、民間財団等からの革新的な研究のための助成金獲得に向けて支援を継続します。		- 10 の企業と提携し、グローバル・バイオコンバージェンスイノベーション拠点を設立 - 産業界向けの OIST Innovation ニュースレターの購読者数が 100 名を突破 - OIST Innovation の LinkedIn チャンネルが 1,400 フォロワーを突破 4112 (3104 再掲) 沖縄県、国、民間財団等から研究助成金を獲得しました。 - 民間財団が提供する 75 件以上の外部資金提供の機会を本学の研究者等に情報提供し、申請書作成、翻訳、その他管理業務等を提供することで 34 件の申請を支援し、15 件が採択 - 沖縄県から 5 年目となるスタートアップアクセラレータープログラムを支援する助成金を獲得 - 琉球大学が代表機関である「資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点」から、スタートアップアクセラレータープログラムを支援するための助成金を獲得 - 科学技術振興機構 (JST) の「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)」に採択され、グローバル・バイオコンバージェンスイノベーション拠点を設立しました。10 年間で合計 30 億円の助成金を獲得 - 経済産業省「地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備」より、新たなインキュベーター施設 (インキュベータ 3 号館) の建設資金として 10 億円を獲得 - 日本では 4 校のみ、世界でも 60 校しかないうちの 1	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
4113 複雑な企業との契約交渉プロセスの効率化を図り、事業化戦略を構築します。 4114 企業等との共同研究の成果が社会実装化へと繋がっていくような新たな仕組みづくりについて検討を開始します。 e) 沖縄のイノベーション・エコシステム (R&D クラスター) 形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化 4115 地域、国内及び海外の機関との交流を行います。		校として、2023 年ノバルティス生物医学研究所 (NIBR) のグローバル奨学生プログラム (NGSP) より再招待 4113 産学連携を効率的に推進するため、4 種類の契約書雛形を作成しました。知的財産及び技術移転に関する学内規程を改訂しました。 4114 産業界との共同研究の成果を促進するため、以下の取り組みを行いました。 - 共創のための共同研究開発ラボ (例: ソニーCSL との共同研究開発ラボの設立など) - 企業とのより広範で長期的な関係を促進するための枠組み契約 (例: 日本政策投資銀行との契約締結) e) 沖縄のイノベーション・エコシステム (R&D クラスター) 形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化 4115 以下の取り組みや交流を通して、各機関との連携強化を図りました。 - 沖縄県産業振興公社と沖縄県の産業強化・起業促進を目的とした MOU を締結 - 経団連、経済同友会、沖縄懇話会など 6 つの業界団体による視察受入れ - 沖縄バイオコミュニティーへの参画 - 沖縄スタートアップ・イノベーション・エコシステム・コンソーシアムへ幹事組織として参画	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	4116 沖縄におけるイノベーション・エコシステムを強化する戦略アドバイスを取り入れるために、政府や産業界の専門家と交流します。 4117 産業界、政府、起業家、学术界などのイノベーションのための関係者を集めるための会議やイベントを開催します。 4118 地域の経済発展等に資する産学官連携による新たなマネジメントシステムの構築に向けた検討を開始します。	- 経済産業省の「地域オープンイノベーション拠点選抜制度（J-Innovation HUB）」採択 - 九州大学、九州工業大学が主幹機関を務める九州・沖縄地域のベンチャー創出を支援する「Platform for All Regions of Kyushu and Okinawa for Startup Ecosystem（PARKS）」への参画 - 琉球大学を代表機関とする「資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点」への参画 - 日本政策投資銀行と新たな枠組み協定を締結 4116 以下の機関との交流をとおして、ネットワークの構築を図りました。 - 沖縄県庁、恩納村とのイノベーションとアントレプレナーシップに関する交流会に参加 - スタートアップ振興のため内閣府「グローバル・スタートアップ・キャンパス構想推進室」との関係構築 - 「渋谷スタートアップ支援」の取り組みを行う渋谷区役所とのネットワーク構築 4117 イノベーションとアントレプレナーシップを促進するための 45 のセミナー、コース、イベントを開催し、産業界や学术界等から 1,225 人が参加しました。 4118 （１）産学官連携、（２）スタートアップのアクセラレーションの新たなシステム開発のため、グローバル・バイオコンバージェンスイノベーション拠点で２つ	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己評価
f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定 4119 学園や沖縄におけるイノベーション指標の分析を進めるために必要なパートナーシップ及び手法を構築します。 (地域連携に関する取組) 4120 沖縄県庁との間の定期的な意見・情報交換の場（沖縄県 OIST 連絡会）を通じ、沖縄県次期振興計画への貢献や個別事業における一層の協力関係を構築します。 4121 年間を通じあらゆる層の地域の皆様に対しキャンパス見学や地域の皆様が参加できる科学普及プログラム、イベント・講演会、教育的アウトリーチ活動を実施します。地域のつながりを促進する沖縄やその他地域の文化を紹介するイベントを提供します。離島を含む沖縄県全域の皆様が参加できる機会を提供します。		のプロジェクトが開始されました。	
		f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定 4119 技術移転活動の主要業績指標を追跡、分析、報告するために新しい CRM システムを導入しました。 (地域連携に関する取組) 4120 沖縄県の科学技術振興課及び関連部署と定期及び不定期の情報交換や相互訪問を行い、より密接な協力関係が構築しました。 4121 当該年度は以下のイベントを通じ、本学の取り組みを紹介するとともに、科学普及に向けたプログラムを実施しました。 - 2022 年ノーベル生理学・医学賞受賞記念「スパンテ・ペーゴ教授講演会 in 東京（東京大学）」：参加者数 950 名 - 2022 年ノーベル生理学・医学賞受賞記念「ネアンデルタール人のゲノムと現代人類の進化」トークイベント（国際文化会館との共催）：参加者数 30 名 - 10 周年記念式典：参加者数 260 名 主な出席者：細田博之衆議院議長、西銘恒三郎内閣府沖縄担当大臣、玉城デニー沖縄県知事、仲田弘毅沖縄県議会副議長、長浜善巳恩納村長、又吉薫恩納	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
		村議会議長、新浪剛史サントリーホールディングス株式会社社長兼 CEO - 10 周年記念コンサート：参加者数 270 名 新型コロナ感染状況の好転を受け、11 月まで停止していた一般キャンパス見学の受入れを 12 月より再開しました。 - キャンパス見学（オンキャンパスとオンライン） 一般見学者数 7,141 名（内オンライン 227 名） 学校関係者見学数 26 校（児童生徒 1,479 名／内オンライン 5 名） 対面とオンラインで、以下のアウトリーチプログラムを実施しました。 - 恩納村・OIST こども科学教室（8/14~8/19） 開催直前に COVID-19 感染症が急激に拡大したため、授業をオンラインに切り替え開催。 参加者数 155 名（恩納村外の児童生徒を含む） - 高校生のためのサイエンス・コンテスト「スコア」 参加者数 46 名（8 校、16 チーム） - 文化・交流イベント「アートの壁プロジェクト」 恩納村立安富祖小学校より 9 名が参加し、本学エネルギーセンター2 棟に壁画制作を行いました。 - 一般向け科学体験イベント「OIST サイエンス・フェスタ」 参加者数 800 名（内オンライン参加者数 200 名） - 離島での科学授業プログラム「OIST サイエンストリップ」	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
			サイエンストリップ in 伊平屋 参加者数 70 名 サイエンストリップ in 八重山 参加者数 90 名 サイエンストリップ in 宮古島 参加者数 160 名	
	(その他の取組) 4122 新型コロナウイルス感染症の PCR 検査や陽性検体のゲノム解析を実施できる体制を維持し、沖縄県内における同感染症のまん延防止に協力します。 4123 コアファシリティ（共用研究施設）や保健センター等で県内の学生がインターンシップをできる機会を提供し、学生の就業意識の向上や実地経験の獲得に協力します。		(その他の取組) 4122 新型コロナウイルス感染症の PCR 検査を実施できる体制を維持し、沖縄県内における同感染症のまん延防止に協力しました。当年度中に実施した PCR 検査の数は 282,177 件で、2020 年度からの累計で 447,995 件を実施しました。 4123 コアファシリティ（共用研究施設）や保健センター等で県内の学生がインターンシップをできる機会を提供し、学生の就業意識の向上や実地経験の獲得に協力しました。	
第 5 章 キャンパス整備・大学コミュニティの形成、安全確保及び環境への配慮に関する事項				
5.1 キャンパス整備 目標	計画通りキャンパスの整備を進めます。			A
5.1 キャンパス整備 取組:	(キャンパス整備) 5101 第 5 研究棟の建設、インフラ整備についてはコスト管理・削減を徹底するとともに、工期を厳守するよう工事の進捗について注意深くモニターしながら管理します。 5102 既存のキャンパスビルディング及び施設・設備について、現状を把握したうえで、中長期の視点で計画的		(キャンパス整備) 5101 第 5 研究棟の建設、インフラ整備について、予定工期通りかつ予算内で完了しました。 5102 施設マネジメントを推進するために、長期修繕計画を厳選し、計画的な更新・修繕・維持管理のための次	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	に更新・修繕・維持管理し、長寿命化やスペースの有効活用を図るなど施設マネジメントを推進します。 5103 透明性確保のため、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）に基づき、入札スケジュールや結果等の入札前後の情報開示を推進します。		年度予算を確保しました。 5103 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）に基づく手続きを順守し、入札・契約の実施及び関連情報の公表を行いました。	
5.2 大学コミュニティの形成、 子弟の教育・ 保育環境の向 上 目標	OIST コミュニティは多様なバックグラウンドを持つメンバーで構成されているため、共通の体験や一体感を通してインクルーシブな学園文化を維持し、OIST コミュニティを活気づけるために、コミュニティの全てのメンバーに対して有意義でインパクトのある活動プログラムとサービスを提供します。			A
5.2 大学コミュニティの形成、 子弟の教育・ 保育環境の向 上 取組	（大学コミュニティの形成） 5201 教職員・学生及びその家族の日常生活をサポートするための高品質のプログラムを充実させます。 - 家族のためのオンボーディング（文化や仕事の進め方に慣れるための教育）を強化します。 - 学園内の関連部署との連携を維持し、新規採用者とその家族が赴任する前に必要な、生活等に関する情報を提供する早期受入れプログラムを導入します。 - 引き続き、ファミリーアンバサダーネットワークを充実させます。ファミリーアンバサダーネットワークは教職員の配偶者で構成され、既に沖縄の生活に詳しい人の目線を見た学園とその周辺の情報を、赴任者と家族に共有することが目的です。		（大学コミュニティの形成） 5201 教職員・学生及びその家族が日常生活において求めている情報を得ることができるようにガイダンスビデオ、食料品情報、沖縄文化情報などをウェブサイトに掲載し、また遅滞なく情報を提供できるようその管理に努めました。採用候補者に生活環境情報を事前に提供、また必要に応じて面談の場を設け、居住環境に関する説明を行いました。教職員が住居を退去する際の手続きについて、関連部署と緊密に連携し、遅滞なく進めました。来日する客員研究員や招聘するゲストの受け入れに際し、データベースに登録・保存するなど、受け入れ窓口担当者の支援を行いました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
- 人事ディビジョンと連携し、住居、チャイルドケアサービス、家族サポート、医療サービス、そして日常生活のニーズに対し適切な情報を提供し、教職員とその家族の円滑且つ効率的な受入れサポート体制を確保します。 - 客員研究員、招聘ゲストの情報をデータベースに登録・保存する等、受入れ窓口担当者のサポートを行うと共に、招聘者の滞在中のサポートを行います。 5202 多様な学園コミュニティに品質と費用効果の高いフードサービスを提供します。 5203 引き続き、フードサービスを提供するベンダーの品質を確保するための手順を開発し、管理・監督します。 5204 がんじゅうサービスは、今後も質の高いエビデン		5202 フードサービスアドバイザリー委員会にて、問題点やより良いサービスの提供について検討するとともに、カフェ運営事業者の選定に関して緊密に連携しました。学内外の関係先と各種調整を行い、ビレッジセンター内ショップでは多様な利用者のニーズを反映した商品を提供しています。広報ディビジョンと連携し、OIST コミュニティに対して定期的にフードサービスに関する最新情報を提供しました。SDGs イニシアティブと共同で、持続可能な未来のための植物性食品の可能性に関するセミナーを開催しました。 5203 カフェ、レストラン、ショップの運営事業者と毎月ミーティングを行い、サービスの見直しや新たな取り組みについて検討しました。弁当事業者の管理をレストラン運営事業者に移管し、弁当の種類と利便性を向上させました。 5204 OIST コミュニティのウェルビーイングとメンタ	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
スに基づくウェルビーイングの支援を学園コミュニティ全体（学生・職員・家族やその子ども）に提供し、全員が最善の状態で活動・活躍できるよう支援します。また、今後も全てのステークホルダーと連携し、学園コミュニティのニーズに合ったサービス提供をします。要請があれば、不平等な状況に関する問題提起などを代わりに働きかけます。学園コミュニティのウェルビーイングを支援するためのワークショップ、個々のレジリエンスを高めるためのワークショップを引き続き提供し、ウェルビーイングへの取組支援を 継続します。他のコミュニティサービスと協力し、COVID-19 のより大きな影響を受けたコミュニティがやすらぎを取り戻せるよう努めます。 5205 レクリエーションサービスは、クラブ活動の促進と監督を含む、コミュニティが関わる活動を管理・監督します。 5206 ビレッジゾーン、フィットネスジム、シーサイドハウス（ラウンジ、デッキ、パティオ、テニスコート、サッカー場）、クレイファクトリー（製土工場）、新宿舍内ラウンジ等の学園のコミュニティスペースの使用を管理・監督します。 5207 肉体的、社会的、精神的な健康を促進する学園のコミュニティ全体のためのレクリエーション活動、イベント、クラス、セミナーの企画と補助をします。 - イベント開催や施設の共同利用により、地域コミュニティと連携する機会を特定します		ルヘルスをサポートするため、迅速なサービスを提供しました。OIST 研究員コミュニティ（ORC）及び学生評議会とも協力関係を築き、その活動を支援しました。本学の幅広いコミュニティに対して様々なワークショップやその他の活動、大学院及び CDC 職員に研修や実践的なワークショップを提供しました。また、海難事故の後、OIST コミュニティを支援し、組織の心理的対応に関するベストプラクティスについて助言を行いました。 5205 計 46 の公式クラブを管理し、クラブ活動が安全かつ適切に行われるよう支援しました。 5206 OIST コミュニティからの約 250 回に及ぶ施設予約依頼に対応しました。ジム利用希望者へのオリエンテーションを 47 回実施し、232 名の登録者を管理しました。また、学園内のコミュニティスペースの安全性を確保するため、必要に応じて修理等の手配を行いました。 5207 学園のコミュニティを対象としたレクリエーション活動等を 38 回開催しました。 - フィットネスアクティビティ：14 - ソーシャルアクティビティ：2 - 文化的イベント：12	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
- 学園のコミュニティメンバーが参加できる沖縄のレジャー活動及び沖縄の文化的な機会を特定します。 5208 学園内外のレクリエーション及びスポーツ施設の利用可能性を調査し、利用を促進します。 5209 ニーズ調査結果に基づき、職員とその家族、県内コミュニティメンバー向けに提供される言語クラスのサービスの質を改善します。 5210 より柔軟な指導スケジュールと、より良いプログラムの提供について検討します。		- 教育的プログラム：7 - SDG 関連活動・ワークショップ：3 5208 学園内のレクリエーション活動に利用できるスペースを増やすため、関連部署と継続的な話し合いを実施しています。本学のクラブ活動が、恩納村管理のスポーツ施設を利用できるよう同村教育委員会と連携しました。 5209 言語クラス受講者を対象に、3 回のアンケートの実施し、その結果に基づき業務に必要とされる内容を特定し、カリキュラムに追加及び授業内容を変更するなどし改善を図りました。 5210 日本語クラス受講者に対し、予約なしで受講できるクラスや会話レッスン（上級）などを実施し、また英語クラス受講希望者の利便性向上のため、休憩時間に実施するなど、より柔軟な指導スケジュールで提供できるよう努めました。	
（子弟の教育・保育環境） 5211 保育サービスにおいて、STEM 及び SEL（対人関係能力育成）プログラムを通じ、教職員及び学生の子弟の教育環境の向上を図ります。		（子弟の教育・保育環境） 5211 5つの分野（身体、言語と読み書き、アート、STEM（科学、技術、工学、数学）、SEL（対人関係能力育成））を含めた保育内容となるよう計画立てて実施しました。小中学校プログラム（SAP）においても STEM 及び SEL プログラムを実施しました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
5212 質の高い、完全なバイリンガル（英語・日本語）の就学前及び就学児童（学童保育/長期休暇）のための保育プログラム／教室を、チャイルドディベロップメントセンター（CDC）及び小中学校プログラム（SAP）を通じて提供・開発します。 - CDC 及び SAP の適切な人材配置モデルを再検討し、質の高い保育サービスを確保します。 - CDC 及び SAP の収益と経費を見直し、適切な予算と料金を通じて持続可能な資金調達モデルを確立します。 - CDC 及び SAP のスペースのニーズについて検討します。 - CDC と SAP プログラムの管理及び職員のトレーニングプロセスを改善します。 - CDC 連絡委員会は、CDC 及び SAP プログラムを補助するために定期的に会合します。 - CDC 監督委員会は、CDC 及び SAP プログラムの運営をレビューし、助言・勧告します。 - CDC 保護者会は、CDC の管理部署と定期的に会合し、助言・勧告します。 5213 県内の公立学校に通う教職員・学生の子弟に適切な英語教育の機会を提供します。また、優れた教職員及び学生の採用と確保のため、家族が国際的にも認められる学校教育にアクセスできるようインターナショナルスクールについての情報提供等を行います。 - 外国人及び日本人の家族のための沖縄県内の既存の教育機会について評価・レビューし、保護者がこ		5212 国が定める保育士の配置基準より高い比率を保ち、運営しました。送迎バスにモニターを設置し、安全の確保に努めました。収益と経費の定期的なモニタリングを行い、適切な運営に努めました。 すべての職員を対象として研修を 2 回実施、また国際的な幼児教育者向けカンファレンスに 3 名の職員を参加させるなどし、質の高い保育プログラムの提供に努めました。 5213 県内（地域）の学校に通う英語を母語とする教職員及び学生の子弟への英語教育を継続し、専用ウェブサイトで県内学校情報を提供しました。 教員の採用候補者に沖縄県内の学校情報を対面またはズームで提供しました。 子をもつ教職員及び学生が直接学校情報を入手する事ができるように、沖縄県内のインターナショナルスクー	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	の情報を容易に利用できるようにします。 - 教職員・学生の家族及び地域コミュニティのための国際バカロレア IBK-12 学校の実現可能性について検討します。 - インターナショナルスクールの保護者満足度調査を定期的の実施し、教育・サポートサービスについて検証するプロセスを開発します。		ルが参加する説明会を本学で開催しました。	
	(学生支援) 5214 学生に安全で健全な環境を提供するため、学生が抱える問題の早期発見を積極的に推進し、部局内での円滑な連携を行うとともに、教員や関係部局間のコミュニケーション向上を図るなど、包括的な支援体制を講じます。 5215 肉体的、社会的、精神的な健康を促進する学生のためのレクリエーション活動、イベント、クラス、セミナーの企画や支援をします。		(学生支援) 5214 (1110 再掲) 相談を通してニーズを把握し、解決策や必要なサポートなどを迅速に提供しました。 5215 (5207 再掲) 学園のコミュニティを対象としたレクリエーション活動等を 38 回開催しました。 - フィットネスアクティビティ : 14 - ソーシャルアクティビティ : 2 - 文化的イベント : 12 - 教育的プログラム : 7 - SDG 関連活動・ワークショップ : 3	
5.3 安全の確保 目標 (1)	緊急対応計画、事業継続計画の実効性確認を進めるため運用及び実地訓練を実施するとともに、職場巡視を通じて各部署の安全及び緊急時対応を確保します。			A
5.3 安全の確保 取組 (1)	(安全の確保) 5301 緊急対応計画、事業継続計画の運用及び実地訓練を進めます。		(安全の確保) 5301 COVID-19 に関する国や県の対処方針に従い、感染状況に即応した緊急対応ガイドを展開して事業の安	

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価
	5302 職場巡視を通じて各部署の安全及び緊急時の体制を確保します。 5303 恩納村と協力しながら、災害に強いキャンパス作りを進め、災害の際にはキャンパス施設を近隣住民の避難場所として提供します。		定運営を継続できました。 5302 衛生管理者による職場巡視結果は、毎月開催する安全衛生委員会に共有され、巡視時によく指摘されている事項については、安全ポスターを作成しキャンパス内各所において掲示するなど安全啓発活動を行いました。報告を受けた労災事故及びニアミスレポートについては、安全衛生委員会において全件調査が行われ、作成された調査報告書の結果は、学内における類似事故の再発防止を目的とした情報発信や安全教育活動において活用されました。 5303 大規模な緊急事態が発生した場合に、本学を近隣住民の避難場所として提供するため、非常用食料等の備蓄品を確保しています。備蓄品を保管するコンテナを増設し、適切な数量の備蓄品の確保に努めました。	
5.4 環境への配慮 目標	環境に配慮しながら事業を推進し、また、国連が掲げるSDGsの方針に沿った取り組みを行います。			A
5.4 環境への配慮 取組	(環境への配慮) 5401 リサイクル製品の使用を推進します。		(環境への配慮) 5401 引き続き、建設工事発注時にリサイクル製品の使用推奨を行いました。キャンパス内で使用するコピー用紙やトイレットペーパーにはリサイクル製品を使用しました。	

令和 4 (2022) 年度事業計画	指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価																														
		5402 LNG コージェネレーションシステム運用開始後、LNG 使用量は 50%以上増加しましたが、職員 1 人当たりの CO2 排出量は 11%削減することができました。 <table border="1" data-bbox="1330 320 2020 1144"> <thead> <tr> <th rowspan="2">測定項目</th><th colspan="2">使用量量 (職員一人当・月)</th><th rowspan="2">削減量削減量 (%)</th></tr> <tr> <th>2021 年度</th><th>2022 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CO2 排出量 (tCO2)</td><td>1.51</td><td>1.35</td><td>-11%</td></tr> <tr> <td>電力使用量 (kwh)</td><td>1,656</td><td>1,577</td><td>-5%</td></tr> <tr> <td>水道使用量(m3)</td><td>3.54</td><td>4.25</td><td>+17%</td></tr> <tr> <td>A 重油使用量 (Liter)</td><td>56.7</td><td>58.25</td><td>+3%</td></tr> <tr> <td>LP ガス使用量 (m3)</td><td>0.12</td><td>0.09</td><td>-23%</td></tr> <tr> <td>LNG ガス使用量 (m3)</td><td>7.01</td><td>14.69</td><td>+52%</td></tr> </tbody> </table> 5403 定期的な水質検査、環境モニタリング調査を行い、周辺水域への環境負荷が、地下水への影響が無いことを確認しました。	測定項目	使用量量 (職員一人当・月)		削減量削減量 (%)	2021 年度	2022 年度	CO2 排出量 (tCO2)	1.51	1.35	-11%	電力使用量 (kwh)	1,656	1,577	-5%	水道使用量(m3)	3.54	4.25	+17%	A 重油使用量 (Liter)	56.7	58.25	+3%	LP ガス使用量 (m3)	0.12	0.09	-23%	LNG ガス使用量 (m3)	7.01	14.69	+52%	
測定項目	使用量量 (職員一人当・月)			削減量削減量 (%)																													
	2021 年度	2022 年度																															
CO2 排出量 (tCO2)	1.51	1.35	-11%																														
電力使用量 (kwh)	1,656	1,577	-5%																														
水道使用量(m3)	3.54	4.25	+17%																														
A 重油使用量 (Liter)	56.7	58.25	+3%																														
LP ガス使用量 (m3)	0.12	0.09	-23%																														
LNG ガス使用量 (m3)	7.01	14.69	+52%																														
5402 温室効果ガス排出量とエネルギー消費を把握し、抑制に努めます。		5403 水の再利用システムの適切な運用管理により、周辺水域への環境負荷の低減に努め、地下水への影響が無いようにします。																															

令和 4 (2022) 年度事業計画		指標	令和 4 (2022) 年度業績	自己 評価												
	5404 施設整備に伴う各種建設工事において、濁水プラント施設を設置するなど、十分な赤土流出対策を講じます。		<table><tr><td></td><td>恩納村基準値</td><td>OIST 排水基準値</td></tr><tr><td>BOD</td><td>10ppm</td><td>2ppm</td></tr><tr><td>SS</td><td>10ppm</td><td>2ppm</td></tr><tr><td>PH</td><td>5～7</td><td>5～7</td></tr></table>		恩納村基準値	OIST 排水基準値	BOD	10ppm	2ppm	SS	10ppm	2ppm	PH	5～7	5～7	
			恩納村基準値	OIST 排水基準値												
BOD	10ppm	2ppm														
SS	10ppm	2ppm														
PH	5～7	5～7														
5405 生態系の維持や固有生物種の保護に資するようキャンパス施設・敷地を管理します。	5404 溜池の建設や泥水浄化装置の利用など、細心の注意を払って赤土の水路や海への流出を最小限に抑える、あるいはゼロにするための取り組みを継続して行いました。	5405 生態系の維持や固有生物種の保護に資する為、環境モニタリング調査を実施し、キャンパス施設・敷地を適切に管理するよう努めました。														

令和4年度 業務実績報告 添付資料リスト

No.	File No.	資料名
1	1. 1-1	外部の奨学金等を獲得した学生数
2	1. 1-2	令和4年度 学術交流協定一覧
3	1. 1-3	学生に関する情報
4	1. 2-1	令和4年度 OIST 研究施設の外部利用者
5	1. 2-2	令和4年度 OIST論文・発表数
6	1. 3-1	令和4年度 研究に関する受賞実績
7	1. 3-2	令和4年度 アウトリーチ活動実績
8	1. 4-1	令和4年度 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム
9	2. 4-1	令和4年度 職位毎・国籍別職員数
10	2. 4-2	令和4年度 職員の給与水準
11	2. 4-3	令和4年度 研修の受講職員数
12	3. 1-1	外部資金・寄附金獲得状況
13	4. 1-1	特許出願状況
14	4. 1-2	令和4年度 POCプロジェクト
15	4. 1-3	令和4年度 スタートアップ
16	4. 1-4	令和4年度 受託研究等（産学連携）及びイベント

List of Attachment Documents to the FY2022 Performance Report

No.	File No.	Document Name
1	1. 1-1	Number of Students Receiving External Scholarships, etc.
2	1. 1-2	FY2022 List of Agreements with Other Universities
3	1. 1-3	Students Information
4	1. 2-1	FY2022 The Number of Use of our Research Facilities by External Organizations
5	1. 2-2	FY2022 OIST Publications and Presentations
6	1. 3-1	FY2022 Number of Research Honors/Awards
7	1. 3-2	FY2022 Outreach by Faculty and Researchers
8	1. 4-1	FY2022 List of OIST Funded Workshops/Mini-Symposia
9	2. 4-1	FY2022 Number of Employees
10	2. 4-2	FY2022 Salary Level of Employees
11	2. 4-3	FY2022 Number of Employees Taking Training Programs
12	3. 1-1	FY2022 External Grants and Donations Table
13	4. 1-1	Patent Status
14	4. 1-2	FY2022 POC Projects
15	4. 1-3	FY2022 Startups
16	4. 1-4	FY2022 Industry-related Collaboration and Innovation Seminars and Events

Attachment 1.1-1 Number of Students Receiving External Scholarships, etc.

添付資料1.1-1 外部の奨学金等を獲得した学生数

1. Number of external scholarship received in FY22/令和4年（2022）年度外部資金受給者数

External Fund	外部資金の名称	# of students receiving the fund/ 受給者数
FY22 JSPS Fellows (DC)	令和4年度採用分日本学術振興会特別研究員（DC）	7
Kuma Foundation Creators Scholarship (FY2022)	クマ財団クリエイター奨学金・6期生（2022年度）	1
Tobe Maki Scholarship Foundation 継続	公益財団法人 戸部真紀財団 継続	1

2. Number of grant applications supported and success ratio in FY22/令和4（2022）年度外部資金申請者数

External Fund	外部資金の名称	# of application/申請者数	# of Acceptance/獲得数	Success Ratio/獲得率
FY23 JSPS fellows (DC)	令和5年度採用分日本学術振興会特別研究員（DC）	68	10	15%
JSPS Ikushi Prize	令和4年度日本学術振興会育志賞	3	0	0%
FY2023 JEES・T.Banaji Indiann Student Scholarshi	令和5年度JEES・T.バナージインド留学生奨学金	1	0	0%
FY2022 Tobe Maki Scholarship Foundation	2022年度（令和4年度） 公益財団法人 戸部真紀財団	2	0	0%

Attachment 1. 1-3 FY2022 List of Agreements with Other Universities

添付資料1. 1-3 令和4年度 学術交流協定一覧

University / Institution	大学・機関	Country	国	Type of Agreement	協定のタイプ	New / Continue	新規/継続
University of the Ryukyus	琉球大学	Japan	日本	Agreement of Cooperation	連携協力に関する協定書	Continue	継続
Okinawa National College of Technology	沖縄工業高等専門学校	Japan	日本	Agreement of Cooperation	連携協力に関する協定書	Continue	継続
Graduate School of Medicine, Osaka University	大阪大学大学院医学系研究科	Japan	日本	Special Research Student	特別研究学生	Continue	継続
Graduate School of Informatics Kyoto University	京都大学大学院情報学研究科	Japan	日本	Special Research Student	特別研究学生	Continue	継続
Institute of Medical Science, The University of Tokyo	東京大学医科学研究所	Japan	日本	Academic Exchange Agreement	学術交流協定	Continue	継続
Okinawa Churashima Foundation	沖縄美ら島財団	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
School of Science, The University of Tokyo	東京大学理学部	Japan	日本	Memorandum of Understanding on Student Exchange	学生交流に関する覚書	Continue	継続
Academia Sinica	中央研究院（Academia Sinica）	Taiwan	台湾	Memorandum of Understanding on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する覚書	Continue	継続
RIKEN	理化学研究所	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
The University of Tokyo	東京大学	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
Keio University	学校法人慶應義塾（慶應義塾大学）	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	New	新規
Naha Coast Guard Office	那覇海上保安部	Japan	日本	Comprehensive Collaboration Agreement	包括業務協力に関する協定書	New	新規
Toyota Technological Institute (“TTI”)	豊田工業大学	Japan	日本	Agreement on External Co-supervision of an OIST student	学外副研究指導に関する合意書	Continue	継続
Ecole Pratique des Hautes Etudes (EPHE)	高等研究実習院 (EPHE)	France	フランス	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
University of Augsburg (UniA)	アウクスブルク大学	Germany	ドイツ	Agreement on External Co-supervision of an OIST student	学外副研究指導に関する合意書	Continue	継続
The Hebrew University of Jerusalem (HUJI)	ザ・ヒープロー・ユニバーシティ・オブ・エルサレム	Israel	イスラエル	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導に関する合意書	Continue	継続
National Chiao Tung University	国立交通大学	Taiwan	台湾	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
Johannes Gutenberg University Mainz (JGU)	ヨハネス・ゲーテンベルク大学マインツ	Germany	ドイツ	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
Max Planck Institute for the Physics of Complex Systems	マクスプランク (MPIPCS)	Germany	ドイツ	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
Deutsches Zentrum für Neurodegenerative Erkrankungen (DZNE)	ドイツ神経変性疾患センター	Germany	ドイツ	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
Institut Català d'Investigació Química (“ICIQ”)	ICIQ インスティテュート カタラナ	Spain	スペイン	Request and Standard Terms and Conditions for Hosting an OIST Student	学生受け入れに関する依頼及び標準規約	New	新規
Weizmann Institute of Science	ワイツマン科学研究所	Germany	ドイツ	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導のための契約締結について	New	新規
University of Tokyo	東京大学	Japan	日本	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導のための契約締結について	New	新規
Harvard University	ハーバード 大学	USA	米国	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチの承認について	New	新規
Osaka University	大阪大学	Japan	日本	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチの承認について	New	新規
Kyoto University	京都大学	Japan	日本	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
Queen Mary University London	クイーン・メアリー ロンドン大学 (QMUL)	UK	英国	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	New	新規
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	New	新規
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	New	新規
Stanford University	スタンフォード大学	USA	米国	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
Weizmann Institute of Science	ワイツマン科学研究所	Germany	ドイツ	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規
Institute of Biological Chemistry, Academia Sinica	IBC - 中央研究院生物化学研究所	Taiwan	台湾	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアンドリサーチ及び協定締結の承認について	New	新規

Attachment 1. 1-3 Students Information

添付資料1. 1-3 学生に関する情報

	Metrics	指標	Number / 数値
1	Number of applications for the PhD program (AY2022)	国内外からの博士課程志願者数（令和4学年度）	573
	Japanese	国内	19
	International	海外	554
	Male	男性	399
	Female	女性	174
2	Number of admitted PhD students (Class 2022)	国内外からの博士課程入学学生数（令和4学年度入学学生）	50
	Japanese	国内	9
	International	海外	41
	Male	男性	35
	Female	女性	15
3	Number of graduates (Total)	博士課程修了者数（合計）	118
	AY2016	平成28学年度	7
	AY2017	平成29学年度	13
	AY2018	平成30学年度	15
	AY2019	令和元学年度	25
	AY2020	令和2学年度	17
	AY2021	令和3学年度	23
	AY2022*	令和4学年度*	18
4	PhD student retention rate (%)*	博士課程学生の定着率*	
	Class 2012	平成24学年度入学学生	85
	Class 2013	平成25学年度入学学生	85
	Class 2014	平成26学年度入学学生	85
	Class 2015	平成27学年度入学学生	88
	Class 2016	平成28学年度入学学生	91
	Class 2017	平成29学年度入学学生	89
	Class 2018	平成30学年度入学学生	91
	Class 2019	令和元学年度入学学生	87
	Class 2020	令和2学年度入学学生	92
	Class 2021	令和3学年度入学学生	98
	Class 2022	令和4学年度入学学生	98
5	Average number of students per faculty member*	教員1人あたりの平均学生数*	3
6	Number of applications for the RI program (GS fund and Unit fund)	リサーチインターンシップ・プログラム応募者数 (研究科オフィス及びユニットの予算負担)	
	AY2019	令和元学年度	2,894
	AY2020	令和2学年度	3,723
	AY2021	令和3学年度	3,118
	AY2022*	令和4学年度*	2,876
7	Number of Research Interns (GS fund and Unit fund)	リサーチインターンの人数 (研究科オフィス及びユニットの予算負担)	
	AY2019	令和元学年度	52
	AY2020	令和2学年度	57
	AY2021	令和3学年度	117
	AY2022*	令和4学年度*	102
8	Number of agreements with other universities (List of FY2022 separately attached)	学術交流協定締結数 (令和4年度の締結分は「学術交流協定一覧」に別途記載)	34

Attachment 1.2-1 FY2022 The number of use of our research facilities by external organizations
添付資料1.2-1 令和4年度OIST 研究施設の外部利用者

利用概要	利用者区分	団体数	利用人数	利用期間	利用金額 (円)
300kV クライオ電子顕微鏡の利用	民間企業（OISTスタートアップ企業）	1	2	2022/4/1-2023/3/31	151,492
200kV クライオ電子顕微鏡の利用	民間企業（OISTスタートアップ企業）	1	2	2022/4/1-2023/3/31	85,337
PLASSYS BESTEK MEB550S2-HVの利用	学術機関	1	3	2023/3/7-2023/3/31	550,000

Outline of Use	User Classification	# of Organizations	# of total users	Duration of Use	Amount (Yen)
Use of 300kV Cryo Electron Microscope	Private company (OIST Start-up)	1	2	2022/4/1-2023/3/31	151,492
Use of 200kV Cryo Electron Microscope	Private company (OIST Start-up)	1	2	2022/4/1-2023/3/31	85,337
Use of PLASSYS BESTEK MEB550S2-HV	Academic institute	1	3	2023/3/7-2023/3/31	550,000

添付資料1.2-2 令和4年度 OIST論文・発表数

Attachment 1.2-2 FY2022 OIST Publications and Presentations

OIST 論文数・講演数

(ユニット別)

令和4年度

OIST Scientific Productivity

(by unit)

FY2022

	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術論文(国際会議論文含む)	セミナーの数, 学会でのプレゼン(ポスタープレゼン含む)の数	博士論文、オンラインデータベース等	ユニット別合計
	Total	2	579	1076	62	1719
1	Abdulla	0	3	7	0	10
2	Armitage	0	2	8	1	11
3	Bandi	0	3	4	0	7
4	Bourguignon	0	16	40	0	56
5	Busch	0	20	16	4	40
6	Chakraborty	0	1	3	1	5
7	Christine Luscombe	0	18	26	0	44
8	Cid	0	1	3	0	4
9	Dani	0	5	25	1	31
10	De Schutter	0	9	18	1	28
11	Dieckmann	0	6	15	0	21
12	Doya	0	10	26	2	38
13	Economo	0	31	20	1	52
14	Ekert	0	1	13	0	14
15	Elkouss	0	4	7	0	11
16	Feichtner-Kozlov	0	2	5	0	7
17	Feng	0	1	1	0	2
18	Fried	0	11	3	2	16
19	Froese	0	11	12	0	23
20	Fukai Unit	0	7	25	0	32

	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術論文 (国際会議論文含む)	セミナーの数, 学会でのプレゼン (ポスタープレゼン含む) の数	博士論文、オンラインデータベース等	ユニット別合計
21	Fukunaga	0	5	4	1	10
22	Gioia	0	0	1	0	1
23	Goda	0	2	5	0	7
24	Goryanin	0	21	2	0	23
25	Hikami	0	2	4	0	6
26	Hoehn	0	2	16	0	18
27	Husnik	0	8	16	1	25
28	Ishikawa	0	3	5	1	9
29	Kabe	0	3	14	0	17
30	Kazu (Tanaka)	0	2	16	7	25
31	Khusnutdinova	0	9	11	0	20
32	Kitano	0	2	14	0	16
33	Kiyomitsu	0	2	6	0	8
34	Kondrashov	0	0	4	0	4
35	Kono	0	7	21	0	28
36	Konstantinov	0	4	6	1	11
37	Kuhn	0	2	29	0	31
38	Kusumi	0	3	2	1	6
39	Laudet	1	16	11	1	29
40	Laurino	0	5	41	0	46
41	Liu	0	3	8	0	11
42	Luscombe	0	13	17	1	31
43	Maruyama	0	0	0	0	0
44	Masai	0	1	19	2	22
45	Meitinger	0	0	4	0	4
46	Miller	0	3	10	3	16
47	Mitarai	0	10	23	2	35

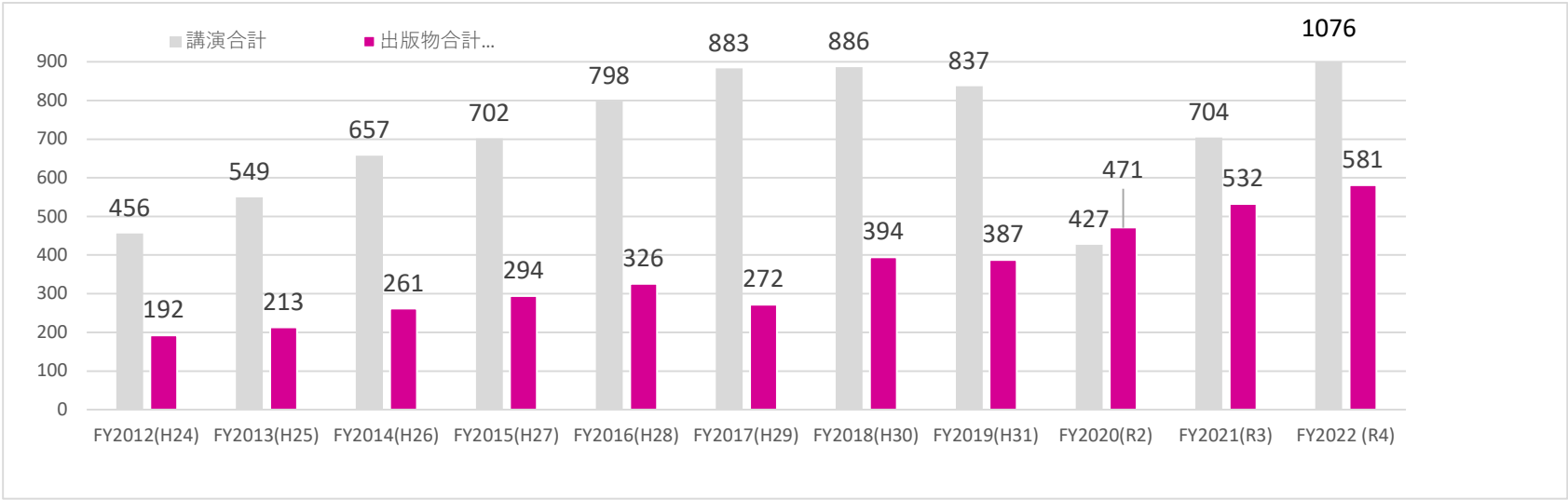
	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術論文(国際会議論文含む)	セミナーの数, 学会でのプレゼン(ポスタープレゼン含む)の数	博士論文、オンラインデータベース等	ユニット別合計
48	Myers	0	3	5	0	8
49	Narita	0	13	16	0	29
50	Neiman	0	22	15	0	37
51	Nemoto	0	11	34	0	45
52	Nic Chormaic	0	20	44	1	65
53	Okada	0	7	17	1	25
54	Paabo	0	3	3	0	6
55	Pao	0	1	0	0	1
56	Pigolotti	0	5	8	0	13
57	Qi	0	20	5	0	25
58	Ravasi	1	12	5	0	18
59	Reiter	0	1	17	0	18
60	Rokhsar	0	2	4	0	6
61	Rosti	0	11	31	4	46
62	Sallan	0	3	9	0	12
63	Satoh	0	14	6	0	20
64	Saze	0	3	11	0	14
65	Shannon	0	4	8	1	13
66	Shen	0	17	54	4	75
67	Shintake	0	12	4	0	16
68	Skoglund	0	3	1	0	4
69	Speyer	0	4	14	0	18
70	Stephens	0	2	13	1	16
71	Sugiyama	0	2	4	0	6
72	Takahashi	0	2	4	0	6
73	Takahashi Hiroki	0	4	19	6	29
74	Tanaka	0	4	6	0	10

	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術論文 (国際会議論文含む)	セミナーの数, 学会でのプレゼン (ポスタープレゼン含む) の数	博士論文、オンラインデータベース等	ユニット別合計
75	Tani	0	7	6	1	14
76	Terenzio	0	2	13	1	16
77	Toriumi	0	4	13	0	17
78	Touber	0	1	0	3	4
79	Tripp	0	6	6	0	12
80	Twamley	0	10	21	0	31
81	Uusisaari	0	3	14	0	17
82	Watanabe	0	5	12	1	18
83	Wickens	0	3	4	1	8
84	Wolf	0	11	11	1	23
85	Yamada	0	2	0	1	3
86	Yamamoto	0	10	11	0	21
87	Yanagida	0	6	3	0	9
88	Yokobayashi	0	5	7	1	13
89	Yoshida	0	2	3	0	5
90	Zhou	0	7	9	0	16

OIST論文数・講演数 (平成24-令和4年度)

OIST Scientific Productivity (FY2012-2022)

	書籍の 執筆・編集	書籍の章及び 学術論文	学会での講演 (ポスタープレゼンを含む)	セミナー	博士論文、オンライン データベース等	講演合計	出版物合計 (書籍、書籍の章、学術論文 等)
	Books and edited books	Book Chapters and Journal Articles	Presentations at conferences including poster presentations	Seminars	Dissertations, online databases, etc	Presentations and seminars	Publications (including books and book chapters)
FY2012(H24)		192	309	147	0	456	192
FY2013(H25)	2	211	430	119	0	549	213
FY2014(H26)		261	491	166	0	657	261
FY2015(H27)	2	292	535	167	1	702	294
FY2016(H28)	2	324	616	182	4	798	326
FY2017(H29)	2	270	692	191	7	883	272
FY2018(H30)	1	393	703	183	3	886	394
FY2019(H31)	7	380	641	196	16	837	387
FY2020(R2)	1	470	302	125	33	427	471
FY2021(R3)	3	529	487	217	33	704	532
FY2022 (R4)	2	579	783	293	62	1076	581



複数教員による共同出版数（令和4年度）

Number of joint publications between different faculty members (FY2022)

FY2022 OIST Internal Collaborative Publications

- (1) Tsai, H.-F.; Carlson, D. W.; Koldaeva, A.; Pigolotti, S.; Shen, A. Q. Optimization and Fabrication of Multi-Level Microchannels for Long-Term Imaging of Bacterial Growth and Expansion. *Micromachines* **2022**, 13 (4), 576.
<https://doi.org/10.3390/mi13040576>.
- (2) Le Kien, F.; Kornovan, D. F.; Nic Chormaic, S.; Busch, T. Repulsive Casimir-Polder Potentials of Low-Lying Excited States of a Multilevel Alkali-Metal Atom near an Optical Nanofiber. *Phys. Rev. A* **2022**, 105 (4), 042817.
<https://doi.org/10.1103/PhysRevA.105.042817>.
- (3) Kashimoto, R.; Tanimoto, M.; Miura, S.; Satoh, N.; Laudet, V.; Khalturin, K. Transcriptomes of Giant Sea Anemones from Okinawa as a Tool for Understanding Their Phylogeny and Symbiotic Relationships with Anemonefish. *Zoolog. Sci.* **2022**, 39 (4), 374–387. <https://doi.org/10.2108/zs210111>.
- (4) Le Kien, F.; Nic Chormaic, S.; Busch, T. Optical Force between Two Coupled Identical Parallel Optical Nanofibers. *Phys. Rev. A* **2022**, 105 (6), 063517.
<https://doi.org/10.1103/PhysRevA.105.063517>.
- (5) Le Kien, F.; Nic Chormaic, S.; Busch, T. Transfer of Angular Momentum of Guided Light to an Atom with an Electric Quadrupole Transition near an Optical Nanofiber. *Phys. Rev. A* **2022**, 106 (1), 013712.
<https://doi.org/10.1103/PhysRevA.106.013712>.
- (6) Wepfer, P. H.; Nakajima, Y.; Fujimura, A.; Mikheyev, A. S.; Economo, E. P.; Mitarai, S. The Oceanographic Isolation of the Ogasawara Islands and Genetic Divergence in a Reef-Building Coral. *J. Biogeogr.* **2022**, 49 (11), 1978–1990.
<https://doi.org/10.1111/jbi.14475>.
- (7) Bhat, D.; Hauf, S.; Plessy, C.; Yokobayashi, Y.; Pigolotti, S. Speed Variations of Bacterial Replisomes. *eLife* **2022**, 11, e75884. <https://doi.org/10.7554/eLife.75884>.
- (8) Youssef, M. M. M.; Hamada, H. T.; Lai, E. S. K.; Kiyama, Y.; El-Tabbal, M.; Kiyonari, H.; Nakano, K.; Kuhn, B.; Yamamoto, T. TOB Is an Effector of the Hippocampus-Mediated Acute Stress Response. *Transl. Psychiatry* **2022**, 12 (1), 1–15. <https://doi.org/10.1038/s41398-022-02078-7>.
- (9) Sonnenschein, J.; Tsulaia, M. A Note on Shape Invariant Potentials for Discretized Hamiltonians. *Mod. Phys. Lett. A* **2022**, 37 (23), 2250153.
<https://doi.org/10.1142/S021773232250153X>.
- (10) Dronova, M. G.; Ye, F.; Cooper, S. E.; Krishnadas, A.; Hoffmann, C. M.; Fujisawa, Y.; Okada, Y.; Khomskii, D. I.; Feng, Y. Controlling Inversion Disorder in a Stoichiometric Spinel Magnet. *Proc. Natl. Acad. Sci.* **2022**, 119 (43), e2208748119.
<https://doi.org/10.1073/pnas.2208748119>.

- (11) Wu, T.; Ono, L. K.; Yoshioka, R.; Ding, C.; Zhang, C.; Mariotti, S.; Zhang, J.; Mitrofanov, K.; Liu, X.; Segawa, H.; Kabe, R.; Han, L.; Qi, Y. Elimination of Light-Induced Degradation at the Nickel Oxide-Perovskite Heterojunction by Aprotic Sulfonium Layers towards Long-Term Operationally Stable Inverted Perovskite Solar Cells. *Energy Environ. Sci.* **2022**, *15* (11), 4612–4624. <https://doi.org/10.1039/D2EE01801B>.
- (12) Xu, X.; Serra, G.; Villa, A.; Muñoz-Mármol, R.; Vasylevskyi, S.; Gadea, M.; Lucotti, A.; Lin, Z.; Boj, P. G.; Kabe, R.; Tommasini, M.; Díaz-García, M. Á.; Scotognella, F.; Paternò, G. M.; Narita, A. Synthesis of Zigzag- and Fjord-Edged Nanographene with Dual Amplified Spontaneous Emission. *Chem. Sci.* **2022**, *13* (44), 13040–13045. <https://doi.org/10.1039/D2SC04208H>.
- (13) Purba, E. R.; Saita, E.; Akhouri, R. R.; Öfverstedt, L.-G.; Wilken, G.; Skoglund, U.; Maruyama, I. N. Allosteric Activation of Preformed EGF Receptor Dimers by a Single Ligand Binding Event. *Front. Endocrinol.* **2022**, *13*.
- (14) Furukawa, E.; Bado, P.; da Costa, R. Q. M.; Melo, B.; Erthal, P.; de Oliveira, I. P.; Wickens, J. R.; Moll, J.; Tripp, G.; Mattos, P. Reward Modality Modulates Striatal Responses to Reward Anticipation in ADHD: Effects of Affiliative and Food Stimuli. *Psychiatry Res. Neuroimaging* **2022**, *327*, 111561. <https://doi.org/10.1016/j.psychres.2022.111561>.
- (15) Takeuchi, T.; Suzuki, Y.; Watabe, S.; Nagai, K.; Masaoka, T.; Fujie, M.; Kawamitsu, M.; Satoh, N.; Myers, E. W. A High-Quality, Haplotype-Phased Genome Reconstruction Reveals Unexpected Haplotype Diversity in a Pearl Oyster. *DNA Res.* **2022**, *29* (6), dsac035. <https://doi.org/10.1093/dnares/dsac035>.
- (16) Le Kien, F.; Nic Chormaic, S.; Busch, T. Direction-Dependent Coupling between a Nanofiber-Guided Light Field and a Two-Level Atom with an Electric Quadrupole Transition. *Phys. Rev. A* **2023**, *107* (1), 013713. <https://doi.org/10.1103/PhysRevA.107.013713>.
- (17) Herrera, M.; Ravasi, T.; Laudet, V. Anemonefishes: A Model System for Evolutionary Genomics. F1000Research February 21, 2023. <https://doi.org/10.12688/f1000research.130752.1>.
- (18) Moore, B.; Herrera, M.; Gairin, E.; Li, C.; Miura, S.; Jolly, J.; Mercader, M.; Izumiyama, M.; Kawai, E.; Ravasi, T.; Laudet, V.; Ryu, T. The Chromosome-Scale Genome Assembly of the Yellowtail Clownfish Amphiprion Clarkii Provides Insights into the Melanic Pigmentation of Anemonefish. *G3 GenesGenomesGenetics* **2023**, *13* (3), jkad002. <https://doi.org/10.1093/g3journal/jkad002>.
- (19) Tan, J.; Xu, X.; Liu, J.; Vasylevskyi, S.; Lin, Z.; Kabe, R.; Zou, Y.; Müllen, K.; Narita, A.; Hu, Y. Synthesis of a π -Extended Double [9]Helicene. *Angew. Chem. Int. Ed.* **2023**, *n/a* (n/a), e202218494. <https://doi.org/10.1002/anie.202218494>.
- (20) Wu, T.; Xu, X.; Ono, L. K.; Guo, T.; Mariotti, S.; Ding, C.; Yuan, S.; Zhang, C.; Zhang, J.; Mitrofanov, K.; Zhang, Q.; Raj, S.; Liu, X.; Segawa, H.; Ji, P.; Li, T.; Kabe, R.; Han, L.; Narita, A.; Qi, Y. Graphene-Like Conjugated Molecule as Hole-Selective Contact for Operationally Stable.

The above collaborative publications were published by the following units:

- 1) Shen/Pigolotti
- 2) Busch/Nic Chormaic
- 3) Laudet/Satoh
- 4) Busch/Nic Chormaic
- 5) Busch/Nic Chormaic
- 6) Mitarai/Economo
- 7) Pigolotti/Yokobayashi/Luscombe
- 8) Yamamoto/Kuhn/Yoshida
- 9) Neiman/Shannon
- 10) Feng/Okada
- 11) Qi/Kabe
- 12) Narita/Kabe
- 13) Maruyama/Skoglund
- 14) Tripp/Wickens
- 15) Myers/Satoh
- 16) Busch/Nic Chormaic
- 17) Laudet/Ravasi
- 18) Laudet/Ravasi
- 19) Narita/Kabe
- 20) Qi/Narita/Kabe

添付資料1.3-1 令和4年度研究に関する受賞実績
受賞実績(教員)

No.	研究ユニット	受賞者・受賞理由	URL	受賞日
1	マイヤーズ ユニット (生態・進化ゲノミクスアルゴリズム ユニット)	マイヤーズ教授(アジャンクト)は、国電気電子学会フランス・アレンメダルを受賞しました。	https://www.mpi-cbg.de/news-outreach/news-media/article/first-ieee-frances-e-allen-medal-for-eugene-myers-and-webb-miller	2022年5月6日
2	チー ユニット (エネルギー材料と表面科学 ユニット)	ヤビン・チー教授は花王科学賞を受賞しました。	https://www.kao-foundation.or.jp/award/science/result/r3.html	2022年6月2日
3	嘉部 ユニット (有機光エレクトロニクス ユニット)	嘉部量太准教授は、有機発光を発見し、その機構解明を行っていることにより、日本画像学会コミニルタ科学技術振興財団研究奨励賞を日本画像学会より受賞しました。	n/a	2022年6月22日
4	銅谷 ユニット (神経計算 ユニット)	琉球大学と沖縄科学技術大学院大学の研究グループによる電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会で2021年6月に発表した論文「Partial information decompositionを用いた大脳基底核の活動と過去の経験がラットの選択行動に与える影響」が、2022年度の日本神経回路学会最優秀研究賞を受賞しました。メンバーは杉浦伊織(琉球大学修士課程学生)、伊藤司(琉球大学博士課程学生)、銅谷寛治教授(OIST)、倉田耕治(琉球大学教授)、宮田龍太(琉球大学助教)です。	https://jnns.org/winner/2022%E5%B9%B4%E5%BA%A6/	2022年7月
5	高橋 ユニット (細胞分子シナプス機能 ユニット)	高橋智幸教授が生理学への卓越した貢献により、2022年国際生理科学連合(IUPS)のアカデミーフェローに選出されました。	https://www.iups.org/physiology/iups-academy-of-physiology/	2022年7月20日
6	河野 ユニット (膜生物学 ユニット)	河野恵子教授は酵母遺伝学フォーラムから酵母遺伝学フォーラム会長賞を授与されました。	https://www.yeast-forum.org/meeting_student.html	2022年9月9日
7	ロスティ ユニット (複雑流体・流動 ユニット)	ロスティエアルドマルコ准教授は、実験と理論の両面から取り組む姿勢が高く評価され、今後益々の発展が期待できる研究者として、日本流体力学会から電門賞を授与されました。	https://www.nagare.or.jp/en/awards.html	2022年9月21日
8	スティープنز ユニット (理論生物物理学 ユニット)	グレッグ・スティープنز教授がアメリカ物理学会のフェローに選出されました。	https://www.aps.org/programs/honors/fellowships/	2022年10月
9	チー ユニット (エネルギー材料と表面科学ユニット ユニット)	ヤビン・チー 教授はクラリベイトから高被引用研究者の1 人に選ばれました。	https://clarivate.com/highly-cited-researchers/	2022年11月15日
10	ペーボ ユニット (ヒト進化ゲノミクスユニット ユニット)	スバンテ・ペーボ教授(アジャンクト)は、絶滅したヒトのゲノムと人類の進化に関する発見で、2022年のノーベル生理学・医学賞を受賞しました。	https://www.nobelprize.org/prizes/medicine/2022/press-release/	2022年12月1日
11	シッド ユニット (応用暗号 ユニット)	カルロス・シッド 教授は 国際サイバーセキュリティセンター 拠点 (INCS-CoE) の コミュニティフェローに任命されました。	https://incs-coe.org/about/	2022年12月12日
12	リュウ ユニット (幾何学的偏微分方程式 ユニット)	柳青准教授は「退化を許す非線形放物型方程式の解の形状の解析」により第14回日本数学会函数方程式論分科会福原賞を受賞しました。	https://www.mathsoc.jp/section/dfe/index.html	2022年12月24日
13	クリスティーン・ラスカム ユニット (バイ共役ポリマー ユニット)	クリスティーン・ラスカム教授が2022年度高分子学会学術賞を受賞しました。 研究題目: 直接アリアル化および触媒移動に基づく縮合重合による半導体ポリマーの合成	https://main.spsj.or.jp/c15/gakujutsu/gakujutsuran.php	2023年2月23日
14	ピゴロッチ ユニット (生物複雑性 ユニット)	シモーネ・ピゴロッチ教授は、APSジャーナルの査読に卓越した貢献をした科学者として、Outstanding Referee programを受賞しました。	https://journals.aps.org/OutstandingReferees	2023年3月
15	クリスティーン・ラスカム ユニット (バイ共役ポリマー ユニット)	ポスター「The “step-growth” and “chain-growth” dilemma: Why we need to reconsider terminology used」が英国王立化学会主催の Global Twitter Poster Conference (材料分野)で1位を獲得しました。クリスティーン・ラスカム教授はポスター共著者の一人です。	https://www.rsc.org/our-events/rsc-poster/winners/#RSCMat	2023年3月17日

受賞実績(研究員・学生)

No.	研究ユニット	受賞者・受賞理由	URL	受賞日
1	ウーシサーリ ユニット (神経活動リズムと運動遂行 ユニット)	研究員のグウオダ博士は、日本神経科学学会の国際連携委員より、2022年度JNS-CNS Exchange Travel Awardプログラムに選出されました。	https://www.jnss.org/etc?id=220516-01&ampu=1c986208fa74cfdf552835fd65ee678&amp;c=2	2022年5月13日
2	ダニ ユニット (フェムト秒分光法 ユニット)	研究員のバグシガン フィルチレニ博士は「Terahertz Excitonics in Carbon Nanotubes: Exciton Autoionization and Multiplication」の論文功績により 大阪大学から「第16回大阪大学近藤賞(論文賞)」を受賞しました。	https://www.ile.osaka-u.ac.jp/ja/education/kondo-prize/list/index.html	2022年6月22日
3	岡田 ユニット (量子物質科学 ユニット)	研究員の藤澤唯太博士は2022年応用物理学会春季学術講演会で行った講演論文で講演奨励賞を受賞しました。	https://www.jsap.or.jp/young-scientist-presentation-award/recipient52	2022年9月
4	チー ユニット (エネルギー材料と表面科学ユニット ユニット)	研究員の大野ルイス博士はクラリベイトから高被引用研究者の1 人に選ばれました。	https://clarivate.com/highly-cited-researchers/	2022年11月15日
5	シェン ユニット (マイクロ・バイオ・ナノ流体 ユニット)	ポルトドス サントス タティアナ博士はマリーキュリー欧州ポストドクフェローシップを獲得しました。	n/a	2023年2月
6	シャノン ユニット (量子理論 ユニット)	ホイナツキ レイリ(博士課程学生)は、2022年度強磁性国際学会のベストポスターアワードを受賞しました。	https://hfm2022.sciencesconf.org/	2022年6月22日
7	ウーシサーリ ユニット (神経活動リズムと運動遂行 ユニット)	サルバトーレ・ラカヴァ(博士課程学生)は、2022年度のNCM(Neural Control of Movement)学会において、Satellite Meeting Travel Awardを受賞しました。	n/a	2022年7月
8	ラウリーノ ユニット (タンパク質工学・進化 ユニット)	神初 弾(博士課程学生)は、サンフランシスコで開催された第36回Protein Society Annual Symposiumにてポスター賞を受賞しました。	n/a	2022年7月8日
9	シャノン ユニット (量子理論 ユニット)	ホイナツキ レイリ(博士課程学生)は、第29回低温物理学国際学会のベストポスターアワードを受賞しました。	https://www.lt29.jp/prizes_awards.html	2022年8月22日
10	トゥウムリー ユニット (量子マシン ユニット)	タチャナ・アイコブレバ(博士課程学生)は2022年8月18-24日に札幌で開催された“29th International Conference on Low Temperature Physics”にてベストポスター賞を受賞しました。	https://www.lt29.jp/prizes_awards.html	2022年8月24日
11	ラウリーノ ユニット (タンパク質工学・進化 ユニット)	落合佳樹(博士課程学生)は、第62回生命科学夏の学校にて、“祖先再構成法によるDNA/RNAアデニンメチル化酵素の機能変遷の追跡”の口頭発表を行いベストプレゼンテーション賞を受賞しました。	n/a	2022年8月26-28日
12	ニコマック ユニット (量子技術のための光・物質相互作用 ユニット)	前田真貴(博士課程学生)は応用物理学会 第7回フォトニクスワークショップにて優秀ポスター賞を受賞しました。	https://annex.jsap.or.jp/photonics/en/event-schedule/221125-1126	2022年11月26日
13	河野 ユニット (膜生物学 ユニット)	須田晃治郎(博士課程学生)は、第45回日本分子生物学会年会における優秀な発表に対して、日本分子生物学会よりMBSJ2022 サイエンスピッチアワードを受賞しました。	https://www.mbsj.jp/meetings/annual/2022/science_pitch_award.pdf	2022年12月2日
14	河野 ユニット (膜生物学 ユニット)	須田晃治郎(博士課程学生)は、第45回日本分子生物学会年会での優れた発表に対して、欧州分子生物学会よりEMBO Science Pitch Prizeを受賞しました。	https://www.mbsj.jp/meetings/annual/2022/embo_science_pitch_prize.p df	2022年12月2日
15	御手洗 ユニット (海洋生態物理学 ユニット)	オーティス プラナー(博士課程学生)は2022年12月19日、英国エディンバラで開催されたBritish Ecological Society Meeting 2022にて、最優秀学生発表賞を受賞しました。	n/a	2022年12月19日
16	ブーギニョン ユニット (進化ゲノミクス ユニット)	菊池顕生(博士課程学生)は、日本生態学会第70回全国大会英語口頭発表 ベストプレゼンテーション賞を受賞しました。	https://www.esj.ne.jp/esj/award/epa/list.html	2023年3月1日
17	ダニ ユニット (フェムト秒分光法 ユニット)	ビベック バリック(博士課程学生)はDivision of Material Physics (DMP), APS March meeting 2023よりオブシニスキー学生旅行賞を受賞しました。	https://engage.aps.org/dmp/honors/prizes-awards/student-travel-awards	2023年3月7日

Attachment 1.3-2 FY2022 Outreach by Faculty and Researchers

添付資料 1.3-2 令和4年度 アウトリーチ活動実績

イベント数	日付/Date	研究ユニット/セクション Unit/Section	プログラム名/参加者	内容/Contents	会場/Venue	グループ/ Group	参加者数/ Number of people
1	2022/7/5	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジー・グループ	うんな中学校職業体験 Unna JHS Internship program	Science program/科学プログラム	OIST	OJ	4
2	2022/7/12		アメラジアンスクール	Science program/科学プログラム	現地開催		12
3	2022/7/14	Marine Science Section 海洋科学セクション	海の日サイエンスカフェ Ocean day Science Café	Science talk/サイエンストーク		G	60
4	2022/7/14	Nucleic Acid Chemistry and Engineering Unit 核酸化学・工学ユニット	知念高校訪問 School visit program	Career education/キャリア教育	Chinen H.S 知念高校	OH	80
5	2022/7/14	Nucleic Acid Chemistry and Engineering Unit 核酸化学・工学ユニット	一般オンラインツアー Online Campus tour	Research outline/研究紹介	Online/オンライン	G	18
6	2022/8/3	Marine Biophysics Unit 海洋生態物理学ユニット	キッズサイエンスカレッジ with 沖縄こどもの国 Science program with Kodomomono kuni	Science program/科学プログラム	沖縄こどもの国 Okinawa Kodomo no kuni	OE	20
7	2022/8/5	Marine Biophysics Unit 海洋生態物理学ユニット	サイエンストリップ伊平屋島 Science trip to Iheyajima	Science program/科学プログラム	Ihey Community Center/伊平屋公民館	OE	70
8	2022/8/13	Marine Science Section 海洋科学セクション	サイエンステックラボ2022 Science Tech Lab 2022	Science program/科学プログラム	OIST	OE	20
9	2022/8/15	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	こどもかがく教室 1-2年生クラス School of Science	Science program/科学プログラム	Online/オンライン	OE	17
	2022/8/16	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	こどもかがく教室 1-3年生クラス	Science program/科学プログラム	Online/オンライン	OE	24
	2022/8/17	Biodiversity and Biocomplexity Unit 生物多様性・複雑性研究ユニット	こどもかがく教室 オープンクラス School of Science	Science program/科学プログラム	Online/オンライン	OE	100
	2022/8/18	Neural Computation Unit神経計算ユニット	こどもかがく教室 中学生クラス	Science program/科学プログラム	Online/オンライン	OJ	15
	2022/8/18	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	こどもかがく教室 3-4クラス School of Science	Science program/科学プログラム	Online/オンライン	OE	24
	2022/8/19	Developmental Neurobiology Unit 神経発生ユニット	こどもかがく教室 5-6クラス School of Science	Science program/科学プログラム	Online/オンライン	OE	24
10	2022/8/23		第10回スコア！インターンシップ		OIST	OH	
11	2022/9/12	Quantum Machines Unit量子マシンユニット	ALLやんばる サイエンスクラブ All Yanbaru Science club	Science program/科学プログラム		OE	20
12	2022/9/29	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	沖縄カトリック中学校 School Visit program	Career education/キャリア教育	Okinawa Catholic J.H.S 沖縄カトリック中学校	OJ	80
13	2022/10/4	Computational Neuroscience Unit 計算脳科学ユニット	名護小学校 School Visit program	Science program/科学プログラム	Nago E.S 名護小学校	OE	25
14	2022/10/17		茨城県立水戸農業高等学校 School Visit program		OIST		35
15	2022/10/20		森川特別支援学校		Online/オンライン		5
16	2022/10/26	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	文教大学付属高校 School Visit program	Research outline/研究紹介	OIST	H	272
17	2022/11/4	Cognitive Neurobotics Research Unit 認知脳ロボティクス研究ユニット	南星中学校 School Visit program	Research outline/研究紹介	Nansei J.H.S 南星中学校	OJ	30
18	2022/11/12	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit 非線形・非平衡物理学ユニット Experimental Quantum Information Physics Unit	サイエンスフェスタ2022 Science Festival 2022	Science event/科学イベント	OIST	Other	600
19	2022/11/18	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	屋部小学校 School Visit program	Science program/科学プログラム	Yabu E.S 屋部小学校	OE	20
20	2022/11/28	Marine Climate Change Unit海洋気候変動ユニット	松川小学校 School Visit program	Science program/科学プログラム	OIST	OE	82
21	2022/12/1	Developmental Neurobiology Unit 神経発生ユニット	屋我地小学校 School Visit program	Science program/科学プログラム	Yagaji E.S 屋我地小学校	OE	15
22	2022/12/2		恩納村SDGs探求プロジェクト Onna village SDG project	Research outline/研究紹介			10
23	2022/12/2	Marine Science Section 海洋科学セクション	サイエンストリップ八重山① Science trip to Yaeyama	Science event/科学イベント	Yaeyama H.S 八重山高校	OH	20
	2022/12/4	Marine Science Section 海洋科学セクション	サイエンストリップ八重山② Science trip to Yaeyama	Science event/科学イベント	Community Center Ishigaki 石垣市公民館	OE	70
24	2022/12/8	Marine Genomics Unit マリングénomクスユニット	盈進学園 School Visit program	Research outline/研究紹介	OIST	J	40
25	2022/12/10	Fluid Mechanics Unit流体力学ユニット	SCORE	Science event/科学イベント	OIST	OH	46
26	2022/12/11	Nucleic Acid Chemistry and Engineering Unit 核酸化学・工学ユニット	サイエンステックフェス Science Tech festival	Science program/科学プログラム	Naha San-A 那覇サンエー	OE	200
27	2022/12/15	Quantum Wave Microscopy Unit量子波光学顕微鏡ユニット	International school School visit program	Research outline/研究紹介	OIST	Other	3
28	2022/12/17	Computational Neuroscience Unit 計算脳科学ユニット	サイエンスカレッジ(沖縄こどもの国主催) Science collage Okinawa city	Science program/科学プログラム	沖縄こどもの国 Okinawa Kodomo no kuni	OE	15
29	2022/12/19	User Support Team ユーザーサポートチーム	名護商工高等学校 School visit program	Career education/キャリア教育	OIST	OH	40
30	2022/12/21	Organic Optoelectronics Unit 有機光エレクトロニクスユニット	西武学園文理高等学校	Research outline/研究紹介	OIST	H	46
31	2023/1/11	Media Relations Section メディア連携セクション	沖縄尚学高等学校附属中学校 School visit program	Career education/キャリア教育	OIST		40
32	2023/1/18	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	読谷中学校講演会 Science talk for JHS students	Science talk/サイエンストーク	Yomitan J.H 読谷中学校	OJ	320
33	2023/1/18	Environmental Science and Informatics Section 環境科学・インフォマティクスセクション	広島県立広島敬智学園中学校 School visit program	Science program/科学プログラム	OIST	J	40
	2023/1/19	Environmental Science and Informatics Section 環境科学・インフォマティクスセクション	広島県立広島敬智学園中学校 School visit program	Science program/科学プログラム	OIST	J	40
34	2023/1/27	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	古堅中学校講演会 Science talk for JHS students	Science talk/サイエンストーク	Furugen J.H 古堅中学校	OJ	280

イベント数	日付/Date	研究ユニット/セクション Unit/Section	プログラム名/参加者	内容/Contents	会場/Venue	グループ/ Group	参加者数/ Number of people
35	2023/1/27	Macroevolution Unit 大進化ユニット	伊是名青年の家訪問	Science program/科学プログラム	OIST	Other	10
36	2023/1/29		うるま市産業フェス Uruma city Industrial festival	Science program/科学プログラム	Uruma city うるま市	OE	100
37	2023/1/30		スバンテ・ペーボ教授講演会 in 東京		現地開催		950
38	2023/2/3		鹿児島県徳之島町長訪問		現地開催		5
39	2023/2/5		読谷村まなびの日フェスタ		現地開催		200
40	2023/2/17		沖縄尚学付属中学校 School visit program		現地開催		42
41	2023/2/21		名護高校 School visit program		現地開催		80
42	2023/2/28	Marine Genomics Unit マリンゲノミクスユニット	安慶田中学校出前授業 School visit program	Research outline/研究紹介	Ageda J.H 安慶田中学校	OJ	120
43	2023/3/2	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	AMICUS職業体験 School visit program	Research outline/研究紹介	OIST	Other	5
44	2023/3/3	Human Developmental Neurobiology Unit 発達神経生物学ユニット	サイエンストリップ宮古 ADHD講座 Science trip to Miyakojima	Science talk/サイエンストーク	Miyako Community center 宮古未来創造センター	G	103
	2023/3/4	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	サイエンストリップ宮古 細胞模型講座 Science trip to Miyakojima	Science event/科学イベント	Miyako City Museum 宮古島市博物館	OE	62
45	2023/3/3		E.C.Killin elementary school School visit program		現地開催		50
46	2023/3/8	Scientific Imaging Section イメージングセクション	白鷗大学足利中学校 School visit program	Research outline/研究紹介	OIST	J	44
47	2023/3/14	Cell Signal Unit 細胞シグナルユニット	興国高校 School visit program	Science program/科学プログラム	OIST	H	10
48	2023/3/17	Nucleic Acid Chemistry and Engineering Unit 核酸化学・工学ユニット	具志川高校 School visit program	Career education/キャリア教育	Gushikawa H.S 具志川高校	OH	240
49	2023/3/27		スコアインターンシップ受け入れ		OIST		7
50	2023/3/29		DUO international school		OIST		15
51	20230203協会)		シェアードサービス経営者部会(一般社 団法人コーポレート機能協会)		現地開催		15
52	2023/3/29	Evolution, Cell Biology, and Symbiosis Unit 進化・細胞・共生の生物学ユニット	DUO international school	Research outline/研究紹介	OIST	OE	15

OE 県内小学校/Elementary school in Okinawa
OJ 県内中学校/Middle school in Okinawa
OH 県内高校/High school in Okinawa
E 県外小学校/Elementary school outside Okinawa
J 県外中学校/Middle school outside Okinawa
H 県外高校/High school outside Okinawa
G 一般/General visitors
Other その他

Keyword: OIST Workshop

令和4年度OIST主催によるワークショップ

	開催状況	開始日	終了日	テーマ	開催場所	中止/延期されたイベントの予定参加者数	参加者数（リモート参加含む）	内、会場参加者	内、リモート参加者	内、海外参加者（リモート参加含む）
1	ハイブリッド	2022年4月12日	2022年4月14日	OISTワークショップ「日本冷却原子国際会議」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	225	40	185	97
2	ハイブリッド	2022年5月23日	2022年5月27日	OISTワークショップ「距離空間における解析学」	OISTカンファレンス・センター	非該当	75	12	63	27
3	オンライン	2022年5月30日	2022年6月3日	OISTワークショップ「Informational Architecture of Spacetime」	オンライン（Zoom）	非該当	124	0	124	100
4	オンライン	2022年6月6日	2022年6月9日	OISTワークショップ「細胞、エナジェティクス、情報：非平衡系の新しい視点」	オンライン（Zoom）	非該当	147	147	0	88
5	ハイブリッド	2022年6月13日	2022年6月29日	OISTワークショップ「OIST計算神経科学コース 2022」	OISTシーサイドハウス	非該当	42	39	3	30
6	ハイブリッド	2022年7月4日	2022年7月5日	国際シンポジウム「人工知能と脳科学」2022	OISTカンファレンス・センター	非該当	756	149	607	260
7	ハイブリッド	2022年10月3日	2022年10月7日	OISTワークショップ「軸索変性および再生に関するOISTワークショップ」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	84	39	45	37
8	ハイブリッド	2022年11月7日	2022年11月11日	OISTワークショップ「身体性認知科学国際会議（ECogS）」	OISTシーサイドハウス	非該当	38	38	0	9
9	ハイブリッド	2023年1月10日	2023年1月12日	OISTワークショップ「マイクロレオロジーとマイクロ流体技術に関する近年の動向」	OISTメインキャンパス、OISTカンファレンス・センター及びOISTシーサイドハウス	非該当	40	40	0	11
10	ハイブリッド	2023年3月6日	2023年3月9日	OISTワークショップ「神経発生形成」	OISTカンファレンス・センター	非該当	43	41	2	22
11	会場開催	2023年3月20日	2023年3月24日	OISTワークショップ「トポロジー、可積分系、そして双対性 ～女性による研究会～」	OISTメインキャンパス	非該当	48	48	0	15
12	中止	2022年11月4日	2022年11月28日	OISTワークショップ「OIST神経科学コース2022」	OISTメインキャンパス	42	-	-	-	-
13	延期	2023年2月13日	2023年2月17日	OISTワークショップ「光電子デバイス国際シンポジウム」	OISTカンファレンス・センター	63	-	-	-	-
合計							1622	593	1029	696

Keyword: OIST Mini Symposium

令和4年度開催のOIST主催によるミニシンポジウム

	開催状況	開始日	終了日	テーマ	開催場所	中止/延期されたイベントの予定参加者数	参加者数（リモート参加含む）	内、会場参加者	内、リモート参加者	内、海外参加者（リモート参加含む）
1	会場開催	2022年11月29日	2022年12月1日	OISTミニシンポジウム「シロアリの細菌エコロジーと進化」	OISTメインキャンパス	非該当	19	19	0	10
2	会場開催	2023年1月25日	2023年1月27日	OISTミニシンポジウム「ADHD動機づけ過程変動に関する研究エビデンスを基にした行動管理の実践応用に向けて：新たな研究課題への展開」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	17	17	0	7
3	会場開催	2023年2月28日	2023年3月2日	OISTミニシンポジウム「ソフトウェアシステムの降伏と流れ」	OISTメインキャンパス及びOISTシーサイドハウス	非該当	30	30	0	7
4	中止	2023年2月23日	2023年2月24日	OISTミニシンポジウム「神経回路の性的二型」	OISTメインキャンパス	15	-	-	-	-
合計							66	66	0	24

Keyword: OIST Jointly Funded WS

令和4年度開催のOIST共催ワークショップ

	開催状況	開始日	終了日	テーマ	開催場所	中止/延期されたイベントの予定参加者数	参加者数（リモート参加含む）	内、会場参加者	内、リモート参加者	内、海外参加者（リモート参加含む）
1	ハイブリッド	2022年9月18日	2022年9月21日	The 52nd IUVSTA workshop on Advanced Spectroscopy and Transport for 2D Materials at Surfaces and The 4th Asia-Pacific Symposium on Solid Surfaces (APSSS-4)	OISTカンファレンス・センター及びZoom	非該当	56	44	12	24
合計							56	44	12	24

*Keyword: Acad/OIST Co-Hosted, Acad/OIST Executive WS, Acad/Section Co-hosted, Acad/Section Hosted, Acad/Unit Co-hosted, Acad/Unit hosted

令和4年度OISTセッション・ユニット主催/共催及びOIST名義上共催学術会議

	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数 (リモート 参加含む)	内、会場参 加者	内、リモ ート参加者	内、海外参加者 (リモート参加含 む)
1	2022年4月21日	2022年4月22日	The 1st Workshop on Nobel Turing Challenge	オンライン (Zoom)	83	0	83	不明
2	2022年4月25日	2022年4月26日	"Oceans – and the impact of humans and climate change" - OIST- Tohoku U. 2nd Joint Workshop on Marine Science	OISTメインキャンパス 及びZoom	141	43	98	7
3	2022年5月11日	2022年5月11日	令和4年度国際会議「幾何学モデルとプロセス: GMP2022」	オンライン (Zoom)	91	0	91	85
4	2022年5月24日	2022年5月26日	Alumni Workshop 2022	OISTメインキャンパス	51	51	0	0
5	2022年6月2日	2022年7月4日	NEURO2022後の会議	OISTメインキャンパス	15	15	0	0
6	2022年7月4日	2022年7月6日	アストロサイトについて	OISTメインキャンパス	25	25	0	1
7	2022年8月1日	2022年8月10日	OIST-KEIO International Research Summer Camp 2022	OISTメインキャンパス	38	38	0	0
8	2022年8月16日	2022年8月19日	SHIMA	OISTメインキャンパス、 OISTカンファレンス・ センター及びOISTシー ーサイドハウス	18	18	0	0
9	2022年8月27日	2022年8月28日	ALIFE Workshop 2022	OISTシーサイドハウス	25	25	0	0
10	2022年9月7日	2022年9月9日	酵母遺伝学フォーラム第55回研究報告会	OISTカンファレンス・ センター	239	167	72	0
11	2022年9月8日	2022年9月9日	第10回植物イメージングの会	OISTメインキャンパス	23	23	0	0
12	2022年9月12日	2022年9月15日	水産養殖ワークショップ	OISTメインキャンパス 及びOISTシーサイドハ ウス	20	20	0	4
13	2022年9月23日	2022年9月30日	QEdサマースクール2022	OISTメインキャンパス 及びリザンシーパークホ テル	140	85	55	0
14	2022年10月8日	2022年10月10日	SKY Labo x OIST: STEAM & Design Thinking Workshop	OISTカンファレンス・ センター	15	15	0	0
15	2022年10月24日	2022年10月25日	OIST-Tohoku University Joint Workshop on Biodiversity: From Genes and Species to Ecosystem Services and Resilience	東北大学	157	56	101	10
16	2022年10月31日	2022年10月31日	人為環境への生態学アプローチ：基礎から応用まで	OISTカンファレンス・ センター	35	30	5	0
17	2022年11月1日	2022年11月1日	Nobel Turing Challenge Initiative (NTCI): The 2nd Workshop on Nobel Turing Challenge	RIKEN (神戸キャンパ ス)、Zoom	98	98	0	不明
18	2022年11月2日	2022年11月4日	OIST-Kyoto University Joint Workshop -Challenges in Biomedical Complexity-	OISTメインキャンパス	100	70	30	2
19	2022年11月9日	2022年11月11日	Silver Workshop V: Complex Geometry and related topics	OISTメインキャンパス	25	20	5	3
20	2022年11月21日	2022年11月22日	ラダーポリマー研究会 第二回ワークショップ	OISTシーサイドハウス、 OISTカンファレンス・ センター	18	18	0	0
21	2022年11月22日	2022年11月22日	Collective Intelligence in Living/Non-Livings Populations	OISTメインキャンパス	25	25	0	0
22	2022年11月25日	2022年11月25日	第7回おきなわマリンサイエンスワークショップ	琉球大学	50	50	0	0
23	2022年11月25日	2022年11月25日	Workshop on Life Mind Continuity	OISTカンファレンス・ センター	40	40	0	0
24	2022年12月1日	2022年12月1日	OIST/Humanoids 2022 Joint Workshop	OISTカンファレンス・ センター	70	70	0	30
25	2022年12月17日	2022年12月17日	Neural Computation Workshop 2022	OISTシーサイドハウス	46	33	13	2
26	2022年12月21日	2022年12月21日	沖縄における侵略的外来種と取組事例ワークショップ	OISTカンファレンス・ センター	80	50	30	0
27	2022年12月26日	2022年12月27日	GEAR5.0 第1回ライフサイエンス・カンファレンス	OISTカンファレンス・ センター	55	55	0	0
28	2023年1月16日	2023年1月18日	Geometric PDEs and Applications	OISTメインキャンパス 及びZoom	16	14	2	8
29	2023年2月1日	2023年2月2日	Inclusive Leadership Symposium 2023	OISTカンファレンス・ センター	138	138	0	11
30	2023年2月6日	2023年2月10日	2023 Cryo-Electron Microscopy Course at OIST	OISTメインキャンパス	37	37	0	4
31	2023年2月27日	2023年2月28日	Japan-U.S. Science Communication and Policy Fellowship Network	OISTメインキャンパス	31	28	3	16
32	2023年2月27日	2023年3月3日	沖縄学際科学国際会議 (ISCO2023) - 物理学・数学と医学の出会い -	OISTカンファレンス・ センター	135	134	1	25
33	2023年3月10日	2023年3月10日	COI-NEXT グローバル・バイコンバージェンスイノベーション共 創拠点 キックオフシンポジウム -One World One Health: 「心・ 体・環境の健康」を基盤とした持続可能型社会の実現-	OISTカンファレンス・ センター	241	199	42	11
34	2023年3月21日	2023年3月25日	OIST x OYW Spring Camp 2023	OISTメインキャンパス	30	30	0	0
合計					2351	1720	631	219

添付資料2.4-1 職位毎・国籍別職員数

役職名称	定年制				任期制				非常勤				派遣				総計				総計
	女性	男性	うち外国人	定年制 集計	女性	男性	うち 外国人	任期制 集計	女性	男性	うち 外国人	非常勤 集計	女性	男性	うち 外国人	派遣 集計	女性	男性	うち 外国人	合計	
副学長					2	6	4	8									2	6	4	8	8
准副学長					2		2	2									2	0	2	2	2
ディーン						1	1	1									0	1	1	1	1
シニアマネジャー		3		3	5	8	4	13									5	11	4	16	16
マネジャー	1			1	10	8	3	18									11	8	3	19	19
アシスタントマネジャー					7	6	2	13									7	6	2	13	13
リサーチサポートスペシャリスト					3	5	4	8									3	5	4	8	8
スペシャリスト	1	1		2	24	25	18	49									25	26	18	51	51
情報技術エンジニア						12	9	12									0	12	9	12	12
アドミニストレイティブスタッフ	1	1		2	145	37	25	182									146	38	25	184	184
リサーチユニットアドミニストレーター					42			42									42	0	0	42	42
非常勤									1	4		5					1	4	0	5	5
派遣職員													68	11	15	79	68	11	15	79	79
	3	5		8	240	108	72	348	1	4		5	68	11		79	312	128	87	440	440
准副学長		1		1													0	1	0	1	1
シニアマネジャー						2	1	2									0	2	1	2	2
マネジャー																	0	0	0	0	0
アシスタントマネジャー					1	2	1	3									1	2	1	3	3
リサーチサポートリーダー	1	1		2		7	4	7									1	8	4	9	9
リサーチサポートスペシャリスト					11	25	20	36									11	25	20	36	36
スペシャリスト					1		3	1									1	0	3	1	1
情報技術エンジニア						2	5	2									0	2	5	2	2
リサーチサポートテクニシャン					1	3	2	4									1	3	2	4	4
アドミニストレイティブスタッフ					8	2		10									8	2	0	10	10
非常勤									2			2					2	0	0	2	2
派遣職員													11	9	5	20	11	9	5	20	20
	1	2		3	22	43	36	65	2			2	11	9	5	20	36	54	41	90	90
教授					7	33	24	40									7	33	24	40	40
准教授					9	28	23	37									9	28	23	37	37
グループリーダー					4	12	7	16									4	12	7	16	16
スタッフサイエンティスト					14	57	44	71									14	57	44	71	71
サイエンス・テクノロジーアソシエイト					11	6	9	17									11	6	9	17	17
ポストドクトラルスカラー					55	137	177	192									55	137	177	192	192
リサーチユニットテクニシャン					56	65	65	121									56	65	65	121	121
非常勤									20	12	7	32					20	12	7	32	32
リサーチユニットアドミニストレーター					21			21									21	0	0	21	21
派遣職員													5	1	1	6	5	1	1	6	6
					177	338	349	515	20	12	7	32	5	1	1	6	202	351	357	553	553
				11	439	489	457	928	23	16	7	39	84	21	6	105	550	533	485	1083	1083

2023/03/31現在

		国籍	Admin	RSD	研究部門	研究部門	合計
					(Faculty/Researcher)	(左記以外)	
1	AR	アルゼンチン			2		2
2	AT	オーストリア			2	2	4
3	AU	オーストラリア	4	1	4	2	11
4	BD	バングラデシュ		1	1		2
5	BE	ベルギー			5	2	7
6	BG	ブルガリア	1			1	2
7	BJ	ベニン				1	1
8	BR	ブラジル			5	3	8
9	CA	カナダ	5	1	3	1	10
10	CH	スイス	1	1	1		3
11	CN	中国	2		29	7	38
12	CO	コロンビア	2		1		3
13	CR	コスタリカ			1		1
14	CZ	チェコ			2	2	4
15	DE	ドイツ	3		15	6	24
16	DZ	アルジェリア				1	1
17	EG	エジプト	1		1	1	3
18	ES	スペイン	2		6	1	9
19	FI	フィンランド	1		1		2
20	FR	フランス	3	2	15	6	26
21	GB	イギリス	9		13	8	30
22	GE	ジョージア				2	2
23	GH	ガーナ			1		1
24	GR	ギリシャ			1	2	3
25	HK	香港			1		1
26	HU	ハンガリー			1		1
27	ID	インドネシア	1	1	3	1	6
28	IE	アイルランド		1	4	2	7
29	IL	イスラエル	2		1	2	5
30	IN	インド	4		40	5	49
31	IR	イラン				1	1
32	IT	イタリア		2	12	2	16
33	JP	日本	356	54	62	134	606
34	KR	韓国	2	2	3	2	9
35	KZ	カザフスタン			1	1	2
36	LK	スリランカ			1	1	2
37	LT	リトアニア	1		1	1	3
38	LY	リビア		1			1
39	MG	マダガスカル		1			1
40	MX	メキシコ	1		4	2	7
41	MY	マレーシア			4		4
42	NG	ナイジェリア	1				1
43	NL	オランダ			1	3	4
44	NZ	ニュージーランド		1	3		4
45	PE	ペルー			1	1	2
46	PH	フィリピン	3	1	1	2	7
47	PK	パキスタン				1	1
48	PL	ポーランド			4		4
49	RO	ルーマニア			2	1	3
50	RU	ロシア連邦	1	2	8	12	23
51	SA	サウジアラビア	1				1
52	SE	スウェーデン		1	1	2	4
53	SK	スロバキア			1	1	2
54	TN	チュニジア	1	1			2
55	TR	トルコ			2	3	5
56	TW	台湾	3	4	6	5	18
57	UA	ウクライナ	1	1	2		4
58	US	アメリカ	22	8	20	15	65
59	VN	ベトナム	1		2	1	4
60	YE	イエメン				1	1
61	ZA	南アフリカ	1				1
62	ZM	ザンビア			1		1
63	ZW	ジンバブエ				1	1
64	ZZ	海外	9	3			12
			445	90	302	251	1088

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園(法人番号6360005004186)の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任を鑑み、国際的水準を加味した報酬支給水準を設定した。
特に、理事長(学長)については、国際的に最高水準の研究機関における組織管理を行った実績や国際的に高い水準の教授陣を統率しうる研究者、教育者としての人望・実績を有する、国際競争の中で有為な人材を担保する必要があることから、相応の処遇が必要となる。

② 令和3年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

国際的に卓越した科学的な教育研究における経験、職務の困難度、過去の実績等を勘案して特に必要と認める場合に、常勤役員に対して特別調整手当を支給することができるものとしている。

③ 役員報酬基準の内容及び令和3年度における改定内容

法人の長

1. 役員報酬基準の内容

役員報酬は本俸(年額)、特別調整手当、通勤手当及び住居手当であり、本俸の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、理事会において決定する。
国際的に最高水準の研究機関における組織管理を行った実績や国際的に高い水準の教授陣を統率しうる研究者、教育者としての人望・実績を有する、国際競争の中で有為な人材を担保する必要があることから、相応の処遇が必要となる。

2. 令和3年度の改定内容 改定なし。

理事

1. 役員報酬基準の内容

役員報酬は本俸(年額)、特別調整手当、通勤手当及び住居手当であり、本俸の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、理事会において決定する。

2. 令和3年度の改定内容 改定なし。

理事(非常勤)

1. 役員報酬基準の内容

非常勤役員の報酬はその勤務形態を考慮し、職に応じて、理事会によって定められる。

2. 令和3年度の改定内容 改定なし。

監事

1. 役員報酬基準の内容
役員報酬は本俸(年額)、特別調整手当、通勤手当及び住居手当であり、本俸の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、理事会において決定する。

2. 令和3年度の改定内容
改定なし。

監事(非常勤)

1. 役員報酬基準の内容
非常勤役員の報酬はその勤務形態を考慮し、職に応じて、理事会によって定められる。

2. 令和3年度の改定内容
改定なし。

2 役員の報酬等の支給状況

役名	令和3年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
		報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
法人の長	千円 75,024	千円 30,000	千円	千円 45,024 (通勤/特別調整手当)			
A理事	千円 15,018	千円 15,000	千円	千円 18 (通勤手当)		12月31日	※
B理事	千円 5,303	千円 5,000	千円	千円 303 (住居/通勤手当)	1月1日	3月31日	*※
C理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()			※
D理事 (非常勤)	千円 660	千円	千円	千円 ()			
E理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()			
F理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()			
G理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()			
H理事 (非常勤)	千円 535	千円	千円	千円 ()	7月1日		
I理事 (非常勤)	千円 678	千円	千円	千円 ()	5月1日		
J理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()			
K理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()			

L理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()		3月31日	
M理事 (非常勤)	千円 900	千円	千円	千円 ()			
N理事 (非常勤)	千円 660	千円	千円	千円 ()			
O理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()			
P理事 (非常勤)	千円 163	千円	千円	千円 ()		5月31日	
Q理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()			※
R理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()			
S理事 (非常勤)	千円 740	千円	千円	千円 ()			
A監事	千円 15,000	千円 15,000	千円	千円 ()			◇
B監事 (非常勤)	千円 3,400	千円 3,400	千円	千円 ()			
C監事 (非常勤)	千円 3,400	千円 3,400	千円	千円 ()			

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

3 役員の報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性・職務の困難度、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性・職務の困難度、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性、ノーベル賞受賞者等その識見に照らし妥当である。

監事

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

監事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

【主務大臣の検証結果】

学園の理事(法人の長を含む。)は、人格が高潔で学識に優れ、学園の業務を適切かつ効果的に運営することができる能力を有する者であることが求められていることから、その報酬については、国際的な水準との均衡等を考慮した結果、妥当なものであると考えられる。

4 役員の退職手当の支給状況(令和3年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	前職
法人の長	千円 該当者なし	年	月			
A理事	千円 14,124	年 6	月 9	12月31日	1.0	※
監事	千円 該当者なし	年	月			

注1:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

注2:B理事が令和4年3月31日に退職しているが、退職手当未支給のため本表に記載しない。

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	該当者なし
A理事	退職手当支給額は、「独立行政法人、特殊法人及び認可法人の役員の退職金について」(平成15年12月19日閣議決定(平成27年3月24日一部改正))に準じた方法により算出されており、また、業績勘案率は理事会において、在職期間中の業績を勘案して決定されており、妥当なものであると考えられる。
監事	該当者なし

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

業績給に類似のものとして、国際的に卓越した科学的な教育研究における経験、職務の困難度、過去の実績等を勘案して特に必要と認める場合に、常勤役員に対して特別調整手当を支給することができる仕組みを導入済みである。今後も同仕組みを継続する。

Ⅱ 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

職種毎に、国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準の動向等を踏まえた適切な年俸範囲を定め、その範囲内で個々の業績を反映した給与水準を決定する。
研究部門においては、沖縄科学技術大学院大学における国際的に最高水準の研究者に対する研究管理や評価を実施できる者が必要であり、国際競争の中で国際的な水準に見合った相応の処遇が必要となる。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させる。

③ 給与制度の内容及び令和3年度における主な改定内容

1. 給与制度の内容

給与の種類: 年俸、超過勤務手当、その他の手当(通勤、住居手当等)

給与体系: 年俸制(職種(教員、研究者、事務スタッフ等)と職層に基づく給与レンジを設定)

2. 令和3年度における主な改定内容

引き続き、以下の措置を講じた。

(1) 給与水準の適正化

業績評価を徹底し、昇給への反映を厳格に行うとともに、今後、定年制職員を採用する場合において、能力に遜色ないときは、若年層から積極的に採用する。

(2) 法人全体の職員の給与水準の抑制

上記(1)の取組に加え、任期制職員についても、若年層の採用を促進し、法人全体の給与水準の抑制を図る。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	令和3年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内	うち通勤手当	うち賞与
常勤職員	人	歳	千円	千円	千円	千円
	12	51.1	9,713	9,713	149	0
	人	歳	千円	千円	千円	千円
事務・技術	12	51.1	9,713	9,713	149	0
研究職種	人	歳	千円	千円	千円	千円
	-	-	-	-	-	-
任期付職員	人	歳	千円	千円	千円	千円
	657	43.3	7,480	7,480	89	0
	人	歳	千円	千円	千円	千円
	67	50.9	16,661	16,661	32	0
事務・技術	人	歳	千円	千円	千円	千円
	354	44.2	6,254	6,254	116	0
研究職種	人	歳	千円	千円	千円	千円
	236	39.7	6,711	6,711	65	0
在外職員	人	歳	千円	千円	千円	千円
	-	-	-	-	-	-

注1: 常勤職員については、在外職員を除く。

注2: 常勤職員、任期付職員の該当者がいない職種については記載を省略。

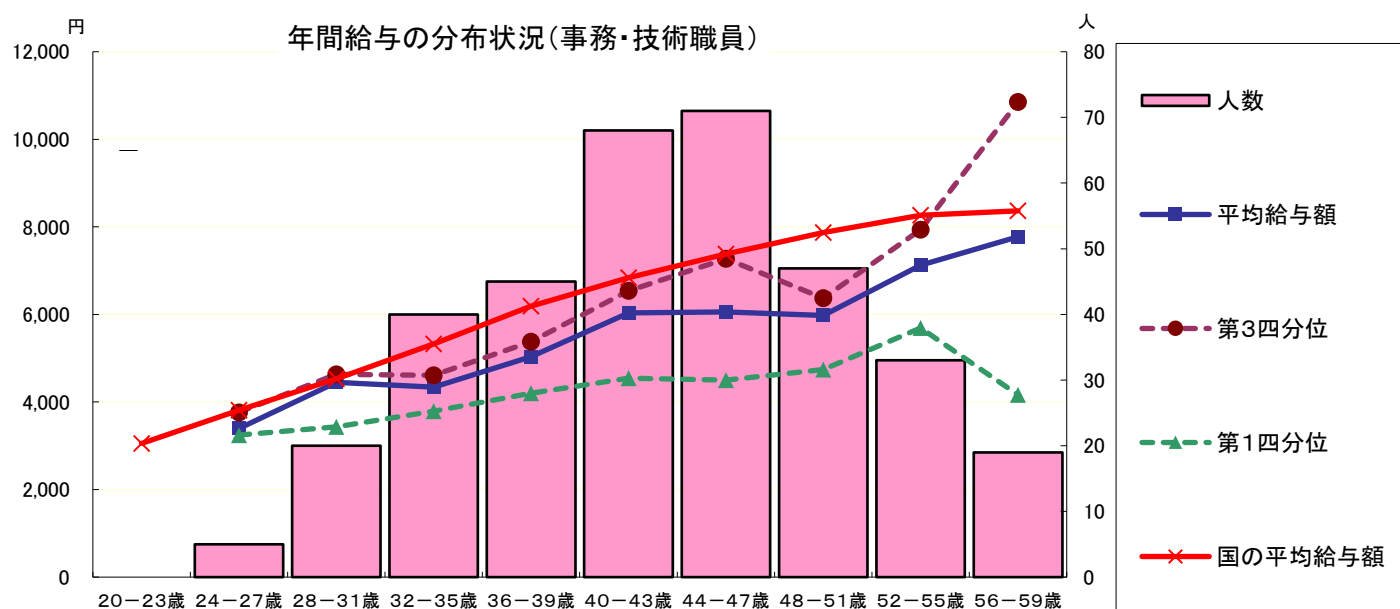
注3: 再任用職員及び非常勤職員は該当者がいないため記載を省略。

注4: 常勤職員、任期付職員は全て年俸制適用者である。

注5: 在外職員とは海外拠点の年俸制適用者である。

注6: 該当者が2人以下の場合、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、区分以外は省略。全体の数値からも除外。

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員)〔在外職員除く。以下、④まで同じ。〕



注1:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2:【20-23】の年齢層において、該当者が4人以下であることから、第1・第3分位を表示していない。

③ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員)
(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額	
			平均	最高～最低
部長相当	23人	55.5歳	17,271千円	46,200～9,410千円
課長相当	33	49.8	9,333	12,349～6,977
課長補佐相当	50	44.7	6,716	9,543～5,131
主任相当	126	45.1	5,467	9,480～4,121
係員	134	40.4	4,164	8,980～2,469

④ 賞与(該当者なし)

区分		夏季	冬季	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～

3 給与水準の妥当性の検証等

○事務・技術員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	・年齢勘案 84.0 ・年齢・地域勘案 93.8 ・年齢・学歴勘案 82.7 ・年齢・地域・学歴勘案 92.9
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	
給与水準の妥当性の 検証	(法人の検証結果) 年齢勘案で、令和2年度86.2、令和3年度84.0と対国家公務員指数は100以下となっている。これまで講じてきた給与水準の引下げに向けた種々の取組により、給与水準の適正化が図られている。 (主務大臣の検証結果) 学園においては研究・教育が英語で行われ、また、教員・学生の半数以上を外国人が占めるなど国際的な環境の下、世界最高水準の教育研究を行っており、そのような研究者の支援等を担う事務職員も高度な専門性を有することが求められ、優秀な人材の確保を必要としていると認識している。こうした中、学園の給与水準の適正化のための取組が行われてきた結果、対国家公務員指数については、おおむね妥当な水準となっており、これらの取組が引き続き着実に実施されるよう、今後とも注視していく。
講ずる措置	今後とも引き続き、 ①能力に遜色がない場合は、中堅・若年層を計画的に採用 ② 業務評価を徹底し、昇給反映の厳格化を行うことで適正な給与水準を保つ。

4 モデル給与

注：年俸制のみのため、記載を省略。

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させる。今後も同仕組みを継続する。

Ⅲ 総人件費について

区 分	前年度 (令和2年度)	当年度 (令和3年度)
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 6,866,693	千円 7,347,390
退職手当支給額 (B)	千円 4,159	千円 15,693
非常勤役職員等給与 (C)	千円 74,000	千円 64,078
福利厚生費 (D)	千円 759,126	千円 816,427
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 7,703,978	千円 8,243,588

総人件費について参考となる事項

- ・沖縄科学技術大学院大学における科学技術に関する世界最高水準の教育研究の推進に当たっては、国際的に最高水準の研究能力を有する研究者等が必要であることから、国際競争の中で国際的な水準に見合った相応の処遇が必要となる。
- ・令和3年度については、職員等が前年比46名増加したため、総人件費が増額になっている。
- ・「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)を踏まえ、役職員の退職手当について、平成25年4月1日から、国家公務員の退職手当の改正に準じて、退職手当の算定額に調整率(平成25年10月から平成26年6月まで92/100、平成26年7月以降は87/100)を乗じた額を支給することにより減額し、平成30年1月以降は、平成29年11月17日閣議決定に基づき、さらに83.7/100へ引き下げた。

Ⅳ その他

特になし。

Attachment2.4-3 添付資料2.4-3
令和4年度（FY2022） 研修実績・HR
2023.3.31時点

区分 Training Category	コース名 Course Name	実施方法 Method	実施回数 # of times	参加人数 # of participation
新入職員 New Employee	新入職員オリエンテーション New Employee Orientation	Zoom	12	254
	実務者研修（新入職員向け Accounting and Document Management Training	対面	12	68
	新卒研修 New Grads Business Training	対面	2	2
管理職研修 Management Development （組織力強化）	アンコンシャスバイアス Unconscious Bias	対面	3	37
	コンフリクトマネジメント Conflict Management	対面	3	42
職員研修 Staff Development （組織力強化）	アサーティブコミュニケーション（Follow-up Assertive Communication	対面	2	14
	アンコンシャスバイアス Unconscious Bias	対面	3	57
	コンフリクトマネジメント Conflict Management	対面	4	72
Total			41	546

For-T (Forty-Hour Learning Target) FY2022	在籍者数（休職中、年度途中の退職者を除く	平均学習時間	学習時間達成率	目標達成者数
	423	30.6	81%	206

LinkedIn Learning	登録者数	ログイン数	ログイン率	平均視聴時間(分)
エンゲージメント	644	347	53.90%	338
前年度比	7%	-20%	-26%	-30%

研究支援ディビジョンがコアファシリティを使って行った共同研究の数

Number of joint researches hosted at Core Facilities of Research Support Division

No	Section Name/ セクション名	Collaboration with/共同研究機関名	Number/ 件数	Visitors/ 人数
1	Engineering/エンジニアリング	RIKEN/国立研究開発法人理化学研究所	1	0
2	Engineering/エンジニアリング	Yamaguchi University/国立大学法人山口大学	1	0
3	Imaging/イメージング	Korea Research Institute of Bioscience and Biotechnology	1	0
4	Imaging/イメージング	University of the Ryukyus/国立大学法人琉球大学	3	2
5	Imaging/イメージング	Osaka University/国立大学法人大阪大学	2	0
6	Imaging/イメージング	Mie University/国立大学法人三重大学	1	1
7	Imaging/イメージング	The University of Tokyo/国立大学法人東京大学	1	1
8	Instrumental Analysis/機器分析	National Institute for Environmental Studies/国立環境研究所	1	0
9	Instrumental Analysis/機器分析	University of the Ryukyus/国立大学法人琉球大学	1	0
10	ESI*/環境科学・インフォマティクス	Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine/帯広畜産大学	1	1
11	ARS**/実験動物セクション	Private company/民間企業	1	0
Total			14	5

*ESI: Environmental Science and Informatics Section

**ARS: Animal Resources Section

添付資料2.4-1 令和4年度 研修の受講職員数

令和4年度 セミナー・会議・コース

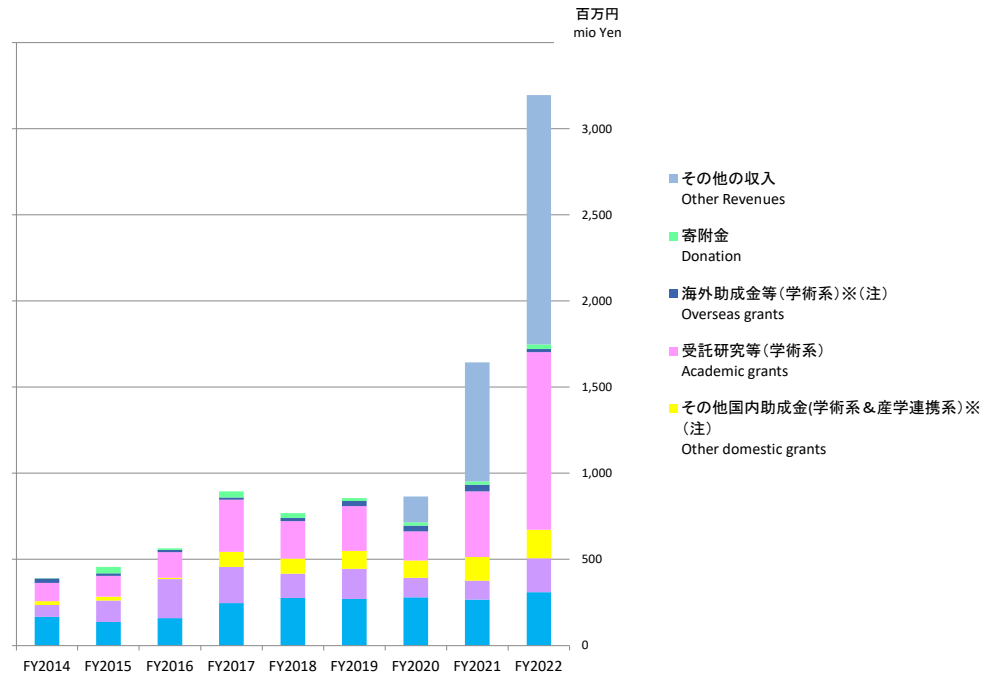
セミナー・会議・コース	対象者（記入例：アドミ、研究者、業者等）	参加人数	登壇者（発表言語）	開催日
科研費国際先導研究会議	研究者	8	Nicholas Luscombe, Keshav Dani, Kenji Doya, Tomoki Fukai, Vincent Laudet, Timothy Ravasi & 姚（英語）	2022/4/1
JST創発オリエンテーション	研究者	10	合田 裕紀子、姚（英語）	2022/6/10
科研費書き方クリニック(1)	研究者	23	Nick Luscombe, Kathy Takayama サポート&質疑応答：杉原、藤松、山野、天願、姚（英語）	2022/9/8
科研費書き方クリニック(2)	研究者	22	Nick Luscombe, Kathy Takayama サポート&質疑応答：杉原、藤松、山野、天願、姚（英語）	2022/9/21
Explanatory session for first time KAKENHI awardees（英語）	研究者	20 (Researcher: 17)	OIST 天願 鈴菜（英語）	2023/3/30

科研費支援セッション

内容	対象	参加者	担当	開催日
科研費交付申請	研究者	7	天願、藤松、上原	2022/4/4
科研費交付申請	研究者	13	天願、藤松、上原	2022/4/5
科研費実績報告	研究者	8	天願、藤松、上原	2022/5/16
科研費実績報告	研究者	9	天願、藤松、上原	2022/5/18
科研費申請サポートセッション(1)	研究者	15	姚、山野、藤松、天願	2022/9/14
科研費申請サポートセッション(2)	研究者	15	姚、山野、藤松	2022/9/15
科研費申請サポートセッション(3)	研究者	15	姚、山野、藤松、天願	2022/9/16

Acquisition of External Funding (as of Mar 31, 2023)/外部資金獲得状況

分類 Category	FY2014		FY2015		FY2016		FY2017		FY2018		FY2019		FY2020		FY2021		FY2022	
	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#
科研費(学術系)/Kakenhi (Kakenhi Academic Grants)	165,266,341	54	137,160,016	47	158,517,697	56	245,254,159	86	276,201,309	109	270,013,444	122	279,366,196	126	266,250,000	127	308,720,377	136
受託研究等(産学連携系) Grants for collaborations industries etc.	69,994,690	10	124,337,784	10	227,151,400	18	210,513,791	20	140,701,256	21	173,956,670	17	113,827,496	14	110,444,030	17	197,708,273	23
その他国内助成金(学術系&産学連携系)※(注) Other domestic grants	22,635,500	11	20,989,419	6	7,116,234	10	87,587,000	37	87,523,000	48	105,620,345	55	100,231,726	40	137,844,000	54	165,102,058	79
受託研究等(学術系) Academic grants	104,967,000	5	120,758,500	7	149,131,000	6	302,781,001	10	217,504,200	10	258,767,900	13	169,562,500	21	379,884,880	27	1,031,706,842	26
海外助成金等(学術系)※(注) Overseas grants	27,166,059	3	16,015,264	3	11,916,945	1	13,335,884	2	18,395,330	4	30,798,406	4	33,552,811	6	39,242,711	11	18,926,962	7
寄附金 Donation	1,075,960	7	36,417,498	13	10,644,779	13	34,747,672	27	28,227,199	24	15,975,729	39	18,407,587	54	18,048,052	102	24,433,551	62
その他の収入 Other Revenues													149,222,149	8	691,980,599	6	1,448,700,027	16
	391,105,550		455,678,481		564,478,055		894,219,507		768,552,294		855,132,494		864,170,465		1,643,694,272		3,195,298,090	

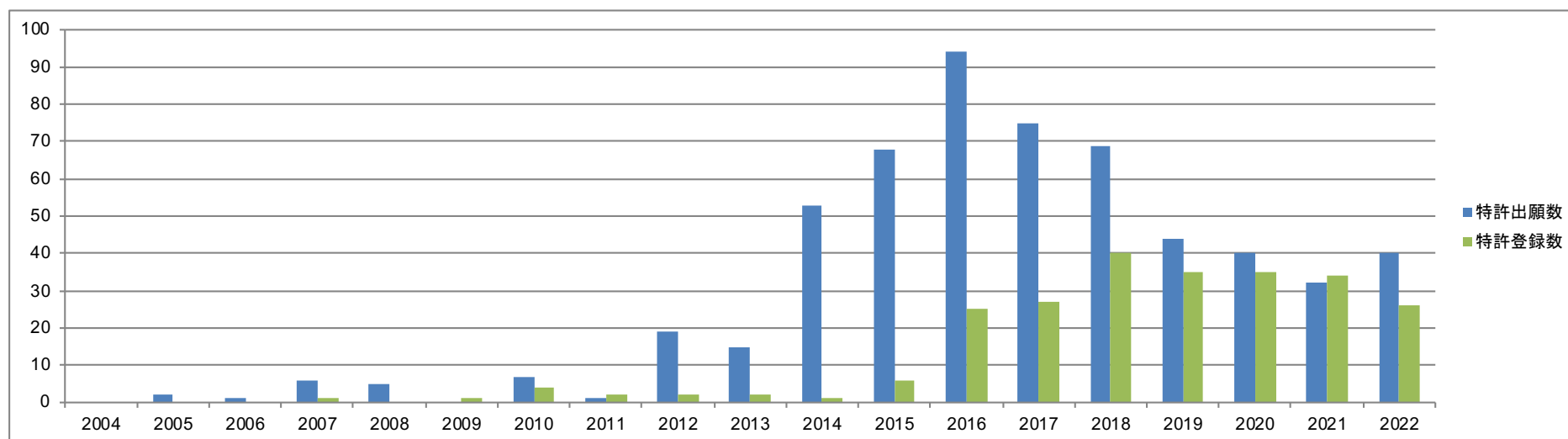


添付資料4. 1-1特許状況

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
特許出願数	0	2	1	6	5	0	7	1	19	15	53	68	94	75	69	44	40	32	40
特許登録数	0	0	0	1	0	1	4	2	2	2	1	6	25	27	40	35	35	34	26

* FY2022(令和4年度) は見込み数

**数値は特許以外の知的財産を含む(商標等)



添付資料4. 1-2 令和4年度 POC プロジェクト

POC プロジェクト

No	プロジェクト名	新規/継続	代表研究者	プロジェクトタイプ (ITR, フェーズ I/II, TPF)
1	全固体リチウムイオン電池の開発	継続	ヤビン チー	ITR
2	ADHDの子供を持つ保護者のための教育プログラムの開発	継続	ゲイル トリップ	ITR
3	血中の低分子を用いた老化判定法の開発	継続	柳田 充弘	ITR
4	沖縄型神経原性筋萎縮症の治療に向けたモデルマウス研究	継続	山本 雅	ITR
5	有機廃水処理用リアクターモジュールの開発	継続	デヴィッド シンプソン	TPF
6	OIST難消化米実用化のための臨床試験研究	継続	佐瀬 英俊	Phase II
7	レーザー駆動マイクロプラズマを利用した極紫外線光源装置の開発	継続	ケシャブ ダニ	ITR
8	イオンモビリティを用いた新規低分子構造判定法	継続	渡邊 寛	Phase II
9	空気中で安定な有機発光材料の開発	継続	嘉部 量太	ITR
10	コンピュータを利用したリアルタイム交流による精神障害リスクの早期発見	継続	トム フロース	ITR
11	フェムト秒レーザーを用いたアテローム切除術を可能にするファイバーエンドキヤップ装置の開発	継続	ヴィクトラス リスソヴァス	TPF
12	ハイスループットプロテオミクス用タンパク質マイクロアレイ・ナノアレイ	継続	サティッシュ シヴァニ	TPF
13	メタボロミクス所見に基づいたフレイル治療法の検証	継続	柳田 充弘	Phase I
14	特殊酵母を用いたアスタキサンチンの生産系の開発	継続	ユージン クロール	Phase I
15	ヒト脳オルガノイドモデルを使った α -シヌクレイン凝集を利用した薬物スクリーニングプラットフォームの開発	新規	ベアン クン	Phase I
16	ポリマー中の機械的ストレスおよびダメージを検出する機械的刺激応答性材料	新規	ジュリア クスヌディノワ	Phase I
17	脳疾患用の創薬スクリーニングのためのシナプスプロテオミクスと幹細胞リプログラミング	新規	高橋 智幸	Phase II
18	養豚場向け低コスト・低メンテナンスのスケールアップ高度排水処理装置の開発	新規	イゴール ゴリヤニン	Phase II
19	再生医療用3次元スキャフォールド、ハイドロゲル、およびインプラント用のナノ	新規	マルコ テレンツィオ	Phase I
20	アスリートの身体機能管理をサポートする尿検査サービスの開発	新規	照屋 貴之	TPF

添付資料 4. 1-3 令和4年度（2022）のスタートアップ

スタートアップ

No	企業名	新規/継続	タイプ (OIST技術/アクセラレーター/外部)	場所 (ラボ3/インキュベーター/その他)
1	沖縄プロテイントモグラフィ株式会社	継続	OIST技術	第3研究棟
2	BioAlchemy株式会社	継続	OIST技術	インキュベーター
3	Watasumi株式会社	新規	OIST技術	インキュベーター
4	株式会社ACIリサーチ	新規	OIST技術	インキュベーター
5	REPS JAPAN株式会社	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
6	EF Polymer株式会社	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
7	Sage Sentinel	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
8	Genome Miner	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
9	HerLifeLab株式会社(Menopause and Beyond)	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
10	株式会社 Tree Oceans(ANDA)	新規	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
11	大阪ヒートクール株式会社	新規	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
12	株式会社SAVORY	継続	外部	インキュベーター
13	株式会社ハナハナワークスおきなわ	継続	外部	インキュベーター
14	株式会社SPEC	継続	外部	インキュベーター
15	株式会社ビーンズラボ	継続	外部	インキュベーター
16	特定非営利活動法人ミラツク	継続	外部	インキュベーター
17	株式会社サザンナイトラボラトリー	継続	外部	インキュベーター
18	株式会社マネリア	継続	外部	インキュベーター
19	株式会社ハヤト・インフォメーション	継続	外部	インキュベーター
20	Portbridge	継続	外部	インキュベーター
21	Haitai株式会社(Kenko Leaf)	継続	外部	インキュベーター
22	Cgreen(Miwa Mega)	継続	外部	インキュベーター
23	Cultivera	継続	外部	インキュベーター
24	Ess-sense	継続	外部	インキュベーター
25	H.KLAB.	継続	外部	インキュベーター
26	琉球アスティーダスポーツクラブ株式会社	継続	外部	インキュベーター
27	株式会社MTG Ventures	継続	外部	インキュベーター
28	一般社団法人 HAPPY EARTH	継続	外部	インキュベーター
29	Shima & Co.	継続	外部	インキュベーター
30	株式会社いいにおい	継続	外部	インキュベーター
31	株式会社リリーフアシスト(株式会社クリビオ)	継続	外部	インキュベーター
32	株式会社レキサン	新規	外部	インキュベーター
33	株式会社バイオマスレジホールディングス	新規	外部	インキュベーター

添付資料 4. 1-4 令和4年度受託研究等（産学連携）及びイベント

受託研究等（産学連携）

No	事業名	新規・継続	連携機関	キーワード	OIST研究者
1	譲渡契約	継続	機密	センサー	シーレ・ニコーマック
2	譲渡契約	新規	機密	創薬	横林洋平
3	共創の場形成支援プログラム（COI--NEXT）琉球大学	新規	琉球大学	アントレプレナーシップ	TDIC
4	沖縄イノベーション・エコシステム共同研究推進事業	新規	沖縄科学技術振興センター	環境	イゴール・ゴリヤニン
5	沖縄イノベーション・エコシステム共同研究推進事業	新規	沖縄科学技術振興センター	医療	山本雅
6	沖縄イノベーション・エコシステム共同研究推進事業	新規	沖縄科学技術振興センター	環境	佐藤矩行
7	沖縄県 外来種対策事業	新規	沖縄県環境科学センター	環境	環境科学・インフォマティクスセクション
8	沖縄県 大学発SDGs社会課題解決型科学技術プロジェクト	新規	沖縄県	環境	福永泉美
9	包括協定	新規	日本政策投資銀行	アントレプレナーシップ	TDIC
10	包括協定	新規	インスパイア	アントレプレナーシップ	TDIC
11	委託研究	継続	機密	環境	佐藤矩行
12	委託研究	新規	ハイアットリージェンシー瀬良垣アイランド沖縄	環境	ティモシー・ラバン
13	委託研究	新規	沖縄県水産海洋技術センター	環境	佐藤矩行
14	共同研究	継続	機密	AI	銅谷賢治
15	共同研究	継続	機密	環境	御手洗哲司
16	共同研究	継続	機密	マイクロ流体食品	エイミー・シェン
17	共同研究	継続	機密	健康	山本雅
18	共同研究	継続	機密	AI	銅谷賢治
19	共同研究	継続	機密	健康	河野恵子
20	共同研究	継続	機密	健康	柳田充弘
21	共同研究	継続	機密	バイオメディカル	横林洋平
22	共同研究	継続	機密	バイオメディカル	カハル・キャッセディ
23	共同研究	継続	機密	エネルギー	新竹積
24	共同研究	継続	機密	研究	OIST
25	共同研究	新規	コランダム・システム・バイオロジー	健康	北野宏明
26	共同研究	新規	NTTドコモ九州支店	環境	佐藤矩行
27	共同研究	新規	機密	バイオ	ユージン・クロール
28	共同研究	新規	機密	健康	トム・フロース
29	共同研究	新規	機密	健康	北野宏明
30	共同研究	新規	機密	化学	TDIC
31	共同研究	新規	機密	量子	根本香絵
32	共同研究	新規	機密	エネルギー	ヤビン・チー
33	共同研究	新規	機密	AI	TDIC
34	ライセンス契約	継続	沖縄プロテイントモグラフィー	バイオ	TDIC
35	ライセンス契約	継続	O-Force	創薬	TDIC
36	ライセンス契約	継続	機密	環境	TDIC
37	ライセンス契約	継続	機密	環境	TDIC
38	ライセンス契約	継続	機密	化学	TDIC
39	ライセンス契約	新規	機密	健康	TDIC
40	オプション契約	新規	機密	健康	TDIC

No	事業名	新規・継続	連携機関	キーワード	OIST研究者
41	特許管理契約	新規	機密	健康	TDIC
42	試料移転契約	継続	機密	化学	ジュリア・クスヌディノワ
43	試料移転契約	継続	機密	環境	佐藤矩行
44	試料移転契約	継続	機密	健康 食品	佐瀬英俊
45	試料移転契約	継続	機密	化学	田中富士枝
46	試料移転契約	継続	機密	創薬	横林洋平
47	試料移転契約	新規	機密	健康	佐瀬英俊
48	覚書	継続	機密	研究	実験動物セクション
49	覚書	継続	機密	モビリティ	OIST
50	覚書	継続	機密	エネルギー	新竹積
51	覚書	継続	機密	アントレプレナーシップ	TDIC
52	覚書	継続	機密	アントレプレナーシップ	TDIC
53	覚書	継続	株式会社リウボウ商事	アントレプレナーシップ	TDIC
54	覚書	継続	株式会社ディーブコア	アントレプレナーシップ	TDIC
55	覚書	継続	沖縄振興開発金融公庫	アントレプレナーシップ	TDIC
56	覚書	新規	機密	アントレプレナーシップ	TDIC
57	覚書	新規	AgVenture Lab	アントレプレナーシップ	TDIC
58	覚書	新規	機密	環境	環境科学・インフォマティクスセクション
59	覚書	新規	機密	脳科学	トム・フロース
60	覚書	新規	FC琉球	脳科学	トム・フロース
61	覚書	新規	沖縄県産業振興公社	アントレプレナーシップ	TDIC
62	覚書	新規	株式会社Srurst	スタートアップ	TDIC
63	覚書	新規	機密	スタートアップ	TDIC
64	秘密保持契約	継続	機密	脳科学	ベアン・クン
65	秘密保持契約	継続	機密	健康	TDIC
66	秘密保持契約	継続	機密	エネルギー	新竹積
67	秘密保持契約	継続	機密	創薬	TDIC
68	秘密保持契約	継続	機密	研究	実験動物セクション
69	秘密保持契約	継続	機密	健康	柳田充弘
70	秘密保持契約	継続	機密	創薬	横林洋平
71	秘密保持契約	継続	機密	計測	渡邊寛
72	秘密保持契約	継続	機密	データサイエンス	イミル・トゥベール
73	秘密保持契約	継続	機密	データサイエンス	イミル・トゥベール
74	秘密保持契約	継続	機密	環境	環境科学・インフォマティクスセクション
75	秘密保持契約	継続	機密	健康	佐瀬英俊
76	秘密保持契約	継続	機密	創薬	横林洋平
77	秘密保持契約	継続	機密	マイクロバイーム	イゴール・ゴリヤニン
78	秘密保持契約	継続	機密	データサイエンス	イミル・トゥベール
79	秘密保持契約	継続	機密	素材	野村陽子
80	秘密保持契約	継続	機密	バイオメディカル	杉山（矢崎）陽子
81	秘密保持契約	継続	機密	アントレプレナーシップ	TDIC
82	秘密保持契約	継続	機密	脳科学	シーレ・ニコーマック

No	事業名	新規・継続	連携機関	キーワード	OIST研究者
83	秘密保持契約	継続	機密	物理	ケシャヴ・ダニ
84	秘密保持契約	継続	機密	マイクロ流体 食品技術	エイミー・シェン
85	秘密保持契約	継続	機密	データサイエンス	ジョナサン・ミラー
86	秘密保持契約	新規	機密	健康	TDIC
87	秘密保持契約	新規	機密	環境	TDIC
88	秘密保持契約	新規	機密	アントレプレナーシップ	TDIC
89	秘密保持契約	新規	機密	合成生物学	TDIC
90	秘密保持契約	新規	機密	センサー	エイミー・シェン
91	秘密保持契約	新規	機密	アントレプレナーシップ	TDIC
92	秘密保持契約	新規	機密	データサイエンス	イミル・トゥベール
93	秘密保持契約	新規	機密	物理	トーマス・ブッシュ
94	秘密保持契約	新規	機密	データサイエンス	イミル・トゥベール
95	秘密保持契約	新規	機密	脳科学	トム・フロース
96	秘密保持契約	新規	機密	脳科学	トム・フロース
97	秘密保持契約	新規	機密	環境	イゴール・ゴリヤニン
98	秘密保持契約	新規	機密	アントレプレナーシップ	TDIC
99	秘密保持契約	新規	機密	データサイエンス	イミル・トゥベール
100	秘密保持契約	新規	機密	アントレプレナーシップ	TDIC
101	秘密保持契約	新規	機密	素材	野村陽子
102	秘密保持契約	新規	機密	量子	久保結丸
103	秘密保持契約	新規	機密	健康	河野恵子
104	秘密保持契約	新規	機密	物理	ケシャヴ・ダニ
105	秘密保持契約	新規	機密	脳科学	トム・フロース
106	秘密保持契約	新規	機密	化学	田中富士枝
107	秘密保持契約	新規	機密	海洋科学	ジョナサン・ミラー
108	秘密保持契約	新規	機密	アントレプレナーシップ	TDIC
109	秘密保持契約	新規	機密	海洋科学	ジョナサン・ミラー
110	秘密保持契約	新規	機密	海洋科学	ジョナサン・ミラー
111	秘密保持契約	新規	機密	海洋科学	ジョナサン・ミラー
112	秘密保持契約	新規	機密	海洋科学	TDIC
113	秘密保持契約	新規	機密	海洋科学	ジョナサン・ミラー
114	秘密保持契約	新規	機密	海洋科学	ジョナサン・ミラー
115	秘密保持契約	新規	機密	健康	TDIC
116	秘密保持契約	新規	機密	海洋科学	ジョナサン・ミラー
117	秘密保持契約	新規	機密	センサー	新竹積
118	秘密保持契約	新規	機密	脳科学	杉山（矢崎）陽子
119	秘密保持契約	新規	機密	イメージング	TDIC
120	サービス契約	新規	ライフタイムベンチャーズ	アントレプレナーシップ	TDIC
121	その他契約	継続	ノバルティスバイオメディカル研 究所	創薬	TDIC
122	その他契約	新規	機密	AI	銅谷賢治
123	その他契約	新規	機密	物理	マヘッシュ・バンディ
124	その他契約	新規	機密	バイオ	TDIC

展示会						
No	事業名	開催日	場所	主催	内容	備考
1	JST新技術説明会	2022年7月	オンライン	JST	プレゼンテーション	
2	BioJapan	2022年10月	横浜	BioJapan組織委員会	ブース、商談会	
3	Nanotech	2023年3月	東京	nano tech実行委員会	ブース	
4	MedTech	2022年10月	ボストン			

技術開発イノベーションセンター主催のセミナー・イベント

No	演題	開催日	参加者
1	Fireside Chat: 「博士号取得者向けベンチャーキャピタルでのキャリア」 by UTEC	2022年4月	30
2	OIST Innovators Society Meetup: ライフタイムベンチャーズとのファイ ヤーサイドチャット	2022年4月	14
3	OIST Innovators Society Meetup: ワークショップ#4 - アーリーステージの 採用と給与	2022年5月	9
4	TDICサロンイベント	2022年5月	25
5	OIST Innovators Society Meetup: ワークショップ#5 - アーリーステージの 模擬採用面接	2022年5月	10
6	OIST Innovators Society Meetup: スタートアップの評価方法	2022年6月	12
7	一橋大学MBAインターンシップ説明会	2022年6月	30
8	AgVenture Lab-OIST スタートアップイベント	2022年7月	70
9	Zeissキャリアセミナー	2022年7月	16
10	Zeissイメージングセミナー	2022年7月	25
11	大学知財セミナー	2022年8月	11
12	OIST Innovators Society Meetup: 起業家トーク Fluigo	2022年9月	22
13	Deep Tech Entrepreneurship Training: 創業者の夢と取引	2022年9月	10
14	OIST Innovators Society Meetup: エンジェル投資	2022年9月	22
15	2022年度Lean Startup Entrepreneurial Training Program	2022年9月	37
16	関西経済同友会訪問	2022年10月	40
17	京都経済同友会訪問	2022年10月	25
18	大学知財部セミナー	2022年10月	13
19	OISTxライフタイムベンチャーファンドに関する朝食会（東京）	2022年10月	25
20	新潟経済同友会訪問	2022年10月	12
21	BRAVE Global Startup Bootcamp	2022年10月	30
22	経団連イノベーション・クロッシング（KIX） - スタートアップ・ピッチ	2022年10月	110
23	OIST Innovators Society Meetup: 起業家トーク Estelle Ingenuity	2022年10月	12
24	Deep Tech Entrepreneurship Training モジュール1-5	2022年10月	15
25	OIST Innovators Society Meetup: Ecoatoms	2022年11月	25
26	グローバル・アントレプレナーシップ・ウィーク OISTスタートアップ・ ピッチ	2022年11月	60
27	INOメンバーイベント	2022年11月	36
28	OIST Innovators Society Meetup: 「バイオメディカルサイエンスのイノ ベーションを加速する」	2022年11月	25
29	グローバル・アントレプレナーシップ・ウィーク TDICオープンハウス	2022年11月	35
30	グローバル・アントレプレナーシップ・ウィーク ファイヤーサイドチャッ ト 「バイオメディカルサイエンスのイノベーションを加速する：SPARKモ	2022年11月	35
31	Deep Tech Entrepreneurship Training マスタークラス1	2022年11月	10
32	知的財産権入門	2022年12月	37
33	沖縄懇話会ポスターセッション	2023年1月	100
34	OIST Innovators Society Meetup: 医療機器を市場に送り出す	2023年1月	26
35	デザインセミナー（DBIC & デンマークデザインセンター）	2023年1月	25
36	DBICクロージングディナーセッション	2023年1月	40
37	スタンフォードGSB同窓会訪問	2023年1月	9
38	Deep Tech Entrepreneurship Training マスタークラス2	2023年2月	10
39	DNXベンチャーズ訪問	2023年2月	14
40	三条工業会訪問	2023年2月	15
41	経団連バイオ産業代表団訪問	2023年2月	28
42	Deep Tech Entrepreneurship Training マスタークラス3	2023年3月	10
43	共創の場形成支援プログラム-ストリーム4/5 合同セッション	2023年3月	10
44	OIST Innovators Society Meetup: グローバル・ハンズオン・ベンチャー・ キャピタル	2023年3月	15
45	OIST Innovators Society Meetup: サステイナブルウェアに関するセミナー	2023年3月	35
		参加者総数	1225